

平成 27 年度版
学習指導要領を具体化する
小・中・高等学校国語科授業づくりガイドブック

コミュニケーション能力を高める

「話すこと・聞くこと」編



平成 28 年 3 月
岩手県立総合教育センター
教科領域教育担当

はじめに

ガイドブック作成の意図

このガイドブックは、「小・中・高等学校の先生方の授業改善に役立てたい」と考えて作成したものです。

『学習指導要領』や『学習指導要領解説国語編』等から求められる授業像を読み解き、文部科学省教科調査官や研究者、全国の研究校から指導法について学び、それを再構成してガイドブックにまとめました。

これによって、日常の授業改善のイメージがより具体化されることや、小・中・高等学校の系統性がより把握しやすくなることを期待しています。

授業づくりの現状分析

これまで、岩手県内の各学校において国語科の授業づくりはどのように行われてきたのでしょうか。

国語科を研究主題に取り上げている小学校では、授業づくりは複数の先生方によって協働的に行われ、多くの成果をあげてきました。しかし、それ以外の小学校や中・高等学校では、授業づくりは各先生方個人に任されてきたのが現状ではないでしょうか。一人で授業づくりに取り組み、悩んでいる先生方からは、「国語は何をどのように教えればいいのかよく分からない」という声を聞くことも少なくありません。また、協働的に研究に取り組んできた小学校においても、「説明文における～」のように分野を特定して研究するため、研究した内容に限られた単元にしか汎用できないということも見受けられました。

このガイドブックは、「国語は何をどのように教えればいいのかよく分からない」という先生方の悩みに応えられるような内容構成となっています。「話すこと・聞くこと」領域の指導には「独話・対話・聞く」の3種類の指導があると捉え、それぞれの指導において汎用できる学習過程を提案しています。

小・中・高等学校での共通した授業づくりの必要性

このガイドブックでは、学習指導要領の趣旨から考えて小・中・高等学校で共通した授業づくりをした方がよいという立場をとっています。

児童生徒の学ぶという行為は、校種が変わっても連続しています。しかし、指導者はこれまで、12年間の学び方の連続性をあまり意識してこなかったのではないのでしょうか。

例えば、小学校で「グループや学級での話し合いを通して自分の考えを文章にまとめる授業」を受けた児童が、中学校で「先生が黒板にまとめたものをノートに書き写す授業」を、高等学校で「先生の解説を聞いて大切だと判断したことをノートに書き留める授業」を受けていくことを想像してみてください。自分の能力や学び方を深化させたり発展させたりできない児童生徒の姿が想像できないのでしょうか。

これを「小学校ではこのようなグループ学習をさせる。中学校ではこのようにグループ学習を深化させる。高等学校ではこのようにグループ学習を発展させる。」と小・中・高等学校の指導者が連携しあって指導したらどうでしょう。児童生徒は容易く学びの連続性を意識し、学び方を身に付け、効率的に国語の能力を身に

付けることができるはずですが。

そのためには、小学校から高等学校まで身に付けなければならない能力や学び方を系統的にとらえ、どのように教えるのか・学ばせるのかについて、小・中・高等学校の指導者が連携して授業づくりに取り組む必要があります。このガイドブックがそのきっかけとなることを期待しています。

ガイドブックの構成

このガイドブックは、「Ⅰ 理論編」「Ⅱ 実践編」「Ⅲ 資料編」の三部構成となっています。

「Ⅰ 理論編」では、単元の構想を3つのパターンに分類して解説しています。本時の構想の仕方としては、学習形態に視点を当てた展開の仕方を提案しています。

「Ⅱ 実践編」には、研究協力員等によって実践され、成果を上げることができた小学校、中学校、高等学校の実践例を単元構想として掲載しています。

「Ⅲ 資料編」には、「Ⅰ 理論編」の根拠となる資料や具体的な説明資料を載せました。

ガイドブックの活用法

国語科で指導すべきは、学習指導要領の目標や内容であることは言うまでもありません。ですから、教科書の教材文を読む前に『学習指導要領』や『学習指導要領解説』を熟読し、12年間の系統性の中で、指導内容を具体的なレベルまで絞り込んで把握し指導することが必要となります。それが「教材文を教えるのではなく教材文で教える」ことにつながり、「活動あって学びなし」という課題を克服することにもつながります。このガイドブックには、指導内容を系統的・具体的に把握するための工夫がなされています。

また、国語科の指導法には様々な方法があることは言うまでもありません。それぞれの学校で児童生徒の実態に合わせて工夫することが求められています。しかし、「指導法には様々な方法があるのだからそれぞれが工夫しなさい」と言われても、悩んでいる先生方にとっては困り感が増すばかりです。そこで、授業づくりの一つのモデルとしてこのガイドブックを作成しました。それぞれの先生方がここからヒントを得て、創意工夫を凝らした魅力的な授業づくり・単元づくりをしてくださることを願います。

平成28年2月10日

目次

はじめに

I 理論編

1 「話すこと・聞くこと」領域で育成すべき態度や能力	1
2 どのような指導が必要か	2
3 「授業づくりの手順」と「指導の充実」	3
(1) 目標や内容の系統性を把握する	4
(2) 年間指導計画を工夫する	6
(3) 単元を構想する	7
◆単元展開の具体について	8
◆A 独話の学習過程	9
◆B 対話の学習過程	13
◆C 聞く学習過程	17
(4) 本時を構想する	21
◆本時の学習過程	22
◆本時の学習過程の各段階について	23
◆グループ交流を充実させる7つのポイント	26
◆全体交流を充実させる3つのポイント	27
(5) 評価を工夫改善する	28
◆評価の進め方(手順)について	29
◆ノートやワークシート, 作品, 実演や映像による評価の工夫について	30
◆ペーパーテストによる評価の工夫について	31
◆レポート, 質問紙, パフォーマンスによる評価の工夫について	31

II 実践編(表題は教材名)

◆B 対話の学習過程(話し合い)	
◇小学校第4学年 東書;「クラスで話し合おう」	32
◆C 聞くの学習過程(インタビュー)	
◇中学校第2学年 光村;「身近な人の『物語』を探る」	40
◆A 独話の学習過程(プレゼンテーション)	
◇高等学校第2学年 明治;「実用的な文章—企画書を書く」	48

III 資料編

◆指導系統表の整理例	55
◆同一言語活動の系統表例	61
◆マトリックス型年間指導計画表例	62
◆単元構想表の書き方	63
【引用文献・参考文献】	65

おわりに

I 理論編

1 「話すこと・聞くこと」領域で育成すべき態度や能力

★このガイドブックでは、教育基本法に示されている教育の目的を達成するために国語科の「話すこと・聞くこと」領域で育成すべき態度や能力を、大きな視点で次の5つととらえました。

- 1 目的や意図、表現様式に応じて話したり、聞いたりする力
- 2 実生活に生きてはたらき、各教科等の学習の基本ともなる「話すこと・聞くこと」の基礎的な知識及び技能
- 3 実生活に生きてはたらき、各教科等の学習の基本ともなる「話すこと・聞くこと」の思考力、判断力、表現力など
- 4 主体的に話したり、聞いたりする意欲や態度
- 5 他者と協働するためのコミュニケーション能力や学習力

Q1 「育成すべき態度や能力」の意味するものは何ですか？

A1 教育は「人格の完成等」を目的として行われるものです。その目的の達成に向けて、国語科「話すこと・聞くこと」領域で指導すべきことは何かを考えて表したものです。

Q2 なぜ、この5つととらえたのですか？

A2 学校教育法や学習指導要領解説、PISA 調査の報告書、第2期教育振興基本計画（H25.6.14閣議決定）などから、この5つにまとめました。

Q3 課題を発見する力や解決する力も大切だと思うのですが？

A3 その通りです。上記のとらえでは、学び方を身に付けるという意味で「学習力」と呼び、その中に課題を発見する力や解決する力を含めて考えています。



2 どのような指導が必要か

★「話すこと・聞くこと」領域で育成すべき態度や能力（p1）をはぐくむためには、次のような10項目の指導の充実を図る必要があります。

指導の充実 10項目

- 1 系統的, 発展的な指導 (各教科等, 各学年相互間の関連)
- 2 効果的な指導 (指導内容のまとめ方や重点の置き方)
- 3 言語活動の充実 (知識・技能の活用を図る学習活動, 言語環境)
- 4 自主的, 自発的な学習 (体験的な学習, 問題解決的な学習)
- 5 見通しと振り返り
- 6 学習形態 (個別指導やグループ別指導) や指導方法 (課題学習, 発展的な学習)
- 7 学校図書館の利用 (主体的, 意欲的な学習活動, 読書活動の充実)
- 8 評価の工夫 (よい点や進歩の状況などの評価, 過程や成果の評価, 指導改善, 学習意欲の向上)
- 9 言語の教育としての立場を一層重視
 - 的確に理解する能力 ○論理的に思考し表現する能力
 - 言葉で伝え合う能力 ○感性や情緒
- 10 実生活で生きてはたらき, 各教科等の学習の基本ともなる国語の能力の育成

1~8は、学習指導要領解説総則編「指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項」の解説から、9と10は、学習指導要領解説国語編「国語科改訂の趣旨」から導き出したものです。

1~10について、授業づくりのどの段階で、どのような手立てで充実を図ればよいのかについては、次ページからの「授業づくりの手順」で解説しています。



3 「授業づくりの手順」と「指導の充実」

p2 「指導の充実 10項目」

(1) 目標や内容の系統性を把握

p 4～5

○学習指導要領解説国語編から、12年間の指導系統表を整理する

1 系統的、発展的な指導

(2) 年間指導計画を工夫

p 6

○指導の効果を考えて、マトリックス型年間指導計画を作成する

2 効果的な指導

(1)と(2)は、年度末までにまとめておく必要があります。



指導と評価は一体だから、指導計画は評価計画でもあることを意識してください。

(3) 単元を構想

p 7～20

○系統性と年間指導計画をふまえて、言語活動の充実を図る単元構想をする

3 言語活動の充実



単元を構想する際に、優れた実践はどんどん真似して取り入れていきましょう。

4 自主的、自発的な学習

5 見通しと振り返り

6 学習形態や指導方法

7 学校図書館の利用

8 評価の工夫

9 言語の教育としての立場

10 実生活で生き、各教科等の学習の基本

(4) 本時を構想

p 21～27

○単元の指導計画のもと、学習場面における言語活動の充実を意識して本時を構想し、実践する

(5) 評価を工夫改善

p 28～31

○指導を振り返り授業改善に生かす視点を大事にする
○指導に生かすための評価と記録に残すための評価を行う
○適切な評価問題を開発する

3- (1) 目標や内容の系統性を把握する

★授業づくりの第一歩は、児童生徒の実態を把握し、指導すべき事項を確定することです。12年間の目標と内容を表に整理することで、指導すべき事項が明確になります。

【小学校「A 話すこと・聞くこと」の系統表】

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
	(1) 相手に応じ、身近なことなどについて、事柄の順序を考えながら話す能力、大事なことを落とさないように聞く能力、話題に沿って話し合う能力を身に付けさせるとともに、進んで話したり聞いたりしようとする態度を育てる。	(1) 相手や目的に応じ、調べたことなどについて、筋道を立てて話す能力、進行に沿って話し合う能力を身に付けさせるとともに、工夫しながら話したり聞いたりしようとする態度を育てる。	(1) 目的や意図に応じ、考えたことや伝えたいことなどについて、的確に話す能力、相手の意図をつまみながら聞く能力、計画的に話し合う能力を身に付けさせるとともに、適切に話したり聞いたりしようとする態度を育てる。
目標	(1) 前段＝話す能力、聞く能力及び話し合う能力 後段＝話すこと・聞くこと全体にわたる態度（全学年共通） (2) 低学年の児童の特性 ① 身近なことに興味や関心を持ち、それらについて意欲的に話したり聞いたりしようとする ② 家庭のこじに加え、学校でのさまざまな新しい出会いについて保護者や教師に今まで以上に話しかけるようになる ③ 友達とのかかわりも増え、話し合うことの必要性も感じ取るようになる (3) 話題については、「相手に応じ、身近なことなど」をとりあげること ① 相手に応じ＝互いに影響し合いながら言語活動が成立する特質 ② 相手＝保護者や教師などの大人、同級生など ③ 身近なこと＝身近なことや経験したことなどは思い出しやすい (4) 事柄の順序を考えながら話す能力 ① 自分で内容を構成 ② 取り上げる事柄の順序に沿って考え、経験したことの順序や物事が起こった順序などに気をつけて話す (5) 大事なことを落とさないように聞く能力 ① 話し手が何を伝えたいのか②自分が知りたいこと③話し手の立場 ④自分の聞きたいことなど、話の順序に沿って大事なことを聞き取る (6) 話題に沿って話し合う能力 ① 話し手と聞き手の双方の立場 ② 相手の話題からそれないように話したり、自分の分からないことを聞き直したり尋ねたりする ③ 合意形成を図ることや、互いを理解し合い、交流していく関係を大切にするための基礎を養う (7) 進んで話したり聞いたりする態度 ○ 話題を身近なことから考えたり、互いの思いや考えを尊重しながら共感的に受け止めようとしたりする雰囲気や態度を大切にする	(2) 低学年の「相手に応じ」ることに加え、「目的」を明確にする (3) 相手についても、今までより多様な相手へと広がる (4) 様々な目的を設定することが必要 ① 出来事を説明 ② 調査の報告 ③ 話し合って考えをまとめる ④ 意見を述べ合う (5) 低学年の「身近なことなど」から「調べたことなど」へと発展 (6) 筋道を立てて話す能力 ① 物事の順序、調べたことなど事柄や事実などの順序に基づき、自分の思いや願い、伝えたい中心を位置付けたり、相手に分かりやすく伝えられるように構成や内容を考えたりする ② 自分の考えや意見の筋道が明確であることとともに、相手が理解しやすい筋道であることも大切にする (7) 話の中心に気をつけて聞く能力 ○ 話し手が調べたこととはどのようなことであったのか、それを話し手はどのようにまとめたのかなどに気をつけて聞く (8) 進行に沿って話し合う能力 ① 司会や提案などの役割を果たしながら、話し合いの進行に合わせ、互いの考えをよく伝え合って話し合う ② 中学年では、グループや学級全体の問題解決などに向けて、主体的に話し合い、より一層豊かな相互交流を図るようにする (9) 工夫をしながら話したり聞いたりしようとする態度 ○ 相手や目的に応じて工夫をしながら話したり聞いたりしようとする態度を育てる	(2) 高学年では、児童の主体性や個性が高まるのに伴って、話す目的や意図を明確にするとともに、聞き手である相手の意図を十分感じ取っていくことが重要。 (3) 的確に話す能力 ① 目的や意図に応じるために、話の構成や内容を一層的にすることが求められる ② 取り上げる事柄について十分調べたり考えたりして理解し、話の構成や内容、考えたことや伝えたいこと、言葉遣いを一層的にすることが求められる (4) 相手の意図をつまみながら聞く能力 ○ 話し手の意図を考えながら、話の中心、構成や内容上の工夫及び適切な言葉遣いなどに注意して聞くことが重要 (5) 計画的に話し合う能力 ① 考えたことや伝えたいことについて、十分に話し合うことができるよう、計画を練り上げることが求められる ② 話し合いの過程において計画的に話し合うためには、司会や提案などの役割を各自が理解し、それぞれの役割に応じて協力し合いながら円滑に運営できるようにすることが重要 (6) 相手や目的及び意図などに応じて決定した話題について取材し、話したり聞いたりすることを適切に行っていく態度を養う

Q1 この系統表はどのように整理したのですか？

A1 学習指導要領解説国語編の付録の表に本編の解説を加えたものです。

Q2 このように表を整理するとどんなよいことがあるのですか？

A2 例えば、上の表で目標を見ると、前段の話す能力・聞く能力・話し合う能力では、低学年では「事柄の順序、大事なこと、話題に沿う」、中学年では「調べる、筋道を立てる、進行に沿う」、高学年では「考えたこと伝えたいこと、的確に、相手の意図、計画的」のように指導すべきポイントが読み取れます。このように、指導事項についても各学年でどのように指導すればよいかについて、具体的に把握することができるようになります。小学校、中学校、高等学校を読み比べることで、その学年の指導事項を具体的につかむことができます。指導しようとする指導事項をマークし、それに関連する指導事項を学年や校種を超えてマークしていくことで、指導すべき内容がより明確になっていきます。

☞12年間の系統表は、「Ⅲ 資料編(p55～60)」へ

★下の表のように系統表を整理すると、「スピーチをする」という同じ言語活動でも、系統性がとらえやすくなり、学年に応じ段階的に指導することが可能となります。

【小学校 同一言語活動での系統表例】

段階	話題設定	取材	話すこと（構成や内容）	話すこと	聞くこと	
小学校 低学年	○学校生活や家庭での日常生活など身近なこと ○自分が経験したこと	○必要な事柄を思い出す ○ノートやカードに書き出す ○話題を具体化する	はじめ	○話題 ○問いかけ ○まとめ	○相手＝教師や友達、幼稚園児や保育園児 ○ペアから小グループ、学級全体へ広げる ○言葉遣い ○主語、述語、順序を表す言葉（まず、次に…） ○姿勢 ○口形（正しい発音） ○声の大きさ、速さ	○あいづちを打ったり聞き直したりする ○興味をもって聞く ○話し手が知らせたいと思っている事柄の大事なことを聞く ○自分が聞きたい事柄の大事なことを聞く
			なか	○行動、経験、ものを作ったり作業したり、物事が起こった順序		
			おわり	○まとめ ○問いの答え ○自分の考え		
小学校 中学年	○学校や家庭、地域のことなどで興味や関心のあること（学校や地域の催し、季節にちなんだ行事…） ○一つの話題に絞っていく ○各教科で行う観察や実験、調査などを取り上げることも考えられる ○図表や絵、写真などを取り上げる	○本や文章を読む ○人に聞く ○図表や絵、写真などを見る ○調べたことの要点をメモする	はじめ	○話したいことや聞きたいことを明確にする（話題、問いかけ、まとめ）	○相手＝異学年や地域の人々 ○丁寧な言葉遣い（敬体と常体） ○聞き手の反応を見ながら話す ○身振りや手振り ○言葉の抑揚や強弱 ○間の取り方 ○まとまった発表の時は、発表原稿を書く	○話している事柄の順序、組み立て方を意識しながら、話の要点を聞く ○分からないことや確かめたいことを質問する ○自分の感想や意見を述べる ○自分の経験と結び付けて ○自分の考えと比較しながら ○友達が読み取ったことに妥当性があるか ○新たに得た情報を自分の考えに生かす
			なか	○メモを活用して内容を整理し相互関係を考える ○なぜそのような考えになったのかという根拠や事例を挙げる ○関心を抱いた理由		
			おわり	○話したいことや聞きたいことを明確にする（まとめ、問いの答え、自分の考え）		
小学校 高学年	○日常生活の中で考えたことや特に伝えたいと思うこと	○得た知識や情報を関係づけて活用する ○メモやノートの内容を比較、対照、関連付け、分類して自分の考えに生かす ○話題を練り直し、目的や意図を一層明確にする ○個人で考えたいこと、グループや学級で考えたいことを明確に書き留めておく	はじめ	○自分の意図、相手の意図 ○事実と感想、意見とを区別 ○概説、結論付け（話題、問いかけ、まとめ）	○相手＝同学年や異学年、全校児童や学校外の人々 ○声量や速度 ○抑揚や間の取り方 ○改まった言葉や丁寧な言葉 ○敬体と常体の使い分け ○音声の使い方（声色） ○語や文の使い方 ○表情、仕草 ○共通語と方言を比較、対照	○話の意図は何か ○自分に伝えたいことは何か ○共に考えたいことは何か ○自分の考えと比べ、共通点や相違点、関連して考えたことなどを整理し、自分の考えをまとめる
			なか	○根拠や事例、エピソード ○必要な文言や数値の引用 ○図解 ○重要語句の定義付け ○資料の提示		
			おわり	○自分の意図、相手の意図 ○事実と感想、意見とを区別 ○概説、結論付け（まとめ、問いの答え、自分の考え）		

Q1 上の系統表はどのように整理したのですか？

A1 スピーチの指導に、どんな要素を入れ込めばよいかを学習指導要領の指導事項から導き出したものです。

Q2 この表を整理すると、どんなよいことがあるのですか？

A2 同じ「スピーチ」という言語活動でも、学年に応じた指導事項を取り上げることで、系統的・段階的な指導が可能となります。評価についても、スピーチの出来ではなく、指導事項に照らして評価することが可能となります。

☞同一言語活動での系統表例は、「Ⅲ 資料編(p61)」へ

3-(2) 年間指導計画を工夫する

★年間指導計画は、児童生徒の実態に応じて、目標と指導事項の関連を十分研究し、まとめ方を工夫したり軽重を加えたりして、効果的に位置付ける必要があります。

【中学校第1学年～第3学年 マトリックス型年間指導計画表例】

配当時数		5	8	7	7	8	5	4	7	5
教科書教材名		友だちをみんなに紹介しよう	お話をとらえて話し合おう	言葉を探検する	印象に残る説明をしよう	話し合って考えを広げよう	身近な人の「物語」を探る	自分の魅力を伝えよう	課題解決に向けて話し合おう	三年間の歩みを編集しよう
1年時数(年間15～25時間)										
2年時数(年間15～25時間)										
3年時数(年間10～20時間)										
(1) 指導事項		スピーチ	バズセッション	ボクシング	プレゼンテーション	プレゼンテーション	インタビュー	スピーチ	会議	ショー・ゲーム
話題設定や取材	ア	日常生活の中から話題を決め、話したり話し合ったりするための材料を人との交流を通して集め整理すること。	日常生活から話題を決める							
	ア	社会生活の中から話題を決め、話したり話し合ったりするための材料を多様な方法で集め整理すること。	社会生活から話題を決める							
	ア	社会生活の中から話題を決め、自分の経験や知識を整理して考えをまとめ、語句や文を効果的に使い、資料などを活用して説得力のある話をする。	社会生活から話題を決める							
話すこと	イ	全体と部分、事実と意見の関係に注意して話しを構成し、相手の反応を踏まえながら話すこと。	構成を考えて話す(全体と部分、事実と意見)							
	ウ	話し言葉や文章、言葉の調子や調の取り方、相手に分かりやすい語句の選択、相手や場に応じた言葉遣いなどについての知識を生かして話すこと。	分かりやすく話す(達意、音韻、語句、言葉遣い)							
	イ	異なる立場や考えを想定して自分の考えをまとめ、話の中心的部分と付加的な部分などに注意し、論理的な構成や展開を考えて話すこと。	異なる立場や考えを想定して考えをまとめる							
	ウ	目的や状況に応じて、資料や機器などを効果的に活用して話すこと。	資料や機器を効果的に活用する							
	ア	社会生活の中から話題を決め、自分の経験や知識を整理して考えをまとめ、語句や文を効果的に使い、資料などを活用して説得力のある話をする。	語句や文を効果的に使う							
	イ	場の状況や相手の様子に応じて話すとともに、敬語を適切に使うこと。	資料を活用して説得力のある話をする							
	イ	場の状況や相手の様子に応じて話すとともに、敬語を適切に使うこと。	場面や相手の様子に応じて話し、敬語を適切に							

Q1 このマトリックス型の年間指導計画表は、どうやって作成したのですか？

A1 「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」を参考にして作成したものです。

Q2 このような表を作成すると、どんなよいことがあるのですか？

A2 このようなマトリックス型の表を作成することによって、指導事項の欠落が生じないようにすることができます。
例えば、上の表でいうと「指導事項 ア」の「話題設定の能力」を、どの時期に・どの単元で・どのように指導するのかをしっかりと意識することができるようになります。

☞マトリックス型年間指導計画表例は、「Ⅲ 資料編(p62)」へ

3-(3) 単元を構想する

Q1 「単元を構想する」と言っても、教科書通り、指導書通りに教えればよいのではないですか？

A1 授業は、児童生徒の興味・関心や身に付いている能力などの実態に応じて、その児童生徒を受けもつ先生が、学習指導要領の目標や内容を達成するために行うものです。ですから、国語の場合は、教科書を中心としながら、どのような授業をつくっていくかは、それぞれの先生方が考えなければならないことなのです。

Q2 そんなことを言われても、単元を構想するなんて、難しいのですが？

A2 そうですね。そういう人のために、このガイドブックでは、素晴らしい実践をなさっている全国の先生方の単元のつくり方を参考にして、それをパターン化してみました。こうすれば必ず上手くいくというマニュアルではありませんが、単元づくりのヒントにしてみてください。

Q3 「単元のつくり方のパターン」って、どうやってパターン化したのですか？

A3 「話すこと・聞くこと」の指導を「独話・対話・聞く」の3種類と捉え、それぞれにおける学習過程を、井上一郎氏（2008、*1）の示す学習過程を基に、日常の授業実践で可能なレベルに簡略化して示しました。

単元展開の具体について

★このガイドブックでは、単元の段階を3段階と考え、単元の導入を第1次、単元の展開を第2次、単元の終末を第3次と呼んでいます。また、これに加えて、単元の学習（授業）に入る前段階を第0次、単元の学習（授業）後あるいは、発展的段階を第4次と呼んでいます。

【第0次】とは

- ◆単元の学習に入る前段階にあたります。すべての単元に位置付ける必要はありませんが、児童生徒を単元の学習に誘う段階としての工夫が求められます。
- ◆単元の学習に入る前に、単元の言語活動や教材について児童生徒の興味・関心を高めたり、学習内容について考えさせたり予備知識をもたせたりする工夫が考えられます。

【第1次】とは

- ◆単元の導入にあたります。単元が、児童生徒にとってひとまとまりの意味のある学習活動となるように、単元の学習に誘う必要があります。
- ◆児童生徒の興味・関心を高める工夫や、児童生徒に単元の学習過程や学習方法、モデルを提示することによって学習のゴールを見通させる工夫が求められます。

【第2次】とは

- ◆単元の展開にあたります。「話すこと・聞くこと」の学習では、話す力・聞く力を身に付けさせるための重要な段階になります。
- ◆単元の言語活動と本時の学習活動が密接に結び付くように学習展開を工夫することが求められます。また、相互交流を大切にする必要があります。

【第3次】とは

- ◆単元のまとめにあたります。単元の学習を振り返り、自分にとって何が身に付いたのか、何を知ったのか、もっと知りたいことは何か、などについてまとめる段階です。
- ◆言語活動のまとめの段階でもあります。発表を通して交流を深め、学習の達成感を味わわせるように指導することが大切です。

【第4次】とは

- ◆単元の学習後の段階や、発展学習の段階にあたります。すべての単元に位置付ける必要はありませんが、児童生徒の国語に対する興味・関心を高めたり、実社会に役立つ有用感を味わわせたりする段階として工夫が求められます。教室を飛び出した学習とも言えます。
- ◆学級の学びを同学年や他学年に広げたり、家庭や地域に広げたりすることが考えられます。大切なのは発信するだけでなく、受け手の感想など学習に対する評価を、児童生徒にフィードバックすることです。

A 独話の学習過程

【独話の学習過程】

第一次

- 1 学習課題（目的・相手）を設定する
- 2 表現様式上のモデル学習をする
- 3 学習計画を立てる

第二次

- 4 個別課題を選択する
- 5 取材する
- 6 モデルの構成や表現を分析する
- 7 話題から構成を考えて叙述する
- 8 実技練習をする
- 9 推敲し、練り上げる

第三次

- 10 発表する（聞く）
- 11 単元の学習を振り返る



いよいよ、具体的な独話の学習過程について解説を始めます。

独話とは、一人の話し手が、ある目的や意図をもって、大勢の聞き手に対して一方的に話をすることです。

例を挙げると、

- ① 発表
 - ② スピーチ
 - ③ プレゼンテーション
- などです。

「独話の学習過程」の各段階について

★「独話の学習過程」の11段階について具体的に解説します。

1 学習課題（目的・相手）を設定する

この段階は単元の第1次（導入）の序盤にあたります。

- ◆児童生徒主体の学習とすることができるかどうか教師の腕の見せ所です。
- ◆「過去にどのような独話をし、どのような学習（言語活動）をしたのか、過去の経験は今回の学習とどのようなつながりがあるのか、今回の学習内容に照らして何を知っているのか」について児童生徒自身に振り返らせ、単元の目標を意識した学習課題を設定（＝目的・相手の確認）する必要があります。
- ◆「何のために独話するのか」を確認し、「何を伝えたくて独話するのか、今回の単元でプラスする能力等は何か」について押さえます。

2 表現様式上のモデル学習をする

この段階は単元の第1次(導入)の中盤です。

- ◆「表現様式上のモデル学習をする」とは、単元のゴールを知ることです。単元の学習を通して、どのような様式で話すことができるようになればよいのか、どのような目的で話したり聞いたりすればよいのかを見通せることが、学習意欲を高めることにつながります。
- ◆モデルを見たり聞いたり、読んだりして、どのような内容でどのような話し方をすれば良いのか大まかな枠組みをとらえることが、この段階の目的となります。
- ◆独話には種類によって様式があります。その様式に応じて教師がモデルを示したり、児童生徒の実態にふさわしいモデルを社会生活の中から見付けたりし、児童生徒に表現様式を意識させることが重要です。
- ◆魅力的なモデルによって、「こういうふうに表示したい」という表現意欲を高めることが単元の学習の成否のカギとなります。

3 学習計画を立てる

この段階は単元の第1次(導入)の終盤です。

- ◆単元のゴールをイメージできたら、児童生徒に過去の学習経験を参考にさせながら、学習計画を立てさせる必要があります。「話すこと・聞くこと」においては、課題選択、取材、構成、記述、実技練習、推敲、発表が基本的な学習過程となります。
- ◆学習計画を児童生徒どうしに協議させることが、学習力(学び方、課題を発見する力や解決する力)を高めることにつながります。
- ◆児童生徒に学習経験が少ない実態がある場合、教師が学習計画を導くことも段階的指導としては必要です。例えば、学習過程をカードで示し、児童生徒自身がカードを並べ替えて学習過程をつくることも一つの工夫となります。
- ◆グループで話す場合には、編集会議を行います。

4 個別課題を選択する

この段階は単元の第2次(展開)の序盤です。

- ◆第1次の第1時で設定した学習課題を受けて、個別課題を選択する段階です。例えば、「修学旅行をプロデュースしよう」という学習課題を受けて、「自分たちが訪問する場所をプレゼンテーションする」という個別課題を選択することになります。
- ◆個別課題は、個人やグループの選択任せにするのではなく、学習課題に沿ったふさわしい個別課題なのかどうか、児童生徒相互の交流や教師からの働きかけによって吟味させる工夫も考えられます。この段階を丁寧に扱うことが、その後の学習の充実につながります。
- ◆取材可能な課題であるか、解決可能な課題であるかなど、学習計画とあわせて適切な個別課題を選択させる必要があります。
- ◆グループで話す場合には、編集会議を行います。

5 取材する

この段階は単元の第2次(展開)の序盤です。

- ◆個別課題が決まったら、課題を解決するために必要な情報を収集します。
- ◆取材には時間がかかることが多いため、単元の学習過程とは別に、単元の学習に入る前から予告をして情報を日常的に収集するような指導も考えられます。例えば、「修学旅行をプロデュースしよう」という単元を考えるときには、単元の学習に入る前から、修学旅行先の情報について資料を収集させておくなどの工夫が考えられます。
- ◆取材は、構成や記述の段階になって精選できるよう、より多くの情報を集めさせることが大切です。必要に応じて、情報を整理しながら集めさせましょう。
- ◆取材方法も、思索する、資料に基づく、インタビューする、実験する、検索するなど多様な方法が考えられます。

6 モデルの構成や表現を分析する

この段階は単元の第2次(展開)の中盤です。

- ◆第2段階で表現様式や単元のゴールをとらえるためにモデル学習をしましたが、今回は自分の構成や記述に生かすためにモデルを分析します。第1次で示したモデルに、この段階で新たにモデルを加えることも考えられます。
- ◆構成や各段落で話されている要素、文の特徴や文末表現など、「読むこと」の指導で培った力を発揮させ、分析的に読み取らせます。
- ◆モデルの構成や表現を自分に生かしたい部分と、自分はこうしたいという思いを大切にします。

7 話題から構成を考えて叙述する

この段階は単元の第2次(展開)の中盤です。

- ◆モデルの構成を参考にしながら、取材した情報を整理して構成を考えさせます。構成を考えた時に、足りない情報があれば、再取材することも考えられます。
- ◆表現様式に応じた構成となるように十分に指導します。
- ◆構成の段階で、児童生徒の構想を相互に交流し合うことも叙述力を高めることに有効です。
- ◆独話では、原稿を暗記して話す場合もあれば、全文記述した原稿を見ながら話したり、メモ原稿を見ながら話したりする場合があります。それぞれの目的に応じて、話すことの叙述では、書くことの叙述と違い、原稿用紙の大きさ(10×10)を工夫したり、記述の仕方(固有名詞や数字の時、行を変えるなど)を工夫したりすることが考えられます。
- ◆段階的指導として、全文記述した原稿からメモ原稿を作るなどの指導をすることが、メモ原稿をまとめる力を高めることにつながります。

8 実技練習をする

この段階は単元の第2次(展開)の終盤です。

- ◆単元で身に付けさせたい力(声の大きさ, 速さ, 間の取り方, 目線, 身振り手振り, 資料や機器の効果的活用, など)を意識して練習するように指導します。
- ◆原稿を見ながら話すのか, 暗記して話すのか, メモを見ながら話すのかなど, 単元のゴール(目指す姿)を達成できるように意識して指導します。
- ◆ペアやグループで練習したり, 鏡を見ながら練習したり, ビデオに撮影しながら練習したり, など, 練習方法を工夫します。
- ◆聞き手(相手が聞く目的は何か, 聞きやすいのはどのような話し方か, など)を意識して話すように指導します。

9 推敲し, 練り上げる

この段階は単元の第2次(展開)の終盤です。

- ◆ペアやグループでお互いに見合ったりビデオを見たりしながら, 単元の目標と照らし合わせて評価し合うように指導します。
- ◆推敲する場合には, 話す目的や相手を意識して, 話し手としての推敲だけでなく聞き手として推敲させることが重要となります。

10 発表する(聞く)

この段階は単元の第3次(終末)の序盤です。

- ◆単元のまとめとして発表させます。独話であっても, 双方向の活動として, 聞く側の指導も丁寧に行わなければなりません。この段階になって, 聞くことを意識させるのではなく, 単元の始めから, 聞き手を常に意識して指導することが大切です。
- ◆学級の人数が多い場合には, グループ内での発表を工夫するなどして学習活動が単調にならないように工夫しましょう。
- ◆ビデオに記録しておくことは, 評価や, その後の指導のためにも大変有効です。

11 単元の学習を振り返る

この段階は単元の第3次(終末)の終盤, 単元のまとめです。

- ◆単元を通して, 何を学んだか, 上手く「話すこと」ができたか, 今後の「話すこと」に生かしたいことや継続して考えたいことは何か, 分からなかったこと・できなかったことは何か等の成果や課題を確認し, 達成感を高めたり学習意欲を喚起したりするとともに, 次単元への課題を明らかにすることで, 学びの連続性を意識させる段階です。
- ◆完成した表現だけで振り返らせることをせず, 学習過程の各段階における成果や課題について振り返らせることが大切です。

B 対話の学習過程

【対話の学習過程】

第一次

- 1 学習課題（目的・相手）を設定する
- 2 表現様式上のモデル学習をする
- 3 学習計画を立てる

第二次

- 4 議題を決め、進行表を作成する
- 5 自分の考えを明確にする
- 6 実技1を実施する
- 7 実技1を振り返る
- 8 実技2を実施する
- 9 実技2を振り返る

第3次

- 10 単元の学習を振り返る



次は、対話の学習過程についての解説です。

対話とは、2人以上の構成メンバーで、お互いに話のやり取りをすることです。
例を挙げると、
① 会議
② 討論
③ ディベート
などです。

「対話の学習過程」の各段階について

★「対話の学習過程」の10段階について具体的に解説します。

1 学習課題（目的・相手）を設定する

この段階は単元の第1次（導入）の序盤にあたります。

- ◆児童生徒主体の学習とすることができるかどうか教師の腕の見せ所です。
- ◆「過去にどのような様式の対話を経験したのか、過去の経験は今回の学習とどのようなつながりがあるのか、今回の学習内容に照らして何を知っているか」について児童生徒自身に振り返らせ、単元の目標を意識した学習課題を設定（＝目的・相手の確認）する必要があります。
- ◆「何のたが対話するのか」を確認し、「何を決めたり、何についての考えを深めたりするために話し合うのか、今回の単元でプラスする能力等は何か」について押さえます。
- ◆単元の導入段階では、児童生徒に自分の表現力を確認させる工夫も考えられます。表現力を確認するとは、この単元で取り組む言語活動をさせてみるということです。その時点の力で表現することで個々の課題が明らかとなり、学ぶべき事柄が明らかとなる場合があります。その際、手本となるモデルと比べさせることは課題を見付けることにつながります。

2 表現様式上のモデル学習をする

この段階は単元の第1次(導入)の中盤です。

- ◆「表現様式上のモデル学習をする」とは、単元のゴールを知ることです。単元の学習を通して、どのような様式の対話ができるようになればよいのか、どのような目的で対話すればよいのかを見通せることが、学習意欲を高めることにつながります。
- ◆モデルを見たり聞いたり、読んだりして、どのような対話をするのか、その方向性をとらえることが、この段階の目的となります。
- ◆対話には種類によって様式があります。その様式に応じて教師がモデルを作成したり、児童生徒の実態にふさわしいモデルを社会生活の中から見付けて提示したりし、児童生徒に様式を意識させることが重要です。
- ◆魅力的なモデルによって、「こういうふうに対話したい」という対話への意欲を高めることが単元の学習の成否のカギとなります。

3 学習計画を立てる

この段階は単元の第1次(導入)の終盤です。

- ◆単元のゴールをイメージできたら、児童生徒に過去の学習経験を参考にさせながら、学習計画を立てさせる必要があります。対話においては、進行表の作成、考えの明確化、実技が基本的な過程となります。
- ◆学習計画を児童生徒どうしで協議させることが、学習力(学び方、課題を発見する力や解決する力)を高めることにつながります。
- ◆児童生徒に学習経験が少ない実態がある場合、教師が学習計画を導くことも段階的指導としては必要です。例えば、学習過程をカードで示し、児童生徒自身がカードを並べ替えて学習過程をつくることも一つの工夫となります。

4 議題を決め、進行表を作成する

この段階は単元の第2次(展開)の序盤です。

- ◆第1次の第1時で設定した学習課題やモデルを受けて、進行表を作成する段階です。例えば、「話し合いの役割を理解して話し合おう」という学習課題を受けて「忘れ物をなくすにはどうすれば良いか」という議題を選択し、進行表を作成します。
- ◆議題について、児童生徒が話し合う必要性を感じているかどうか、単元の学習が充実するかどうかのカギとなります。
- ◆進行表は、時間の目安や構成、進行の言葉、予想される発言、留意点などを考えます。全員が考えることで、対話の進め方を学ぶことができます。

5 自分の考えを明確にする

この段階は単元の第2次(展開)の序盤です。

- ◆議題と進行表が決まったら、対話をするために必要な自分の考えを明確にします。
- ◆自分の考えをまとめるには時間がかかることが多いため、単元の学習過程とは別に、単元の学習に入る前から予告をして情報を日常的に収集し、自分の考えをまとめておくようにする指導も考えられます。例えば、「忘れ物をなくすにはどうすれば良いか」という議題を考えるときには、単元の学習に入る前から、忘れ物の現状や問題点を意識させておくなどの工夫が考えられます。
- ◆自分の考えを決める場合には、既にもっている情報を基に決める場合と、取材に基づいて考えをまとめる場合が考えられます。
- ◆自分の考えを明確に決めた後、反対の立場の意見や、他に考えられる意見を考えておくことは、対話を深めたり広げたりすることにつながります。

6 実技1を実施する

この段階は単元の第2次(展開)の中盤です。

- ◆進行表に沿って、実技をさせます。進行役、話し合う人、計時、記録、モニターなどの役割を決めて実技を行うことが、対話の充実につながります。
- ◆対話の目的や単元で身に付けさせたい力を意識して練習するように指導します。
- ◆実技のグループとモニタリングのグループを分けたり、ビデオに撮影しながら練習したり、練習方法を工夫します。

7 実技1を振り返る

この段階は単元の第2次(展開)の中盤です。

- ◆グループでお互いに見合ったり、ビデオを見たりしながら、単元の目標と照らし合わせて評価し合うように指導します。
- ◆話し合う目的を意識して、内容と形式の両面から振り返らせることが重要となります。
- ◆実技1から学んだ改善点を全体で共有させます。

8 実技2を実施する

この段階は単元の第2次(展開)の終盤です。

- ◆実技1の振り返りを基に、改善点に留意しながら実技2を実施させます。
- ◆進行表を修正したり、自分の考えを膨らませたりしてから実技を行わせます。
- ◆目的によって、実技1と同じ議題で行う場合や、違う議題で行う場合が考えられます。
- ◆進行役、話し合う人、計時、記録、モニターなどの役割を交替して実技を行うことが、一人一人の話す・聞く能力を高めることにつながります。

9 実技2を振り返る

この段階は単元の第2次(展開)の終盤です。

- ◆実技1と比べてどうであったか、グループでお互いに見合ったり、ビデオを見たりしながら、単元の目標と照らし合わせて評価し合うように指導します。
- ◆実技2から学んだ改善点を全体で共有させます。
- ◆目的や授業時数など、場合によって、実技3、実技4と繰り返す場合や、実技を1回のみで終了する場合も考えられます。

10 単元の学習を振り返る

この段階は単元の第3次(終末)の終盤、単元のまとめです。

- ◆単元を通して、何を学んだか、上手く「話し合うこと」ができたか、今後の「話し合うこと」に生かしたいことや継続して考えたいことは何か、分からなかったこと・できなかったことは何か等の成果や課題を確認し、達成感を高めたり学習意欲を喚起したりするとともに、次単元への課題を明らかにすることで、学びの連続性を意識させる段階です。
- ◆実技だけで振り返らせることをせず、学習過程の各段階における成果や課題について振り返らせることが大切です。



第4次の学習活動として、総合的な学習の時間におけるポスターセッションやプレゼンテーション、パネルディスカッション、ディベートなどの学習活動や、学級会等が考えられます。

児童生徒に確かな国語の能力を身に付けさせたり、学習意欲を高めたりするためには、年間指導計画を他教科や領域と関連付けて設定するなど、教育活動全体を見通した教科カリキュラム・マネジメントの力が必要となります。

C 聞く学習過程

【聞く学習過程】

第一次

- 1 学習課題（目的・相手）を設定する
- 2 表現様式上のモデル学習をする
- 3 学習計画を立てる

第二次

- 4 相手に関する情報を調べる
- 5 目的を意識して質問文を作る
- 6 質問を構成する
- 7 質問する

第三次

- 8 目的に合わせて質問をまとめる
- 9 目的に合わせて発表（交流）する
- 10 単元の学習を振り返る



最後に、聞く学習過程について解説します。

聞くとは、直接人に会って、必要な知識や情報を得るために話しを聞く活動のことです。

例を挙げると
① インタビュー
② 面接
などです。

「聞く学習過程」の各段階について

★「聞く学習過程」の10段階について具体的に解説します。

1 学習課題（目的・相手）を設定する

この段階は単元の第1次（導入）の序盤にあたります。

- ◆児童生徒主体の学習とすることができるかどうか教師の腕の見せ所です。
- ◆過去にどのような聞く学習をしたのか、過去の経験は今回の学習とどのようなつながりがあるのか、今回の学習内容に照らして何を知っているかについて児童生徒自身に振り返らせ、単元の目標を意識した学習課題を設定（＝目的・相手の確認）する必要があります。
- ◆何のために聞くのかを確認し、何が知りたくて聞くのか、今回の単元でプラスする能力等は何かについて押さえます。
- ◆単元の導入段階では、児童生徒に自分の表現力を確認させる工夫も考えられます。表現力を確認するとは、この単元で取り組む言語活動をさせてみるということです。今の時点の力で表現することで個々の課題が明らかとなり、学ぶべき事柄が明らかとなる場合があります。その際、手本となるモデルと比べさせることは課題を見付けることにつながります。

2 表現様式上のモデル学習をする

この段階は単元の第1次(導入)の中盤です。

- ◆「表現様式上のモデル学習をする」とは、単元のゴールを知ることです。単元の学習を通して、どのような聞く力が付けばよいのか、どのような目的で聞くのかを見通せることが、学習意欲を高めることにつながります。
- ◆モデルを見たり聞いたり、読んだりして、どのような聞く学習をするのか、その方向性をとらえることが、この段階の目的となります。
- ◆聞く学習には、聞いた後に目的となる言語活動がある場合があります。例えば、「インタビューして新聞記事にまとめる」場合には、インタビューのモデルと共に、記事のモデルを示すことが、どのようなインタビューをすれば良いのかを理解することにつながります。
- ◆魅力的なモデルによって、「こういうふうに表示したい」という表現意欲を高めることが単元の学習の充実のカギとなります。

3 学習計画を立てる

この段階は単元の第1次(導入)の終盤です。

- ◆単元のゴールをイメージできたら、児童生徒に過去の学習経験を参考にさせながら、学習計画を立てさせる必要があります。聞く学習においては、相手の調査、質問文の作成、質問の構成、質問、質問のまとめ、発表や交流が、基本的な学習過程となります。
- ◆学習計画を児童生徒どうしで協議させることが、学習力(学び方、課題を発見する力や解決する力)を高めることにつながります。
- ◆児童生徒に学習経験が少ない実態がある場合、教師が学習計画を導くことも段階的指導としては必要です。例えば、学習過程をカードで示し、児童生徒自身がカードを並べ替えて学習過程をつくることも一つの工夫となります。
- ◆何人かが共同で聞く場合には、編集会議を行います。

4 相手に関する情報を調べる

この段階は単元の第2次(展開)の序盤です。

- ◆第1次の第1時で設定した学習課題を受けて、聞く相手を知る段階です。例えば、「復興を支える地域の職業人にインタビューし、記事にまとめる。」という学習課題を受けて、聞きたい相手を決めて、その相手について調査することになります。
- ◆聞きたい相手は、個人やグループの選択任せにするのではなく、学習課題に沿ったふさわしい相手なのかどうか、児童生徒相互の交流や教師からの働きかけによって吟味させる工夫も考えられます。この段階を丁寧に扱うことが、その後の学習の充実につながります。
- ◆取材可能な相手であるか、課題解決にふさわしい相手であるかなど、学習計画とあわせて適切な相手を選択させる必要があります。
- ◆何人かが共同で聞く場合には、編集会議を行います。

5 目的を意識して質問文を作る

この段階は単元の第2次(展開)の序盤です。

- ◆聞く相手について、予備調査だけでは分からなかった事柄や内容について、目的に応じて知りたいことなどを質問にまとめます。
- ◆質問の種類をたくさん考えたり、相手の答えを想定して、さらに深めるための質問を考えたりします。
- ◆質問内容が、聞く相手にとって失礼なものにならないように指導します。

6 質問を構成する

この段階は単元の第2次(展開)の中盤です。

- ◆第2段階で表現様式や単元のゴールをとらえるためにモデル学習をしましたが、モデルを参考にしながら、実際に聞く場面を想定して質問を構成します。
- ◆この段階では、質問内容だけでなく、初めの挨拶、質問の順番、想定問答、終わりの挨拶などを含めて、聞くためのシナリオを作成させます。

7 質問する

この段階は単元の第2次(展開)の中盤です。

- ◆作成したシナリオを基に、質問をします。
- ◆聞いた内容をどのように記録するのかわによって、メモの取り方、ボイスレコーダーやビデオカメラの操作も習得させておく必要があります。
- ◆対話の学習過程と同様に、実技を繰り返す学習過程として工夫することも考えられます。
- ◆質問の相手が、学級の友達以外の場合には、事前に日程調整を図っておく必要があります。

8 目的に合わせ質問をまとめる

この段階は単元の第2次(展開)の終盤です。

- ◆目的に合わせて、内容をまとめます。例えば、「新聞記事にまとめる」ということが目的であった場合は、質問してきた内容を整理して、記事をまとめることになります。その場合でも、新聞記事にまとめることは形式的な目的であり、新聞記事によって何を伝えようとしているのかということが内容的な目的になります。
- ◆形式的な目的と、内容的な目的の2つを意識してまとめさせる必要があります。

9 目的に合わせて発表(交流)する

この段階は単元の第3次(終末)の序盤です。

- ◆完成した「まとめ」や「聞く活動」の記録(メモや音声記録, 映像)を基に交流します。
- ◆単元の目標や単元で身に付けさせたい力を意識して評価し合うように指導します。

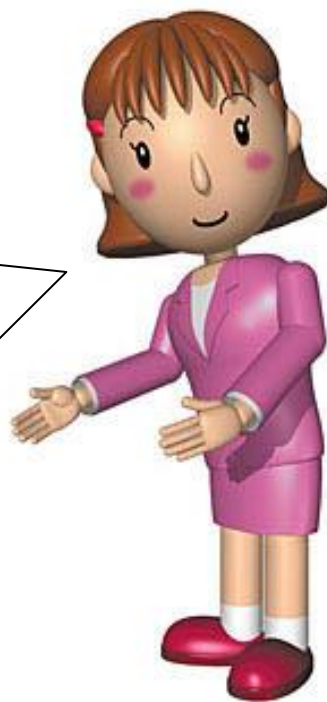
10 単元の学習を振り返る

この段階は単元の第3次(終末)の終盤, 単元のまとめです。

- ◆単元を通して, 何を学んだか, 上手く「聞くこと」ができたか, 今後の「聞くこと」に生かしたいことや継続して考えたいことは何か, 分からなかったこと・できなかったことは何か等の成果や課題を確認し, 達成感を高めたり学習意欲を喚起したりするとともに, 次単元への課題を明らかにすることで, 学びの連続性を意識させる段階です。
- ◆完成した作品だけで振り返らせることをせず, 学習過程の各段階における成果や課題について振り返らせることが大切です。

これまで、「魅力的なモデル」が、単元の学習を充実させるカギであると説明してきました。でも、「話すこと・聞くこと」の学習モデルは、なかなか見付けにくいものです。

教師が単元の言語活動をやってみて、それをモデルとすることは一つの方法です。また、児童生徒に、来年度の後輩へのモデルとなるよう意識して取り組ませ、それをモデルとすることは、先輩、後輩、両方の学習意欲を高めることにつながります。



3-(4) 本時を構想する

Q1 本時を構想すると言っても、これまでの考え方と大きな違いがあるのですか？

A1 授業づくりの考え方として、これまでと大きな違いはありません。45分～50分の授業で、児童生徒に、自分たちで考えさせたり交流させたりすることや、全員に同じ質の学習活動を保障することや、今日学ぶ内容や学び方が分かって自ら動いて学習できるようにさせること、先生がしゃべりすぎたり説明しすぎたりしないことが大切です。

Q2 当たり前なことだけど、難しい。どうしたらいいのでしょうか？

A2 そうですね。ですから、このガイドブックでは、「見通し」「学習モデル」「学習形態」「振り返り」の4つをキーワードにして、本時の学習過程を9段階にして示してみました。

Q3 ええっ～。9段階もあるのですか。時間内に終わらないのでは？

A3 9段階といっても、均等に時間をかけるわけではありません。それに、前時からの流れで省略できる段階もありますので、毎時間が9段階というわけではないのです。

Q4 すべての時間に共通する学習過程にはできないということでしょうか？

A4 そうです。でも、「学習課題」「学習の見通し」「課題解決に向けた言語活動」「課題解決」「学習の振り返り」という過程を踏むことと、「ひとりで」「ペア・グループで」「みんなです」という学習形態を工夫することは、すべての時間に共通して取り組むべきことです。

本時の学習過程

【本時の学習過程】

導 入	1	単元の学習過程の確認
	2	本時の学習課題の設定
	3	既習内容や本時の学習内容の確認
	4	本時の学習過程の確認
展 開	5	表現モデル・活動モデルの確認
	6	個人での学習
	7	グループ・全体での学習
終 末	8	個人でのまとめ
	9	本時の振り返り

一番大事なのは、児童生徒が考えたり、表現したり、交流したりする時間をしっかり確保することです。先生ばかりがしゃべっている授業はやめてください。

学習過程通りにやるのが最優先ではないので注意してくださいね。



【本時の学習過程イメージ】

学習内容（何を）と、学習活動（どのように学ぶのか）の確認

学習形態の工夫による児童生徒主体の学習活動

- ひとりで学ぶ
- ペア・グループで学ぶ
- みんなで学ぶ

言語活動充実の工夫

- 学習掲示の整備
- 学習シートの工夫
- 言語環境の整備

学習内容と学習活動の自分にとっての意義を振り返る

【導入】 5～10分

活動	ポイント
○児童生徒が確認する ○教師が説明・指導する	○本時の学習過程を学習形態と学習内容、配当時間で示す

【展開】 25～35分

活動	ポイント
○児童生徒が言語活動を行う ・ひとりで学ぶ ・ペアやグループで学ぶ ・みんなで学ぶ ○教師は言語活動を支援する	○言語活動を高めるために、学習掲示や学習シートを工夫する ○言語環境を整備する ○ひとり、ペアやグループ、みんなでの学習活動を効果的に位置づける ○個人の能力を高めることを目的に行う

【まとめ】 5～10分

活動	ポイント
○ひとり、ペア・グループ、みんなでの振り返りを効果的に取り入れる	○学んだことやさらに学びたいことなどをまとめる

本時の学習過程の各段階について

1 単元の学習過程の確認

- ◆単元の学習計画表等を使い、本時が単元の学習のどの段階に当たるのかを確認しながら学習を進めることが、単元全体の見通しをもって学習を進めることにつながります。
- ◆児童生徒に今日の学習内容について説明させるなどの工夫をすると、いっそう主体的な学習を推進できるでしょう。
- ◆1～2分程度と、あまり時間をかけないようにしましょう。

2 本時の学習課題の設定

- ◆単元の学習課題解決に向けた本時の学習課題を設定します。
- ◆単元の学習課題と本時の学習課題の結びつきを児童生徒に理解させることが必要です。
- ◆場合によって違いますが、1～2分程度と、あまり時間をかけないようにしましょう。

3 既習内容や本時の学習内容の確認

- ◆学習課題の設定が終わったら、課題解決に向けて、すでに知っていること、知りたいことなどを確認する必要があります。
- ◆既習内容と結び付けて学習することが、学習内容の定着を図ったり発展させたりすることにつながります。
- ◆場合によって違いますが、1～2分程度と、あまり時間をかけないようにしましょう。

4 本時の学習過程の確認

- ◆「ひとりで」「ペアで・グループで」「みんなで」の学習形態の別、活動内容、活動時間等を確認しましょう。
- ◆黒板に書く、あるいは掲示するなどして一単位時間の学習の流れを児童生徒が視覚的につかむことができるようにしましょう。
- ◆1～2分程度と、あまり時間をかけないようにしましょう。

5 表現モデル・活動モデルの確認

- ◆表現モデルとは、本時の課題解決時の具体的な姿のことです。時間をかけないためには、詳しい解説をワークシートにして配付するなどの工夫が必要です。
- ◆活動モデルとは、本時の課題解決に向けた具体的な学習活動の姿のことです。時間をかけないためには、詳しい解説をワークシートにして配付するなどの工夫が必要です。児童生徒に模範演技をさせることも理解を助けます。
- ◆3～5分程度と、あまり時間をかけないようにしましょう。
- ◆児童生徒がすでに学んだ内容であれば、モデルを示さなかったり時間を短縮したりすることも考えられます。

6 個人での学習

- ◆一人で課題に沿って自分の考えをまとめる段階です。
- ◆一人で作業や思考、表現ができるように、知識を与えたり、理解を深めたり、技能を高めたり、思考操作や言語操作の仕方が分かったりすることのできる解説型シートや、自分で判断力し表現するための作業用シートを準備しましょう。
- ◆「一人で考えてください」と指示した時に、一人で思考や作業ができるように事前の指導や指示を明確に行いましょう。指導があつての活動です。
- ◆5～10分程度と、しっかり時間を確保しましょう。
- ◆課題や児童生徒の実態、指導構想によっては、最初からペアやグループで活動することも考えられます。

7 グループ・全体での学習

- ◆ペアやグループ、全体でそれぞれの考えを交流する段階です。
- ◆まず、教師が「どのような交流をどのようにさせようとしているのか」を明確にし、それを児童生徒に的確に指導する必要があります。
留意点には、以下のようなものが考えられます。
 - (1) 目的の確認…何のために何について交流するのか。
 - (2) 方向性の確認
 - ① 協議 (相互の知識や考え、意見などを出し合いひとつにまとめていく) か、討論 (互いの考えの違いを大事にしながらか多くの考えを関連づけていく) か。
 - ② 交流後の発表について
 - ・結論と理由を述べる、出された主な意見を紹介する、話し合いの経過を説明する…等、交流後、どのように発表するのか。
 - ・全グループ発表なのか、代表グループが発表なのか。
 - ・口頭発表なのか、ボード等を書いたものの一斉掲示による発表なのか。
- ◆グループで交流させる場合には、次のように役割分担すると交流を充実させることができます。
 - (1) 司会者…交流の充実には、司会力の向上が不可欠です。学年に応じた司会力や「司会の進め方」の系統表を作成するなど、指導の充実が必要です。
 - (2) 記録者…交流が終了してから発表内容を検討する時になって、グループで相談してまとめて記録するものではありません。交流を進めながら発言の要点をまとめる力を育成しなければなりません。その際には、どのような形式の記録用紙にまとめさせるのかも重要です。
 - (3) 計時係…交流の時間や進度を管理する力(自ら時間をコントロールする力)。これまでの指導では十分とは言い切れない「時間内に話し合う力」を育成することも重要です。
 - (4) 発表者…交流後に報告する力。発表力(声の大きさ、視線、反応を見て話す、資料を示しながら話す、身振り手振りを入れて話す…等)を系統的に育成することも重要です。
- ◆「話すこと・聞くこと」の指導においては、意図的に4名以上での話し合いを組織することがありますので、その指導と区別しましょう。

8 個人でのまとめ

- ◆交流を終えて、本時の課題解決として考えを個人でまとめる段階です。
- ◆授業において交流をする最終的な目的は、児童生徒それぞれの能力や技能を高めたり、思考力・判断力・表現力を深めたり高めたりすることにあります。教師がまとめをして、それをノートに書き写させるような授業をしていたのでは、一人一人の能力や技能、思考力・判断力・表現力は向上しません。
- ◆必ず、各個人が自分の表現でまとめを行う段階を作りましょう。
- ◆この段階になって、改めて追指導しなくてもよいように各段階の指導を充実させ工夫することが最も重要です。

10 本時の振り返り

- ◆「何が分かり、何が分からなかったのか」「学んだことやさらに学びたいこと」についてまとめる段階です。
- ◆評価シートを活用して、学びの履歴が残るような工夫が必要です。このことが、自覚的・主体的な学習態度を養うことにつながります。学習計画と評価シートを一体化すると、見通しと振り返りが一枚のシートで可能となります。
- ◆評価シートを活用し、教師がコメントを記入したり、一人一人の学びを把握したりすることは評価の確かさにもつながります。

言語活動の充実に向けて、単位時間の中にグループ交流を効果的に位置付ける工夫が求められています。でも、「さあ交流しなさい」というように、具体的な指導をしないで交流させている場合も見受けられるので気を付けましょう。交流の仕方は、一度指導したからできるようになるというものではなく、小学校低学年から発達段階に応じて、指導を積み重ねていく必要があります。

しかも、中学校や高校では、国語科で指導する交流の仕方を他教科でも活用できるように指導していくことが、これからの大きな課題です。他教科の先生方とも連携する必要があります。

さらに、学習形態から学習過程を考えると、「少人数から多人数の学習へ」という一方通行的な学習形態の工夫になりがちですが、全体から個に向かうような学習形態や「個⇒全体⇒グループ」のような柔軟な展開を工夫することも、指導過程の硬直化を防ぎ、多種多様な言語活動の充実につながることを意識してください。



グループ交流を充実させる7つのポイント

ポイント1 交流前に自分の考えをもたせる

グループ交流の目的は、一人一人の感じ方の違いに気づくこと、自分の考えを広げたり深めたりすること、自分の考えを確かに行うことなどです。交流する前に、自分の考えがなければ、これらの目的を達成することはできません。

では、一人一人の児童に自分の考えをもたせるには、どのようにすれば良いのでしょうか。

指導の手立てとして、

- ① 基礎的・基本的な知識や技能、
- ② 思考方法（列挙する、関連付ける、比較する…など）、
- ③ 表現方法（文字数、語彙、用語、文末表現、記述の要素…など）

を指導することが大切です。指導すべきことを指導しなければ、自分の考えをもつことは難しくなってしまいます。さらに、全体指導と個別指導を効果的に行うことや、時間内に自分の考えをまとめられるように、繰り返し指導することが大切です。時間内に考えをまとめられない児童生徒には、グループ交流において、途中まででも説明させるようにします。

ポイント2 目的に応じてグループをつくる

小学校低学年では、まず、ペアでの交流ができるように繰り返し指導することが大切です。その後、3人、4人と、グループでの交流ができるように段階を踏んで指導しましょう。

小学校中学年や高学年におけるグループの人数は、4人が最も指導しやすく、児童が飽きずに交流できる人数のようです。大切なのは、指導者が4人を、目的をもって構成することです。席が近い人のグループ、同じ考えをもった人のグループ、違う考えをもった人のグループなど、目的によってグループ構成を工夫しましょう。

中学校や高等学校では、小学校での指導や生徒の実態を踏まえた上で、どのようなグループ学習をするためにどのようなグループを構成すれば良いか考えてグループを作りましょう。

ポイント3 交流の方向性をとらえさせる

交流の方向性とは、P24でも述べたように

- ① 協議（考えをひとつにまとめる）なのか、
- ② 討論（議論によって考えを深める）なのか

を押さえることです。考えをひとつにまとめる交流と、お互いの考えを深め合うための交流では、交流の進め方が違うことを、指導者自身が理解して指導しなければなりません。

ポイント4 交流後の発表の仕方をとらえさせる

グループ交流後に全体交流をする場合、どのように発表するのかを事前にとらえさせる必要があります。

まず、

- ① 協議であれば、結論とその理由を説明する、
- ② 討論であれば、代表的な考えや交流内容を説明する

など、発表内容についての事前指導が必要です。

また、口頭で発表するのか、発表ボードを用いて発表するのかなど、発表形式についての事前指導も必要です。

ポイント5 交流時間を守らせる

授業構想時に、時間について綿密に計画しているわけですから、時間内に交流できなければ、単位時間の授業を充実させることはできません。時間を守れなかったグループについては、時間内に充実した交流ができるようにするには何が必要かを注意深く観察し、そのグループに対して指導する必要があります。

ポイント6 役割分担を明確にして交流させる

4人で、司会、記録、発表、計時などの役割を分担することで、一人一人が交流に集中できるようになります。また、それぞれの役割を果たすことで、交流の在り方を学んでいくことにもなります。単位時間ごとに役割を交替し、それぞれの役割を果たすことができるように指導します。

司会者には、進行シナリオを教師が準備したり、自分で考えさせたりします。考えを出し合うとき、広げるとき、深めるとき、まとめるときなど、目的に応じた司会の言葉を考えて準備させておく必要があります。記録者には、交流が終わってからまとめるのではなく、交流しながらまとめていく方法を指導する必要があります。これができなければ、交流の時間が延びてしまうことにつながります。発表者には、記録者の記録に基づいて発表させます。計時係には、時間終了の合図を行わせるだけでなく、進度によって進行を催促したり、1分前の合図を送ったりさせます。

ポイント7 公の場の対話であることを意識させる

国語科におけるグループ交流は、私的なおしゃべりではなく、公の場での対話であることを指導します。声の大きさに注意し丁寧な言葉遣いで話すこと、自分の考えを分かりやすく伝えるために結論から述べること、相手の考えを理解するために質問を考えたり自分の考えと比べたりしながら聞くことなどが、グループ交流を充実させるためには大切なことです。

全体交流を充実させる3つのポイント

ポイント1 グループ発表のさせ方を工夫する

全体交流では、発表のさせ方を工夫することが、交流時間を短縮したり児童生徒の考えを深めたりすることにつながります。交流時間を短縮する方法として、全グループに並立的に発表させるのではなく、1グループに発表させた後、同じ内容を省略して発表させること、発表ボードを一斉に黒板に掲示させることなどの工夫が考えられます。

児童の考えを深めさせる方法としては、結論が出なかったり迷ったりしているグループから発表させるなど発表の順番を工夫したり、各グループの考えを整理分類したりするなどの工夫が考えられます。

ポイント2 論点を決めて全体交流をする

全体交流の進行は、慣れた児童生徒以外は、本時の目標達成を目指して教師が務めます。本時の学習課題や学習内容に照らして交流の論点を幾つかに絞り、論点に沿った交流にします。

全体交流の司会を児童生徒に務めさせるためには、計画的に継続して指導する必要があります。

ポイント3 全体交流のまとめ方を工夫する

全体交流を終えた後、学級として考えをひとつにする場合に代表児童生徒にまとめさせることや、一人一人の考えを深める場合でも代表児童生徒に交流した主な内容を発表させることは、児童生徒の考えを深める工夫のひとつとなります。

3-(5) 評価を工夫改善する

Q1 学習評価の目的について教えてください？

A1 学習評価の目的には、大きく二つの側面があります。一つは、教師の立場から、指導改善に生かすための側面であり、もう一つは、児童生徒の立場から、児童生徒や保護者に実現状況を伝えて学習改善を促すための側面です。

Q2 学習評価の改善に関する基本的な考え方について教えてください？

A2 学習評価の改善に関する基本的な考え方は三つあります。一つ目は、学習指導要領に示す目標に照らしてその実現状況を見る評価（目標に準拠した評価）を引き続き着実に実施すること。二つ目は、新学習指導要領の趣旨（学力観等）や改善事項（言語活動を通して指導する等）を適切に反映すること。三つ目は、学校や設置者の創意工夫を一層生かすことです。

Q3 目標に準拠した評価について、もう少し詳しく教えてください？

A3 目標に準拠した評価を実施するためには、教科の目標だけでなく、領域や内容項目レベルのねらいも明確にする必要があります。そのねらいに照らして、児童生徒の学習状況として実現された状態を具体的に評価規準として示さなければなりません。評価規準は、各学校において設定するものです。適切な評価規準の設定による着実な評価の実施が求められています。

Q4 各学校で学習評価を改善するための留意点にはどのようなものがありますか？

A4 まず、観点ごとの評価をバランスよく実施すること、学習評価をその後の学習指導や学校の教育活動全体の改善に結びつけることです。また、学習評価の妥当性や信頼性を高めるための組織的・計画的な取組も求められます。教師間の共通理解を図るため、校内研究・研修を工夫しましょう。さらに、保護者や児童生徒に、学習評価について事前に説明したり、評価結果の説明をしたりすることも重要です。実践事例を着実に継承していくことも重要です。

評価の進め方(手順)について

このガイドブックにおける
「授業づくりの手順」

□評価の進め方

□評価の留意点

(3) 単元を構想

単元で取り上げる指導事項と言語活動を確認する

単元の目標を設定する

単元の評価規準を設定する

単元の指導計画と評価計画を作成する

- 年間指導計画を基に、重点的に取り上げる指導事項を確認する。☞「Ⅲ 資料編(p62)」へ
- 学習指導要領の目標と内容を踏まえる。
- 児童生徒の実態、前単元までの学習状況等を踏まえる。
- 「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」の「評価規準に盛り込むべき事項」を参考にする。
- 上記で設定した単元の目標を踏まえる。

☞具体的作成例は、「Ⅲ 資料編(p63～64)」へ

(4) 本時を構想 ・授業実践

本時の指導計画と評価計画を作成する

指導に生かすための評価と記録に残すための評価を明確にする

- どんな評価資料を基に、どのような状況等の目安で評価するかを考える。
- 指導に生かすための評価を行い、学習指導の改善に生かす。
- 記録に残すための評価を行い、児童生徒や保護者に実現状況を伝え、児童生徒の学習改善に生かす。

(5) 評価を工夫改善

記録に残すための評価を工夫する

- ・ノート、ワークシート
- ・作品
- ・実演や映像
- ・ペーパーテスト
- ・レポート
- ・質問紙、面接 等

- 記録に残すために、ノートやワークシート、作品や映像、ペーパーテスト等を用いて評価を行う。
- 自己評価や児童生徒同士の相互評価を工夫する。
- 観点ごとに評価を整理する。場合によって、観点ごとの総括的評価を記録する。
- 学期末や学年末の観点ごとの総括に生かす。

ノートやワークシートによる評価の工夫について

＜工夫1＞ 児童生徒の思考・判断・表現を見て取れるノートやワークシートを工夫する。

- (1) 思考・判断の視覚化を図る。
 - ・列挙、順序づけ、予想、整理、分類、比較、類推、推論、多面的思考、統合、関連付け、選択、論理的思考、批判的思考、評価など、思考操作の別を記述させる。
 - ・思考過程をナンバリング、マッピング、表、フローチャート、KJ法などによって視覚化する。
- (2) 自分の考えを表現させる。
 - ・条件（構成、文数、字数、主語・述語・接続語等の指定、使用語彙の指定など）を提示し、コンパクトに自分の考えを記述させる。
 - ・本時の課題解決（ゴール）として、自分の考えをまとめさせる。
- (3) 自分の考えの変容も記録に残させる。
 - ・交流後に考えを再構成させる場合、棒線や書き加え等で訂正や修正を行わせるか、新たな考えを隣に記述させる。
- (4) 板書事項を書き写すだけ、情報を抜き書きするだけのノートやワークシートにならないよう工夫する。

＜工夫2＞ 児童生徒が自身の学習をメタ認知できるようなノートやワークシートを工夫する。

- (1) 学習の見通しや振り返りを記述させる。
 - ・学習に対する期待や学習計画・学習内容の見通し、学習内容や学習過程の振り返りを記述させる。
 - ・振り返りにおいては、自身の考えの変容やその経緯なども記載させる。
- (2) 学習についての自己評価や相互評価を記述させる。

作品による評価の工夫について

＜工夫1＞ 作品における評価規準を設定する。

- (1) 手立てとして次のようなことが考えられる。
 - ・教師自身が作品をつくることで評価のポイントを明らかにする。
 - ・単元の評価規準を、明確化・焦点化・細分化・具体化し、作品のどの部分で評価するのかを明らかにする。
- (2) 留意点として次のようなことが考えられる。
 - ・作品における評価規準を設定する際に、評価の観点をバランスよく設定する。
 - ・作品を比べて考えることで、評価規準をより確かなものに修正していく。
 - ・複数の評価者を工夫したり、児童生徒の自己評価や相互評価を参考にしたりする。

＜工夫2＞ 場合によって、「国語への関心・意欲・態度」や「言語に関する知識・理解・技能」（※高等学校では「知識・理解」）も評価する。

実演や映像による評価の工夫について

＜工夫1＞ 音声表現による評価をする場合には、映像を利用することも考えられる。

＜工夫2＞ 音声表現は、すぐに消えてしまうものであるため、文字表現による評価以上に事前に評価規準を具体化したり観点を絞り込んだりして、その場で即座に評価できるよう準備しておく必要がある。評価規準がぶれることのないように留意しなければならない。

ペーパーテストによる評価の工夫について

<工夫1> 評価規準（学習指導要領の目標や内容）を具体化した出題とする。

- (1) ペーパーテストは、指導によってどんな力が身に付いたのかを測るためのものであることを自覚する。指導した（学習した）内容を評価しなければならない。
- (2) 思考・判断・表現を伴う基本的出題例として、次のようなものが考えられる。出題例は、これまでに出题されることが少なかったのではないかと考えるものを象徴的に取り上げた。選択問題にしたり、記述問題でも条件を付したりすることで、採点基準を明確にする工夫が必要となる。

<出題例・小学校>

- ・話し手が知らせたいと思っている大事なことは何ですか。（低学年エ）
- ・〇〇さんたちの話し合いの中で、話し合いの流れに沿っていない話し方をしているのは誰ですか。（低学年オ）
- ・〇〇という話題について取材しようとするとき、ふさわしい取材方法はどれですか。（中学年ア）
- ・話し合いの中で、〇〇さんは、なぜこのような質問をしたのですか。（中学年エ）
- ・これらの取材メモの中から、〇〇にふさわしい情報を3つ選びなさい。（高学年ア）
- ・このあと、結論を出すためには、司会者はどのように発言すれば良いですか。（高学年オ）

<出題例・中学校>

- ・司会者が、〇〇さんの発言に対して注意したのはなぜですか。理由を説明しなさい（1学年オ）
- ・次のようなフリップをどの段階で用いるのがふさわしいですか。理由も説明しなさい。（2学年ウ）
- ・〇〇さんのスピーチを評価しなさい。（3学年エ）

<出題例・高等学校>

- ・〇〇さんの話の構成や展開の仕方の特徴を説明しなさい。（国語総合ウ）
- ・〇〇さんの意見とその根拠の妥当性について説明しなさい。（国語表現イ）
- ・〇〇さんの意見をさらに説得力をもったものにするには、どのような情報が必要ですか。（現代文Bエ）

<工夫2> ペーパーテストと授業を連動させて考える。

- (1) どんなペーパーテストにするかを考えながら授業をする。または、ペーパーテストを考えてから授業をする。

例えば

- ・小学校（高学年オ）「互いの立場をはっきりさせながら、計画的に話し合う。」の場合
 - 自分の立場を決めるとはどういうことか。
 - 計画的に話し合うとはどういうことか。
- などを授業で指導しなければ評価することはできない。

- (2) 全国学力・学習状況調査問題から授業を改善する。

<工夫3> 具体的言語活動の設定を意識した出題とする。

- (1) 「いわてスタンダード」「Gアップシート」の考え方を参考にする。
 - ・平成25年3月に総合教育センターが、中学校国語・数学・英語の3教科で作成した評価規準表とその評価問題。
- (2) 全国学力・学習状況調査問題から授業を改善する。

レポートによる評価の工夫について

<工夫1> レポートを書かせる目的を明確にもつ。

- (1) 何を評価するためのレポートなのかを明確にする。
- (2) ペーパーテストや作品等でははかりきれない内容か確認する。

<工夫2> レポートの様式や内容を指導する。

- (1) 評価規準に照らして、何をどのように書かせるのかを明確にする。

質問紙、パフォーマンスによる評価の工夫について

<工夫1> 質問紙によって、学習意欲や児童生徒の学習内容に関する変容を把握する。

- (1) 国語への関心・意欲・態度に反映させる。
- (2) 質問紙と、作品やペーパーテストなどを組み合わせて判断するようにする。

<工夫2> 質問紙やペーパーテストでは把握しきれない内容について、パフォーマンスさせて評価する。その場合には、映像による記録をとっておくこと、判断基準をあらかじめ決めておくことなどに留意する必要がある。

Ⅱ 実践編

小学校第4学年単元構想表（東京書籍；「クラスで話し合おう」）

※平成27年11月に実践した授業

【児童の実態】

【身に付けさせたい力】

- ・「案内係になろう（4年上）」の学習では、問い合わせに対して、最低限の必要な内容を答えることはできていたが、役立つ情報など相手の立場に立った内容で答えることができた児童は少なかった。
- ・「メモの取り方をくふうして聞こう（4年上）」の学習では、ほとんどの児童が箇条書きや記号などを使って短くメモを取ることができるようになってきた。ただ、説明の内容が長くなると、メモに気を取られすぎて、大事なことを落としてしまう児童も見受けられた。
- ・学級会などでの話し合い活動では、自分の意見を発表できる児童に限られている。また、話し合いの進行が苦手な児童も多い。

- 司会者
 - ・「話し合いの進め方」に沿って進行する。
 - ・「話し合い」では、出てきた意見を整理したり、議題からそれないように注意したりする。
- 提案者
 - ・全員がよく分かるように提案した理由を説明する。
- 記録者
 - ・出された意見や決まったことを正確に記録する。
- 参加者
 - ・話し合いでは、進行に沿って話し合う。
 - ・発言する時は、他の人の発言をよく聞いて、議題に沿って発言する。
 - ・聞く時は、自分と友達の見解の共通点と相違点を考えながら聞く。

【単元の言語活動】

話し合いでの役割を理解して、司会者、提案者、記録者、参加者（質問や意見）のワザ（方法）を使って話し合う。

【言語活動の特徴】

本単元で学習する司会者、提案者、記録者、参加者（質問や意見）のそれぞれの役割を理解し、ワザを使って話し合い活動を行う。

1. 単元名 クラスで話し合おう

2. 単元の目標

司会者、提案者、記録者、参加者というそれぞれの役割を意識しながら、議題に沿って話し合うことができる。

3. 単元の評価規準

【国語への関心・意欲・態度】

☆自分の役割を意識して、話し合いをよりよく進めることに意欲的に取り組もうとしている。

【話す聞く能力】

☆話し合いの目的や進め方をとらえ、互いの考えの共通点や相違点を考えて、司会や提案者、記録者、参加者などの役割を意識して、議題に沿って話し合っている。（Aーオ）

【言語についての知識・理解・技能】

☆言葉には、考えたことや思ったことを表したり伝えたりする働きがあることに気づいている。（伝国イ（ア））

4. 教材 「クラスで話し合おう」（東京書籍）

5. 単元の展開（全7時間）

次	時	学習活動	言語活動に関する指導上のポイント（○） 学習活動に即した評価規準（関・話聞・言）等
第0次		学級で話し合いたいことを自由に投函できる議案箱を設置し、その中から事前に議題を選べるようにしておく。 （話し合いのグループは、それぞれの議題に対する意見を勘案して、事前に決定する。）	
第1次	第1時	○普段の話し合いの様子を振り返る。（25分） ○教材文を読み、この単元でのねらいを確かめ、学習計画を立てる。（15分） ○話し合いの議題について、確かめる。（5分）	○話し合いの様子をビデオ撮影しておき、導入時にビデオから普段の話し合いの様子を振り返る。 関 今までの話し合いを振り返り、この単元で役割を意識して話し合うことに意欲的に取り組もうとしている。（観察・発言）
第2次	第2時	○教科書P42を読み、話し合い活動の進め方と役割を確かめる。（10分） ○「島村さんのクラスの話し合い」を役割分担して読み、それぞれの役割ごとに気づいたことや必要なことなどをまとめる。（35分）	○司会、提案者、記録者、参加者のそれぞれの役割があることを確かめる。 ○議題ごとの役割分担は、事前に決定しておく。 話聞 話し合いの進め方と、話し合いに必要な役割を理解している。（発言・ワークシート）
	第3時	○役割ごとに集まって、話し合いのワザ（方法）をまとめる。（20分） ○役割ごとにまとめたワザを、全体の場で共有する。（25分）	○それぞれの役割ごとに、話し合い活動でのワザ（方法）を考えさせ、まとめさせる。 ○どの役割でも対応できるように、まとめたことを全体の場で確かめ合う。 話聞 それぞれの役割に応じたワザを考え、まとめている。（発言・ワークシート）
	第4時	○それぞれの役割ごとに、話し合いのための準備をする。（45分）	○進行の仕方や提案の仕方、自分の意見をまとめるなど、それぞれの役割に応じた、話し合いのための準備を行う。 話聞 自分の役割について、話し合うための準備ができています。（ワークシート）
	第5時 ・ 第6時	○本時の見通しをもつ。（5分） ・前時想起 ・学習課題の確認 ・本時の見通し ○課題を解決する。（35分） ・話し合い活動（グループ） ・振り返り（グループ） ・交流（全体） ○本時の学習を振り返る。（5分） ・振り返り（個人）	○前時まででまとめた話し合いのワザを使って、話し合いを行う。 ○議題に対する提案を短冊に書き、提示しながら発言することで、視覚的に見えるようにする。 話聞 自分の役割を意識しながら、司会の進行に沿って話し合っている。（発言・行動観察）
第3次	第7時	○話し合いの様子を振り返る。（20分） ・役割のワザについての振り返り（個人） ・交流（全体） ○今後の話し合い活動で気を付けたいことを発表する。（20分） ・交流（全体） ○単元の学習を振り返る。（5分） ・実用的なワザについてまとめる（全体）	○話し合い活動の様子から、ワザが有効であったかどうかを話し合う。 ○ワザがより実用的なものになるようにまとめる。 話聞 それぞれの役割でのワザをまとめている。（発言・ワークシート） 言 適切な言葉で話すことが大切であることに気づいている。（発言・ワークシート）
第4次		○この単元では設定しない。	

【第1時 これまでの話し合いの振り返り】

○クラスで話し合おう No.1 名前)

課題
これまでの話し合いを振り返りこの単元での学習内容をたしかめよう。

☆ 普段の話し合いの様子を振り返って記入しよう。

① 良いと思うこと

《司会》 しっかりと聞く声で発言していた
《発言》 しっかりと聞く声で発言していた

② かいぜんした方がよいと思うこと

《司会》 途中で止まっているところがあった
《発言》 ほとんどが同じ人が手をあげていた

本単元での学習のゴール

話し合いを論じてそれぞれの役わりの役割を覚えよう

☆ 話し合いに必要な役割

司会、提案者
記録者、参加者

【第2時 話し合い活動の進め方と役割を確かめる】

○クラスで話し合おう No.2 名前)

課題
話し合い活動での進め方と役割をたしかめよう。

☆ 話し合いの進め方

- ① 議題をたしかめる
- ② 意見を出し合う
- ③ それぞれの意見についてしつ問する
- ④ それぞれの意見について話し合う
- ⑤ 意見をまとめる

☆ それぞれの役割をたしかめよう。

○司会者

議題をたしかめる
意見をまとめる
話し合いを進める

○提案者

議題を分かりやすく提案する

○記録者

出された意見などを記録する

○参加者

話し合い活動にやるかする(しつ問や意見を出す)

課題

役割ごとの話し合いのワザを
よこめよう

【ワザ】とは・・・話し合いをスムーズに行うためのやり方(方法)

☆

提案者

のワザ(方法)

① 議題をたしかめる。

理由を言う



② 意見を出し合う。

③ それぞれの意見について、しつ問する。

④ それぞれの意見について、話し合う。

⑤ 意見をまとめる。

【提案者のワザ】

【提案者のワザ】

☆提案することと理由を分かりやすく話す。

☆まず、結論(提案内容)を先に言う。(ワザ)

(私は〜のために、〇〇をするということを提案
します。)

☆次に、理由を説明する。(ワザ)

(理由は、〜だと考えたからです。)

・例を挙げて(例えば、…)

・順序を考えて(まず、次に、そして、…)

※ 考えが伝わるように、分かりやすい言葉を使
って説明する。

【提案のある話し合いの進行】

1 議題をたしかめる (約1分)

☆これから〇〇について話し合いを始めます。

☆話し合いの進め方を確認します。(ウザ)

始めに、提案者から議題に対する意見を提案してもらいます。次に、

2 提案について質問する (約3分)

☆〇〇さん、提案をお願いします。

☆〇〇さんの提案に質問はありませんか。

(よく分からないことやよくわしく聞きたいことなどを

質問してもらう。)(ウザ)

※ 司会者や記録者が質問してもよい。

3 提案についての意見を発表する (約5分)

☆〇〇さんの提案について、それぞれの意見を発表して下さい。

(一人ひとりが賛成、反対の立場をはっきりさせて、その理由もつけ加えさせる。)(ウザ)

※「反対」の立場の人には、自分の意見も発言させる。(ウザ)

※(出ないと思ったら、出された意見をたしかめる。)(ウザ)

4 出された意見について、話し合う (約5分)

☆出された意見について、良い点や問題点を話し合います。まず、△△という意見については、どうですか。

(良い点や問題点をさせます。)(ウザ)

(同様に出了された意見について話し合う。議題にそって話し合うようにする。)(ウザ)

※ 意見が出ない場合(ウザ)

○わたしは、△△という意見について□□と思うのですが、ささんはどう思いますか。

※ 賛成や反対だけをいう人には、理由もたずねる。(ウザ)

5 意見をまとめる (約1分)

☆△△がいいという意見が多く出ましたね。

☆では、〇〇という議題については、△△をするということでもいいですか。

☆これで、話し合いを終わります。

※1 間があかないように進めよう。

2 みんなに聞こえる声で進めよう。

【記録者のワザ】

1

議題をたしかめる

- ☆議題（話し合いのテーマ）
- ☆司会、提案、記録の記名
- ☆提案内容（理由もかん単に）

2

提案について質問する

- ☆提案された意見（かん単に）
- ☆提案された意見への質問の回答（かん単に）
- ※ 短い言葉にしたり記号を使ったりするなど素早くメモをとる（ワザ）

3

提案についての意見を発表する

- ☆賛成、反対の数をチェック（ワザ）
- ☆反対の場合の意見（かん単に）
- ※ 短い言葉にしたり記号を使ったりするなど素早くメモをとる（ワザ）

4

出された意見について話し合う

- ☆参加者の意見のチェック（賛成か反対か）（ワザ）
- ☆良いという意見のチェック（ワザ）

5

意見をまとめる

- ☆最終的に決まった意見（結論）を記録する
- ※ よゆうがあれば、なぜその意見がいいのかという理由も付け加えておく（ワザ）
- ※ 1 記録者は、司会者の補助も行う。（司会者がこまった時に、手助けをする。）
- 2 記録者は、意見や質問があれば、参加して発言して良い。

参加者のワザ

2

提案について質問する場面で：

☆よく分からないことやよくわしく聞きたいこと、知りたいことなどを質問する。(ワザ)

※ 質問の回答がよく分からないと思ったときは、もう一度聞き返す。

3

提案についての意見を发表する場面で：

☆まず、「賛成・反対」の立場をはっきりさせる。

(わたしは、○○という提案に賛成です。)

☆次に、理由をつけ加える。(ワザ)

(理由は、だからです。)

・例をあげて(例えば、…)

※ 自分の意見があれば、つけ加えて発言する。

(ワザ)

4

出された意見について話し合う場面で：

☆出された意見について、良いと思う点や問題点を
出し合う。(ワザ)

☆友達の意味を聞いて、「良い」と思ったら受け入れる。

☆立場を明確にしながら話す。(賛成、反対など)

☆議題にそって、最も良いと思う意見を考える。

(○○の意見を聞いて、△△と思った)

(○○と□□の意見を合わせて、◇◇にしてはどう

か)など

※ 賛成か反対かでまよった時(ワザ)

(自分が実際にできるかどうかを考える。)

(その意見で困る場合がないか考える。)

※1 進んで発言しよう。(3回以上)

2 反応しながら話し合いに参加しよう。

【第5・6時 話し合い活動（話し合いグループ）】

○クラスで話し合おう No.4 名前()

課題
話し合いを通して司会者と参加者の必要なワザや新しいワザを見つけよう。

(D) グループ
自分の役割《参加者》

議題【みんなが楽しめるようなお祭りにしようとしたらどんな内容がいいか】
議題に対する提案

ビュンゴをする

出された意見

時間を決めてやる

《自分の立場》

替り成

《理由》

そうすればたぶんみんながルールを知っていると思うので楽しくすることができると思います。

《自分の意見》

まとめ

室内でゲームをする

振り返り1 《話し合い活動を通して》

【自分の役割でうまくできたことやうまくできなかったことを書きましよう。自分から意見を言えたので良かったです。】

振り返り2 《ワザについて》

【今後使っていきたいと思ったワザ、授業を通して気づいたこと、もっと知りたいこと、疑問など気づいたことを書きましよう。】

よく分からないことを質問する。

自己評価 (○○○)

①自分の役割ができたか。

②話し合いのワザを利用できたか。

③スムーズな話し合いに協力できたか。

○ ○ ○

【第5・6時 話し合い活動（モニタリンググループ）】

○クラスで話し合おう No.5 名前()

課題
話し合いを通して司会者と参加者の必要なワザを見つけよう

☆ 「話し合い」の様子をモニタリングし、ワザについて気づいたことをまとめよう。

② 回目 《A》グループ

① 司会者・記録者

《必要なワザ》
話し合いの進め方をかくにしている。

《新しく考えたワザ》
司会者がこままっている時記録者が教えていた。

② 提案者・参加者

《必要なワザ》
けつろんを言っている

《新しく考えたワザ》

③ 話し合いをモニタリングしての感想（グループの話し合いの様子から）
間が合っていた。
声が小さかった。

司会者がはっきりした声で言っていた。

振り返り2 《ワザについて》

【今後使っていきたいと思ったワザ、授業を通して気づいたこと、もっと知りたいこと、疑問など気づいたことを書きましよう。】
司会者がこままっている時記録者が教えていたことを使っていました。

中学校第2学年単元構想表（光村；「身近な人の『物語』を探る」）

※平成27年11月に実践した授業

【生徒の実態】

【身に付けさせたい力】

- ・スピーチの学習を通し、目的に応じた音量、速度、間の取り方について学習してきている。
- ・講話などを聞き、事前に準備した質問、一問一答式の質問に関しては出すことができても、自分のねらいに応じた関連質問や、その場で考えたアドリブの質問はできない生徒が多い。
- ・聞いた内容を羅列する生徒が多く、文章の構成や展開を意識し、再構築することを苦手としている。
- ・視点をもって推敲する指導が弱かったため、誤字脱字の指摘のみに終わってしまうことが多かった。

- 社会生活の中から話題を決め、インタビューするための材料を集め、整理する力（Aーア）
- 要点をとらえながら相手の思いを聞き、自分の考えと比較する力（Aーエ）
- 記事として伝えたい事実や事柄を明確にして、文章の構成を工夫する力（Bーイ）
- 書いた記事を互いに読み、文章の構成の仕方や表現の仕方などを交流する力（Bーオ）

【単元の言語活動】

復興を支える地域の職業人にインタビューし、記事にまとめる。

【言語活動の特徴】

この単元は「話すこと・聞くこと」と「書くこと」の複合単元である。単元のゴールとして、復興を支える市内の職業人の生き方についてインタビューし、新聞記事にまとめるという言語活動を設定する。岩手日報社の復興特集記事「いまを生きる」をモデルとし、書いた記事で、被災地の中で一生懸命働いている大人の輝きを内陸の中学生に紹介するという目的意識をもたせる。

職場体験や新聞記事、家族からの話などを参考に、取材対象と取材内容を決め、復興に向けての思いや生き方を取材する。その取材対象の話から、自分が地域に伝えたい内容を選択し、800～1000字にまとめるという活動である。

「書くという目的をもちながら聞く」というねらいを意識させ、取り組ませたい。今回は、ボイスレコーダーを使用し、メモは必要最低限のものとした。

1. 単元名 いまを生きる～復興を支える職業人にインタビューし、記事にまとめよう～

2. 単元の目標 取材相手から仕事や復興に対する思いをインタビューし、その人の魅力を伝えられるように新聞記事にまとめることができる。

3. 単元の評価規準

【国語への関心・意欲・態度】

- ☆記事にまとめるために、取材相手からの的確に話を聞き、まとめようとしている。
- ☆読者に取材相手の魅力や思いが伝わるように、記事にまとめようとしている。

【話す・聞く能力】

- ☆取材相手から必要な情報を引き出すために、適切な質問をしている。（Aーア）
- ☆取材相手の話の要点を押さえながら聞き、自分の考えと比較している。（Aーエ）

【書く能力】

- ☆伝えたい事実や事柄を、効果的に構成し、記事にまとめている。（Bーイ）
- ☆友人の書いた記事に対し、視点に応じたアドバイスしている。（Bーオ）

【言語についての知識・理解・技能】

- ☆文章を学年別漢字配当表に示されている漢字を使って書くことができる。（伝国ウ（イ））

4. 教材 「身近な人の『物語』を探る」（光村図書）、岩手日報の記事「いまを生きる」

5. 単元の展開（全8時間）

次	時	学習活動	言語活動に関する指導上のポイント（○） 学習活動に即した評価規準（ 読 ・ 話聞 ・ 書 ・ 言 ）等
第0次		○学習旅行で、新聞記者に取材するときの思いや工夫を聞く。 ○新聞を読み、復興記事で興味のある記事をスクラップする。	
第1次	第1時	1. スクラップ、職場体験で一番興味をもったものを紹介する。 2. 今までの「話すこと・聞くこと」の学習を振り返る。 3. 学習課題を設定する。 4. 実際の新聞記事を読み、ゴールをイメージする。 5. 取材相手を決め、学習計画を立てる。（個人→グループ） ☆「取材」「構成」「記述」「推敲」「交流」	話聞 社会生活に関心を持ち、記事を探し、取材相手を決めることができる。 ○作った新聞を目的に応じて、どこに発信するのかを話し合わせる。
第2次	第2・3時	1. モデル文の書かれている内容を分析する。（個人→グループ） 2. 質問を予想する。（個人） 3. インタビュー構成表と、インタビューのモデルビデオを見て、どのような質問をしているのか、コツがあるのかを話し合う。（グループ） 4. インタビューの練習をする。 ☆校内の先生に対し、一人の生徒がインタビューし、もう一人は記録と評価をする。（交代で）	書 記事の構成の工夫を理解することができる。 ○付箋を使って交流させる。 話聞 効果的な質問の出し方、応答の仕方について理解し、意識しながら話すことができる。 ○タブレットを使い、相互評価、自己評価を行わせる。
	第4時	1. 事前調査から質問事項を考え、インタビュー構成表を作る。（個人→グループ交流） 2. 構成表を修正する。 3. インタビューの練習をする。	話聞 取材相手について事前に情報を収集し、適切な質問を考えることができる。
☆取材対象者に依頼し、休日や放課後などを使って、インタビューする。			
第3次	第5・6時	1. モデル文の書き方の工夫を分析する。（個人→グループ） 2. 構成を考える。（個人→グループ） 3. 記述する。（個人）	書 モデルを分析し、効果的な構成や書き方について理解し、記事を書くことができる。
	第7時	1. 書いた文章を交流し、推敲する。 ☆推敲の視点に基づき、グループで読み合い、推敲し合う。	書 互いの文章を推敲し、よりよい表現について考えることができる。 言 学年別漢字配当表に示されている漢字を使って書くことができる。
	第8時	1. 清書する。（個人） 2. 書いた文章を読み、評価し合う。 3. 単元を振り返る。	書 書いた文章を互いに読み合い、文章の構成の仕方や表現の仕方などを交流することができる。
第4次		☆内陸の中学生や地域の方々に送り、読んでいただく。	

【第1時 学習計画を立てる】

<p>3 学習計画を立てよう。</p> <p>個人の考え</p> <p>インタビューの相手を決める。 女性の方がいい。 事前学習 インタビューする インタビューの内容をまとめる。 記事を書き、構成を考える。 新聞完成</p>	<p>1 今日の記事の持つ良さについて考えよう。 新聞記事の持つ良さについて考えよう。 写真を使うことで、ひと目見るだけで分かる。 書き方によってその場をくわしく、そして</p> <p>2 どんな相手に新聞記事を紹介したいか考えよう。 川崎中学校 教育長・市長 岩手日報</p> <p>情報を知ることが出来る 写真など くわしく分かる その場 新聞で復興のかわり 取り組みが分かる 止らなくても 取り組みが分かる 止らなくても 取り組みが分かる 止らなくても</p>
<p>グループの話し合い</p>	<p>氏名 ()</p>

- ・学習旅行で聞いてきた「風化させない」という意図を想起させた。生徒たちは、地元の人たちにも読んでもらいたいが、震災後交流のある内陸の中学校に発信したいと話合った。
- ・新聞記事を書くためには、どのような学習が必要か、今までの経験を想起させ、計画を立てさせた。

【第2時 モデル文を分析する】 岩手日報の記事「いまを生きる」より

4年11月14日 2015年2月3日 2015年

「三陸 大船渡にワイン文化を根付かせる。100年以上続く新...」

及川さんの目標
これからの未来 情熱

震災後のがんばり 成果

目指す古里のすがた
今までの取り組み

高校時代のこころ

古里の若者の思い

数種類の新聞記事の中から、一番まねてみたい記事の構成を付箋で分析させた。

【第3時 モデルビデオを見て、インタビューの仕方について分析する】

お礼の言葉	質問6	質問7	質問8	質問9	質問10	質問11	質問12	質問13	質問14	質問15	質問16	質問17	質問18	質問19	質問20	あいさつ
	この頃の目標	由起美先生の 若くは復興には 必じん明いかな？	ふるさとへの思いは 震災後変わりましたか？	仕事をする上で 大切にしていること	震災当時の思い 被災者としての思い 被災後、仕事への思いは変わった？	仕事の内容がいかに 必ず変わりましたか？ 大変なこと	震災当時の思い 被災者としての思い 被災後、仕事への思いは変わった？	仕事の内容がいかに 必ず変わりましたか？ 大変なこと	震災当時の思い 被災者としての思い 被災後、仕事への思いは変わった？	仕事の内容がいかに 必ず変わりましたか？ 大変なこと	震災当時の思い 被災者としての思い 被災後、仕事への思いは変わった？	仕事の内容がいかに 必ず変わりましたか？ 大変なこと	震災当時の思い 被災者としての思い 被災後、仕事への思いは変わった？	仕事の内容がいかに 必ず変わりましたか？ 大変なこと	震災当時の思い 被災者としての思い 被災後、仕事への思いは変わった？	あいさつ
	い授業	今までのことを かんがえて それは何も 新しいお金の活法	愛着 いかに大切に 大人も子供も 「ええな町に 外にでもたべたい	① つづいてほしい ② みんなのお力で 成った ↓ 何かが入る ↓ 下の力 ↓ 気持よく ↓ やすく	大井 指示 待つ 四日後 家族 信じられる 母 4ヶ月後 ↓ 気持ちよく ↓ やすく	生徒かやる、力を発揮 その中で更新、その時一番の 一番震災 相対の顔を見る キコつたぞ 持つ 友達の力が大きい うなずく又モ	そのまま おれんじに思ったことを 三回三回三回 ↓ 学んだ 部活ホルン だいた	20年 最初の頃 担任 × 今毎日生徒とのやりとり その後 身重 中絶 産後 おれんじの 思い出	先生になって何年？ 先生にならないうち 先生にならないうち 先生にならないうち	先生になって何年？ 先生にならないうち 先生にならないうち 先生にならないうち	先生になって何年？ 先生にならないうち 先生にならないうち 先生にならないうち	先生になって何年？ 先生にならないうち 先生にならないうち 先生にならないうち	先生になって何年？ 先生にならないうち 先生にならないうち 先生にならないうち	先生になって何年？ 先生にならないうち 先生にならないうち 先生にならないうち	先生になって何年？ 先生にならないうち 先生にならないうち 先生にならないうち	

インタビューを生きる。復興を支える職業人にインタビューし、記事にまとめる。①
 インタビューモデルB
 結果
 が楽に
 つい質問がたまたまある

インタビューの構成表にメモを取る形で、ビデオを見せた。Aのビデオは、一問一答式のもの。Bのビデオは、ねらいに沿うように、追加で質問したり、反応を工夫したりしたものである。

【第4時 インタビュー構成表を作る】

お礼の言葉	質問6	質問7	質問8	質問9	質問10	質問11	質問12	質問13	質問14	質問15	質問16	質問17	質問18	質問19	質問20	あいさつ
	この仕事のやりがいは何ですか？	仕事をする上で大切にしていることは何ですか？	震災後、このカママンの仕事についての思いは変わりましたか？	震災当時、今までの生活に比べて、変化は見られますか？	復興の目標をカママンとして見ると、今の復興はどういうふうな感じですか？	震災後、おきて、高田の町が大変なところになりました。おきて、おきて、何をしようかと思いませんか？	カママンを続けていく中で、大変なところはありますか？	カママンになろうと決めたのはいつごろですか？	カママンのほかに何かやりたいことはありますか？	カママンのほかに何かやりたいことはありますか？	カママンのほかに何かやりたいことはありますか？	カママンのほかに何かやりたいことはありますか？	カママンのほかに何かやりたいことはありますか？	カママンのほかに何かやりたいことはありますか？	カママンのほかに何かやりたいことはありますか？	あいさつ
	い授業	い授業	い授業	い授業	い授業	い授業	い授業	い授業	い授業	い授業	い授業	い授業	い授業	い授業	い授業	あいさつ

インタビューを生きる。復興を支える職業人にインタビューし、記事にまとめる。①
 インタビューモデルA
 結果
 が楽に
 つい質問がたまたまある

- どのような順番で、どのような言葉で質問したらいいのかを個人で考えさせた。その後、互いにアドバイスさせあい、修正させた。
- 下の欄は、実際のインタビューのメモとして使った。今回はボイスレコーダーを活用したため、最低限のメモのみで良いこととした。

【振り返りシート②】

学習シート「いまを生きるく復興を支える職業人にインタビューし、記事にまとめる」

氏名 ()

【今までの話す・聞く活動を振り返って】

インタビューをしたとき、
に質問した後、ついでで質問するのが遅くなる。
質問した後、メモをするのがうまくできていない。

【インタビューで大切なこと】

相手を見ながら質問すること。
事前にも考えていた質問以外にも質問の答えに気がついたら、ついでで質問をする。

メモをとりながら聞くのも、相手を見ながら下を向かすまい。

ローリング、
オーディオ録音機、
カメラ、
相手が共感していると思えるようにする。
ついでで質問をするようにする。



【単元を振り返って】

インタビューするのは、難しくとても緊張したけど、事前に考えた質問について、いかして質問をできた。最初は、いろいろ分からなくて大変だったけど、学習を通して、いろいろできるようになった。文章をまよくのも、太受だったけど、がんばってまよけた。インタビューをするということで、自分にはない考えを相手からもらえる。こういうことが分かった。これから新聞を読んだとき、この大変さを、知りながら、読みたいと思います。そして、何より、震災のことについていろいろと知ることができてよかったです。

【単元の振り返り】

単元の学習を振り返ろう

4 あてはまる 3 だいたいあてはまる
2 あまり当てはまらない 1 まったく当てはまらない

*○をつけよう。

① これから何をやるのか、見通しをもって学習することができた。	④	④	④	④	④	④	④	④
② 新聞記事を書くという目的をもって、毎時間の学習に意欲的に取り組めた。	④	④	④	④	④	④	④	④
③ 記事にまとめるために、地域の中で働く人に関心持ち、質問内容を考えることができた。	④	④	④	④	④	④	④	④
④ 取材相手の話を、要点を捉えながら聞き、足りない部分は追加で質問をすることができたか。	④	④	④	④	④	④	④	④
⑤ 取材相手の見方やものの考え方に対し、自分の考えをもつことができたか。	④	④	④	④	④	④	④	④
⑥ 取材相手の魅力を効果的に伝えるための構成を考え、記事を書くことができた。	④	④	④	④	④	④	④	④
⑦ 取材相手の魅力を効果的に伝えるための描写を工夫して、記事を書くことができた。	④	④	④	④	④	④	④	④
⑧ これからも表現活動の一つとして、記事を書いていこうと思つた。	④	④	④	④	④	④	④	④
⑨ 人の話を聞くことが楽しいと思つた。	④	④	④	④	④	④	④	④

高等学校第2学年単元構想表（明治書院／精選現代文B；「実用的な文章」）

※平成27年10月に実践した授業

【生徒の実態】

【身に付けさせたい力】

- ・授業で、ペアまたは小集団での意見交換をしており、学習内容に対して自分の意見をもつことができているが、全体での発表は苦手な生徒が多い。
- ・自分が考えていることを伝える必要性については、8割以上の生徒が「必要である」と意識しているが、「自分の考えを発表できている」と考える生徒は6割弱に留まる。（そのうち「きちんとできている」と感じている生徒は1割）

◎目的や課題に応じて、収集した様々な情報を分析、整理して資料を作成し、自分の考えを効果的に表現する力（Aーエ）

【単元の言語活動】

自分たちに必要な情報を収集してまとめ、自主研修プランのプレゼンテーションを行う。

【言語活動の特徴】

12月に自分たちが行く修学旅行の自主研修プランを企画し、発表するものである。社会に出た際に必要になるであろう情報収集力や企画力、論理的な説明力を養うことを目標とする。大勢の人の前での発表が苦手な生徒も、小集団学習であれば「話す力」を身に付ける練習になる。個人・ペア・グループ・全体と、少しずつ規模を大きくしてブラッシュアップを行うことも、「話す力・聞く力」を高めることにつながると考える。自分たちで実現できる内容となるので、意欲的な活動が期待される。

1. 単元名 修学旅行をプロデュース —情報を収集して企画を練り、まとめて発表する—

2. 単元の目標 目的に応じて情報を適切に収集し、分析、整理してまとめることができる。作成した資料を活用し、考えが伝わるよう、聞き手を意識した発表をすることができる。

3. 単元の評価規準

【国語への関心・意欲・態度】

- ☆目的に応じて情報を適切に収集し、分析、整理して企画書をまとめようとしている。
- ☆資料の示し方、話し方などを工夫し、目的や場にふさわしい発表をしようとしている。
- ☆相手の発表を評価しながら聞こうとしている。

【書く能力】

- ☆相手に伝わるよう論理的に文章を構成し、企画のメリットや必要性をまとめている。（現Bーエ）

【話す・聞く能力】

- ☆資料の示し方、話し方などを工夫し、目的や場にふさわしい発表をしている。（現Bーエ）
- ☆相手の発表を評価しながら聞いている。（現Bーオ）

【知識・理解】

- ☆社会生活で必要とされる実用的な文章の特色についてとらえ、自分の表現に役立てている。（現Bーオ）

4. 教材 「明治書院／精選現代文B「実用的な文章—企画書を書く」、京都に関する資料

5. 単元の展開（全9時間）

次	時	学習活動	言語活動に関する指導上のポイント（○） 学習活動に即した評価規準（関・書・話聞・知）等
第0次		○修学旅行の自主研修について知り、情報を集めておく。	
第1次	第1時	<ol style="list-style-type: none"> これまでの「企画」体験を振り返る。 プレゼンテーションモデルを分析する。 →教師のプレゼンを聞き、「発表する上で必要な力」について考える。 単元の学習計画を立てる。 →どう学習を進めたら良いか考える。 身に付く力：情報を分析、整理し企画書をまとめる力、聞き手を意識して発表する力、評価しながら聞き、自分の表現を高める力。 	関 モデルを聞き、どのような要素、項目で話されているかに気づこうとしている。
第2次	第2時	<ol style="list-style-type: none"> 企画に必要な項目について確認する。 インターネットや資料で情報を収集する。 →必要な情報はメモを取り、プランニングシート作成のために整理しておく。 	○プランニングシート（個人版）のための資料を準備する。 関 目的に応じて情報を適切に収集しようとしている。
	第3時・第4時	<ol style="list-style-type: none"> プランニングシートを作成する。 →プランニングシート（個人版）、図解資料（各A4用紙1枚）。 →次時までには必ずチェックを受ける。 	関 収集した情報を分析、整理してプランニングシートをまとめようとしている。 書 相手に伝わるよう論理的に文章を構成し、企画のメリットや必要性をまとめている。
	第5時	<ol style="list-style-type: none"> 個人企画書を手直しする。 ペアプレゼンテーションと相互評価をする。 →個人企画書をもとに、図解資料を示して行う（次時に行うグループプレゼンテーションの練習も兼ねる）。 ミニプレゼンを実施して気づいた発表の工夫や改善点を、全体で共有する。 	話聞 目的に応じて情報を適切に収集し、分析、整理して企画書をまとめている。 関 聞き手を意識した発表をし、相手の発表を評価しながら聞こうとしている。
	第6時	<ol style="list-style-type: none"> 発表の工夫や改善点を確認する。 グループプレゼンテーションと相互評価。 →修学旅行の自主研修班を1グループとし、ペアプレゼンと同じ要領で全員に資料が見えるよう、声が聞こえるよう配慮して発表する。 代表企画の決定。 →相互評価を行い、代表の企画者（プランナー）と発表者（ナレーター）を決める。 	話聞 聞き手を意識した発表をし、相手の発表を評価しながら聞いている。
第3次	第7時・第8時	<ol style="list-style-type: none"> 役割分担をして、プランを練り直し、全体発表用企画書（パワーポイント）を作成する。 発表のリハーサルを行う。 →話し方や資料の改善点はないか、メンバーで確認しながら練習する。 	知 社会生活で必要とされる実用的な文章の特色についてとらえ、自分の表現に役立てている。
	第9時	<ol style="list-style-type: none"> 発表の順番を決める。 全体プレゼンテーションと相互評価。 優秀企画の決定。 単元の振り返り。 	話聞 資料の示し方や話し方などを工夫し、聞き手を意識した発表をするとともに、相手の発表についてメモを取ったり評価したりしながら聞いている。
第4次		全体プレゼンテーションの様子（映像）を、三者面談待機時に流す。	

修学旅行をプロデュース 学習計画

- 一 これまで「何かを企画して説明」をした体験をふり返ろう
(どのようなことを説明したか、工夫した点、苦労した点など)
生徒会 分かりやすく伝えること
職場体験 etc 納得してもらうために情報を集めること
- 二 この単元での言語活動を確認しよう
自主研修のコースを企画し、まとめて
プレゼンテーションを行う
- 三 ミニプレゼンモデルを分析しよう : 説明の工夫を探す
パネルに分かりやすくかき使用(イラスト) : こと知識
修学旅行でこうするとよいという記事を発表、時間
おすすすめポイント(ありがたい)・聞き手に話しかけている、
- 四 プレゼンテーションを行うためにどんな準備をする?
資料・情報を集める 時間配分 笑顔 練習を繰り返して心に
紙、ペン・パソコンなど プレゼンの時間確認 余裕を持つ
- 五 プレゼンテーションを行うためにどのような力が必要?
綿密な計画
トピック力 情報収集力 聞き力 体力
画力 かつぜつ 構成力 協力
表現力 語彙力 集中力 想像力

【単元の目標】

- ① 目的に応じて情報を収集し分析整理してまとめる
- ② 作成した資料を活用し、聞き手を意識して発表する

修学旅行をプロデュース 学習計画

- 一 これまで「何かを企画して説明」をした体験をふり返ろう
(どのようなことを説明したか、工夫した点、苦労した点など)
本学員会などで活動内容を考えて。
本学員会をまとめるのが大変だった。
- 二 この単元での言語活動を確認しよう
自主研修のコースを企画し、まとめて
プレゼンテーションを行う
- 三 ミニプレゼンモデルを分析しよう : 説明の工夫を探す
実際に資料を使って説明し、よく分かりやすかった。
- 四 プレゼンテーションを行うためにどんな準備をする?
コース先の情報をふんでおく、料金
綿密な計画
練習をして心に余裕を持つ
- 五 プレゼンテーションを行うためにどのような力が必要?
情報収集力
表現力 構成力

【単元の目標】

- ① 目的に応じて情報を収集し分析整理してまとめる
- ② 作成した資料を活用し、聞き手を意識して発表する

京都フィールドワークプランニングシート〔個人版〕					
テーマ	京都 食べ歩き、映画の世界に触れる				
コース (午前)	いりは旅館 9:00 9:20~9:30 10:30~11:30 ひっこ→映画村→ (親判)				
コース (午後)	京一本店 → 茶寮都路里 → 京あみ → 文の助茶屋 → いりは旅館 12:30~13:00 13:20~14:20 (50-71-4) 15:55~16:25 14:30~15:40				
見学場所	料金	備考	見学場所	料金	備考
茶寮都路里	1296円		京一本店	630円	
京あみ	300円				
ひっこ	1010円				
映画村	1300円				

企画を通して 得られるもの	企画の全体像	企画の特長	具体的な 実行ステップ
京都にあるお店を訪れ、京都でしか食べられないスイーツなどを実際に頂く。	修学旅行3日目この日は、旅館を出発してまず「ひっこ」を訪れ、親子丼を食べる。そこから77シー	映画村では時代劇の世界に角出れることが出来る。運が良ければ、実際に時代劇を撮影しているところを見学できるかもしれない。また、昼食で	77シーでの移動を考えているので77シー運転手とできるだけ。会話をし、パンフレットにのっていない情報も聞き出す。
また、映画村を訪れることでテレビの前でしか見ることのない映画の撮影裏などを見学することが自身の映画に対する世界観を広げることが出来る。	で映画村まで行き、映画の世界に角出れる。そこから京一本店まで帰ってきて昼食をとり午後は茶寮都路里や京あみでスイーツ巡りをする。	言われる予定の京一本店では、京一旨いか自慢の中華そばを食べる。ここから帰る。	
メモ			

【第5時 ペアプレゼンテーション】

【プレゼンテーション評価基準】

発表		資料		内容		構成			
時間	スピード	声量	視線	提示	的確さ	コース	調査	論理性	テーマ
3点	十分に興味をひくテーマ設定になっている	2点	ある程度興味を引くテーマ設定になっている	1点	あまり興味を引くテーマ設定になっていない	0点	全く興味を引くテーマ設定になっていない	3点	企画の目的や効果が明確に伝わっている
2点	十分な興味をひくテーマ設定になっている	1点	ある程度興味を引くテーマ設定になっている	0点	あまり興味を引くテーマ設定になっていない			2点	企画の目的や効果が明確に伝わっている
1点	十分な興味をひくテーマ設定になっている	0点	あまり興味を引くテーマ設定になっていない					1点	企画の目的や効果が明確に伝わっている
0点	十分な興味をひくテーマ設定になっている		あまり興味を引くテーマ設定になっていない					0点	企画の目的や効果が明確に伝わっていない

自分のペアに評価してもらおう

評価者(一)

資料		内容		構成	
提示	的確さ	コース	調査	論理性	テーマ
2点	3点	3点	2点	2点	3点
発表					
合計		時間	スピード	声量	視線
A		3点	3点	3点	2点

評価者(二)
30~25点...A/24~19点...B/
18~13点...C/12~7点...D/
1~6点...E

アドバイス
絵などを書いて説明できれば、もっと
明確に伝えられた。
建物の知識が足りない
見所やポイントを伝え
られなかった。

発表の工夫や改善点を共有しよう

絵などを書いて説明できれば、もっと
明確に伝えられた。
建物の知識が足りない
見所やポイントを伝え
られなかった。

アドバイス
絵などを書いて説明できれば、もっと
明確に伝えられた。
建物の知識が足りない
見所やポイントを伝え
られなかった。

【第6時 グループプレゼンテーション】

発表		資料		内容		構成			
時間	スピード	声量	視線	提示	的確さ	コース	調査	論理性	テーマ
3点	十分に興味をひくテーマ設定になっている	2点	ある程度興味を引くテーマ設定になっている	1点	あまり興味を引くテーマ設定になっていない	0点	全く興味を引くテーマ設定になっていない	3点	企画の目的や効果が明確に伝わっている
2点	十分な興味をひくテーマ設定になっている	1点	ある程度興味を引くテーマ設定になっている	0点	あまり興味を引くテーマ設定になっていない			2点	企画の目的や効果が明確に伝わっている
1点	十分な興味をひくテーマ設定になっている	0点	あまり興味を引くテーマ設定になっていない					1点	企画の目的や効果が明確に伝わっている
0点	十分な興味をひくテーマ設定になっている		あまり興味を引くテーマ設定になっていない					0点	企画の目的や効果が明確に伝わっていない

発表者(一)泉

アドバイス
コースがよく調べられていてよかったと思う。
施設の説明を入れたほうがいいと思

発表		資料		内容		構成			
時間	スピード	声量	視線	提示	的確さ	コース	調査	論理性	テーマ
3点	十分に興味をひくテーマ設定になっている	2点	ある程度興味を引くテーマ設定になっている	1点	あまり興味を引くテーマ設定になっていない	0点	全く興味を引くテーマ設定になっていない	3点	企画の目的や効果が明確に伝わっている
2点	十分な興味をひくテーマ設定になっている	1点	ある程度興味を引くテーマ設定になっている	0点	あまり興味を引くテーマ設定になっていない			2点	企画の目的や効果が明確に伝わっている
1点	十分な興味をひくテーマ設定になっている	0点	あまり興味を引くテーマ設定になっていない					1点	企画の目的や効果が明確に伝わっている
0点	十分な興味をひくテーマ設定になっている		あまり興味を引くテーマ設定になっていない					0点	企画の目的や効果が明確に伝わっていない

発表者(二)泉

アドバイス
資料を活用してわかりやすかった。
地図を使うことによりポイントが
行きたいところを伝えていた。

発表		資料		内容		構成			
時間	スピード	声量	視線	提示	的確さ	コース	調査	論理性	テーマ
3点	十分に興味をひくテーマ設定になっている	2点	ある程度興味を引くテーマ設定になっている	1点	あまり興味を引くテーマ設定になっていない	0点	全く興味を引くテーマ設定になっていない	3点	企画の目的や効果が明確に伝わっている
2点	十分な興味をひくテーマ設定になっている	1点	ある程度興味を引くテーマ設定になっている	0点	あまり興味を引くテーマ設定になっていない			2点	企画の目的や効果が明確に伝わっている
1点	十分な興味をひくテーマ設定になっている	0点	あまり興味を引くテーマ設定になっていない					1点	企画の目的や効果が明確に伝わっている
0点	十分な興味をひくテーマ設定になっている		あまり興味を引くテーマ設定になっていない					0点	企画の目的や効果が明確に伝わっていない

発表者(三)泉

アドバイス
地図を示しながらコース、場所の
説明をしていて順序よく進めて
いた。
地図にはわかりやすいが、あまりいいものではない。
建物などの名称は、もう少し詳しく
説明しても良かった。

発表		資料		内容		構成			
時間	スピード	声量	視線	提示	的確さ	コース	調査	論理性	テーマ
3点	十分に興味をひくテーマ設定になっている	2点	ある程度興味を引くテーマ設定になっている	1点	あまり興味を引くテーマ設定になっていない	0点	全く興味を引くテーマ設定になっていない	3点	企画の目的や効果が明確に伝わっている
2点	十分な興味をひくテーマ設定になっている	1点	ある程度興味を引くテーマ設定になっている	0点	あまり興味を引くテーマ設定になっていない			2点	企画の目的や効果が明確に伝わっている
1点	十分な興味をひくテーマ設定になっている	0点	あまり興味を引くテーマ設定になっていない					1点	企画の目的や効果が明確に伝わっている
0点	十分な興味をひくテーマ設定になっている		あまり興味を引くテーマ設定になっていない					0点	企画の目的や効果が明確に伝わっていない

発表者(四)泉

アドバイス
コースや場所について細かい
詳しく調べられていて良い
と思った。
提示があるのも良かった。
発表になると思った。

評価者(一)泉

評価者(二)泉

評価者(三)泉

【第9時 全体プレゼンテーション評価シート】

評価する能力	到達目標	4	3	2	1	0
【発表事前準備力】 目的に応じて情報を収集し、分析、整理してまとめる	テーマ設定の背景や企画の目的・効果について、説得力を持って示すことができる	導入で引きつけられて、大いに興味を持って聞けた	ほぼ興味を持って聞けた	ほどほどに聞けた	少し退屈だった	退屈
	調査に基づいた十分な情報量と質で、資料をまとめることができる	情報量、質どちらも十分だった	情報量、質どちらかが十分で、もう一方はまあまあ	どちらもまあまあ	どちらかがまあまあで、もう一方は不十分	不十分
【発表表現力】 作成した資料を活用し、聞き手を意識して発表する	聞き手の理解に配慮したスライド作成ができる(字数・配色・図・効果の工夫など)	見やすくわかりやすいスライドになっていた	一部見づらいが、だいたいわかりやすかった	良い点も悪い点も同程度	見づらく、わかりにくい部分が多かった	全く見づらい
	声量が十分で聞き取りやすく、メリハリのある話し方ができる	十分に聞き取りやすく、メリハリがある	聞きやすい	普通	少し聞きにくい	ダメ
	原稿や画面ばかりを見ずに、聞き手を見て反応を確認することができる	良く確認している	だいたい確認している	確認しようと努力している	半分以上、原稿や画面を見ている	見ていない

★ 自分のグループの到達度を振り返って評価してみよう。

到達目標	点
①テーマ設定の背景や企画の目的・効果について、説得力を持って示すことができる	4
②調査に基づいた十分な情報量と質で、資料をまとめることができる	4
③聞き手の理解に配慮したスライド作成ができる(字数・配色・図・効果の工夫など)	3
④声量が十分で聞き取りやすく、メリハリのある話し方ができる	4
⑤原稿や画面ばかりを見ずに、聞き手を見て反応を確認することができる	3
合計	18

全体プレゼンテーションをするにあたり、自分が努力・工夫・意識した点を挙げておこう。

ゆっくり時間いっぱい発表する
話す部分に合わせてスライドを出した。

★ メモを取りながら聞き、各グループの到達度を評価しよう。(テーマ、見どころ、発表の工夫、改善点など)

<p>[C] 班 発表聞き取りメモ 行く場所のスピードが... 矢口散などかあっておもしろかった。</p> <table border="1"> <tr><td>①</td><td>②</td><td>③</td><td>④</td><td>⑤</td><td>計</td></tr> <tr><td>3</td><td>4</td><td>3</td><td>2</td><td>3</td><td>15</td></tr> </table>	①	②	③	④	⑤	計	3	4	3	2	3	15	<p>[E] 班 発表聞き取りメモ 京都にいたる ～京都の食文化について～ 細かい情報まで聞かされていて行ってみたくなりました。 食main</p> <table border="1"> <tr><td>①</td><td>②</td><td>③</td><td>④</td><td>⑤</td><td>計</td></tr> <tr><td>3</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td><td>3</td><td>18</td></tr> </table>	①	②	③	④	⑤	計	3	4	4	4	3	18	<p>[B] 班 発表聞き取りメモ ～ぶらり～ 京都文化の探 時間などに合わせて ゆったりとした旅だと感じました。</p> <table border="1"> <tr><td>①</td><td>②</td><td>③</td><td>④</td><td>⑤</td><td>計</td></tr> <tr><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>4</td><td>4</td><td>17</td></tr> </table>	①	②	③	④	⑤	計	3	3	3	4	4	17
①	②	③	④	⑤	計																																	
3	4	3	2	3	15																																	
①	②	③	④	⑤	計																																	
3	4	4	4	3	18																																	
①	②	③	④	⑤	計																																	
3	3	3	4	4	17																																	
<p>[A] 班 発表聞き取りメモ 京都の名所 食べ歩き いざ → 親子丼 京あみ ショックルーム 映画に対する世界観を広げられる 色分けしては、素晴らしい</p> <table border="1"> <tr><td>①</td><td>②</td><td>③</td><td>④</td><td>⑤</td><td>計</td></tr> <tr><td>4</td><td>4</td><td>3</td><td>3</td><td>4</td><td>18</td></tr> </table>	①	②	③	④	⑤	計	4	4	3	3	4	18	<p>[D] 班 発表聞き取りメモ 京都の歴史、伝統的文化を学ぶ 知識が深められ 目的ややるべきことが明確になっている デザイン、色、かわいい、字が大きい</p> <table border="1"> <tr><td>①</td><td>②</td><td>③</td><td>④</td><td>⑤</td><td>計</td></tr> <tr><td>4</td><td>4</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>17</td></tr> </table>	①	②	③	④	⑤	計	4	4	3	3	3	17	<p>★単元の振り返り とてもあてはまる ◎ あてはまる ○ ややあてはまる △ あてはまらない ×</p> <table border="1"> <tr> <td>自ら進んで取り組むことができた</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>資料の活用の仕方がわかった</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>意見の述べ方の工夫がわかった</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>実用的な文章を、自分の表現に役立てられた</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>プレゼンテーション学習は楽しかった</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>今後活かそうなことを考えることができた(内容、学習方法等)</td> <td>○</td> </tr> </table>	自ら進んで取り組むことができた	◎	資料の活用の仕方がわかった	○	意見の述べ方の工夫がわかった	○	実用的な文章を、自分の表現に役立てられた	○	プレゼンテーション学習は楽しかった	◎	今後活かそうなことを考えることができた(内容、学習方法等)	○
①	②	③	④	⑤	計																																	
4	4	3	3	4	18																																	
①	②	③	④	⑤	計																																	
4	4	3	3	3	17																																	
自ら進んで取り組むことができた	◎																																					
資料の活用の仕方がわかった	○																																					
意見の述べ方の工夫がわかった	○																																					
実用的な文章を、自分の表現に役立てられた	○																																					
プレゼンテーション学習は楽しかった	◎																																					
今後活かそうなことを考えることができた(内容、学習方法等)	○																																					

【自己評価シート】

10 / 14	10 / 13	10 / 7	10 / 6	9 / 18	月日
<p>発表の準備が完了した。発表の練習も行った。</p>	<p>発表の準備が完了した。発表の練習も行った。</p>	<p>発表の準備が完了した。発表の練習も行った。</p>	<p>発表の準備が完了した。発表の練習も行った。</p>	<p>発表の準備が完了した。発表の練習も行った。</p>	<p>今日の学習課題</p>
3	3	4	4	4	評価
<p>発表の準備が完了した。発表の練習も行った。</p>	<p>発表の準備が完了した。発表の練習も行った。</p>	<p>発表の準備が完了した。発表の練習も行った。</p>	<p>発表の準備が完了した。発表の練習も行った。</p>	<p>発表の準備が完了した。発表の練習も行った。</p>	<p>評価の根拠(新しい発見・わかるようになったこと・次時への課題)</p>

評価 4 達成 3 やや達成 2 やや不十分 1 不十分

/	10 / 21	10 / 20	10 / 19	10 / 15	月日
	<p>発表の準備が完了した。発表の練習も行った。</p>	<p>発表の準備が完了した。発表の練習も行った。</p>	<p>発表の準備が完了した。発表の練習も行った。</p>	<p>発表の準備が完了した。発表の練習も行った。</p>	<p>今日の学習課題</p>
	4	3	4	4	評価
	<p>発表の準備が完了した。発表の練習も行った。</p>	<p>発表の準備が完了した。発表の練習も行った。</p>	<p>発表の準備が完了した。発表の練習も行った。</p>	<p>発表の準備が完了した。発表の練習も行った。</p>	<p>評価の根拠(新しい発見・わかるようになったこと・次時への課題)</p>

評価 4 達成 3 やや達成 2 やや不十分 1 不十分

III 資料編

指導系統表の整理例 小学校 [A 話すこと・聞くこと]

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
目標	(1) 相手に応じ、身近なことなどについて、事柄の順序を考えながら話す能力、大事なことを落とさないように聞く能力、話題に沿って話し合う能力を身に付けさせるとともに、進んで話したり聞いたりしようとする態度を育てる。 (1) 前段＝話す能力、聞く能力及び話し合う能力 後段＝話すこと・聞くこと全体にわたる態度 (全学年共通)	(1) 相手や目的に応じ、調べたことなどについて、筋道を立てて話す能力、進行に沿って話し合う能力を身に付けさせるとともに、工夫しながら話したり聞いたりしようとする態度を育てる。	(1) 目的や意図に応じ、考えたことや伝えたいことなどについて、的確に話す能力、相手の意図をつかみながら聞く能力、計画的に話し合う能力を身に付けさせるとともに、適切に話したり聞いたりしようとする態度を育てる。
	2 低学年の児童の特徴 ①身近なことに興味や関心をもち、それらについて意欲的に話したり聞いたりしようとする ②家庭のことに加え、学校でのさまざまな新しい出会いについて保護者や教師に今まで以上に話しかけるようになる ③友達とのかわりも増え、話し合うことの必要性も感じ取るようになる 3 話題については、「相手に応じ、身近なことなど」をとりあげること ①相手に応じ＝互いに影響し合いながら言語活動が成立する特質 ②相手＝保護者や教師などの大人、同級生など ③身近なこと＝身近なことや経験したことなどは思い出しやすい 4 事柄の順序を考えながら話す能力 ①自分で内容を構成 ②取り上げる事柄の順序に沿って考え、経験したことの順序や物事が起こった順序などに気をつけて話す 5 大事なことを落とさないように聞く能力 ①話し手が何を伝えたいのか②自分が知りたいこと③話し手の立場 ④自分の聞きたいことなど、話の順序に沿って大事なことを聞き取る 6 話題に沿って話し合う能力 ①話し手と聞き手の双方の立場 ②相手の話題からそれないように話したり、自分の分からないことを聞き直したり尋ねたりする ③合意形成を図ることや、互いを理解し合い交流していく関係を大切にすることの基礎を養う 7 進んで話したり聞いたりする態度 ○話題を身近なことから考えたり、互いの思いや考えを尊重しながら共感的に受け止めようとしていたりする雰囲気大切に	2 低学年の「相手に応じ」ることに加え、「目的」を明確にする ③相手に応じても、今までより多様な相手へと広がる ④様々な目的を設定することが必要 ①出来事を説明 ②調査の報告 ③話し合って考えをまとめる ④意見を述べ合う 5 低学年の「身近なことなど」から「調べたことなど」へと発展 6 筋道を立てて話す能力 ①物事の順序、調べて分かった事柄や事実などの順序に基づき、自分の思いや願い、伝えたい中心を位置付けたり、相手に分かりやすく伝えられるように構成や内容を考えたりする ②自分の考えや意見の筋道が明確であることとともに、相手に理解しやすく筋道であることも大切にする 7 話の中心に気をつけて聞く能力 ①話し手が調べたこととはどのようなことであったのか、それを話し手はどのようにまとめたのかなどに気をつけて聞く 8 進行に沿って話し合う能力 ①司会や提案などの役割を果たしながら、話合いの進行に合わせ、互いの考えをよく伝え合っ話し合う ②中学年では、グループや学級全体の問題解決などに向けて、主体的に話合い、より一層豊かな相互交流を図るようにする ③工夫をしながら話したり聞いたりしようとする態度 ○相手や目的に応じて工夫をしながら話したり聞いたりしようとする態度を育てる	2 高学年では、児童の主体性や個性が高まるのに伴って、話す目的や意図を明確にするとともに、聞き手である相手の意図を十分感じ取っていくことが重要。 3 的確に話す能力 ①目的や意図に応じ、話の構成や内容を一層的に確にすることが求められる ②取り上げる事柄について十分調べたり考えたりして理解し、話の構成や内容、考えたことや伝えたいこと、言葉遣いを一層的に確にすることが求められる 4 相手の意図をつかみながら聞く能力 ○話し手の意図を考えながら、話の中心、構成や内容上の工夫及び適切な言葉遣いに注意して聞くことが重要 5 計画的に話し合う能力 ①考えたことや伝えたいことについて、十分に話し合うことができるよう、計画を練り上げることが求められる ②話合いの過程において計画的に話し合うためには、司会や提案などの役割を各自が理解し、それぞれの役割に応じて協力し合いながら円滑に運営できるようにすることが重要 6 相手や目的及び意図などに応じて決定した話題について取材し、話したり聞いたりすることを適切に行っていく態度を養う
話題設定や取材	ア 身近なことから経験したことなどから話題を決め、必要な事柄を思い出すこと。 (1) 児童が話題を設定して学習活動を見通し、実際に話したり聞いたりする活動を主体的に行えるように新設したもの(全学年共通) 2 身近なことや経験したことなどから話題を設定し、それに合わせて必要な事柄を取材する 3 話題は、①学校生活や家庭での日常生活における身近なこと、②自分が経験したこと、③観察したいことなどの中から、話したい、聞きたい、話合いたいという思いや願いを生かすように工夫する 4 取材 ①話すために必要な事柄を思い出してノートやカードに書きだすなど、必要な材料を集める。→話題を具体化することや話したり聞いたりする内容を充実させることにつながる ②準備の段階で十分行うことが必要だが、実際に話したり聞いたりするときに、更に材料を集めることもある	ア 関心のあることなどから話題を決め、必要な事柄について調べ、要点をメモすること。 2 話題は、児童の興味や関心のあることを大切にして決める ○学校や家庭、地域のことなどで興味や関心をもっている事柄を想起し、一つの話題に絞っていく 3 取材については、必要に応じて、本や文章を読む、人に聞く、図表や絵、写真などを見るなどの方法から選択し、調べたことの要点をメモすることを重視 ①児童は、調べた知識や情報が多くなると未整理なままそれを使うことがある ②メモを活用して内容を整理し相互関係を考えることで、話したいことや聞きたいことを明確にすることが重要 4 児童の興味や関心から話題を決め、具体的な相手や話す目的を強く意識して必要な事柄を取材したりまとめることが大切	ア 考えたことや伝えたいことなどから話題を決め、収集した知識や情報を関係づけること。 2 話題については、日常生活の中で考えたことや特に伝えたいと思うことなどから話題を決める 3 取材については、得た知識や情報を関係づけて活用する 4 メモやノートの内容を比較、対照したり、関連のあることをまとめたり、分類して、自分の考えに生かすようにする 5 取材を通して話題を練り直し、話題の目的や意図を一層明確にすることにつながるようにつとめる 6 話したり聞いたりする学習が進んだとき、学習計画表やその記録に立ち返って計画的に学習を進めたり、話題を深めたりできるように、個人で考えたいこととグループや学級全体で考えたいこととをそれぞれメモやノートを利用して明確に書き留めておく
	イ 相手に応じて、話す事柄を順序立て、丁寧な言葉と普通の言葉との違いをつけて話すこと。 ウ 姿勢や口形、声の大きさや速さなどに注意して、はっきりした発音で話すこと。 (1) 相手は、教師や隣の友達、同じグループの友達、幼稚園児や保育園児など身近な人々 (2) 人数についても、ペアから小グループ、学級全体へと広げる (3) 順序とは、①行動したことや経験したこと、②物を作ったり作業したりすること、③物事や物事が起こること、④説明や紹介をすることなどの順序を指す 4 言葉遣いは、相手の興味や人数の多少、改まった場面かどうかなどに応じて使い分けが必要 ①丁寧な言葉と普通の言葉 (あいさつや前置き、敬語、場面や状況に応じた使い分け) ②文や語句とその使い方 ③声の質などの音声 ④姿勢や態度 5 姿勢 ○相手に対する印象などに加え、発声をしやすくしたり明確な発音をしたりする基礎 6 口形 ①正しい発音のために、唇や舌などを適切に使う ②ラ行やサ行の置き換えや音の省略に注意 ③母音の口形について適切に指導 ④一音一音を識別させ、安定した発声や明確な発音へ導く 7 声の大きさや速さに注意すること ①音声化するときの基礎 ②相手に声が届く音量 ③音声が明確に聞こえる速さ ④自由に楽しく話すことのできる雰囲気 8 聞き手である児童や教師は、あいづちや打ったり聞き直したりしながら、はっきりと聞こえていることを示す	イ 相手や目的に応じて、理由や事例などを挙げながら筋道を立て、丁寧な言葉遣いを用いるなど適切な言葉遣いで話すこと。 ウ 相手を見たり、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意したりして話すこと。 (1) 具体的な場を一層強く意識して話す (2) 相手は、異学年の児童や地域の人々などへ広がってくる (3) 目的が多様になるので、説明や報告をする、意見を述べると、伝えたい目的を明確にして話すことが求められる (4) 話す内容を構成するとき、伝えたいことだけを話すのではなく、関心を抱いた理由や、なぜそのような考えになったのかという根拠、事例などを挙げながら筋道立て、内容を明確にしてい (5) 丁寧な言葉遣い ①「日書くこと」(1)のエと関連 ②相手や目的に応じて、丁寧な言葉遣いを選んだり、敬体と常体との表現を使い分けたりする ③実際に話すときに強く意識するものであるが、発表の原稿を準備する段階でも工夫する 6 相手を見るという視線 ①自分の話したことが聞き手に十分伝わっているかを判断するために、聞き手の反応を見ながら話す ②聞き手の注意を喚起する上でも大事な要素 7 言葉の抑揚や強弱 ①身振りが表情などとともに、話の伝わり方に大きな影響を与える要素 ②話す内容に応じて、声の上げ下げに注意して言葉に調子を付けたり、文中の特定の語や表現の一部を他よりも強調したりして、話の内容が相手に伝わるような工夫をする 8 間の取り方 ①話し手と聞き手の両面から考える ②話し手にとっての間とは、発音・発声のための息継ぎであると同時に、自らが伝えたい内容を聞き手に理解してもらうために意図的に行う構文や語句の上での間 ③聞き手にとっての間は、話し手の意図を理解したり、思いや考えの大事な箇所を感じ取ったり、自分の理解を深める時間 9 相手の興味やその人数、目的など具体的な場面を明確に設定し、場面や条件に応じて言葉遣いや視線などに注意しながら音声にも気をつけて話させるよう工夫する 10 身近な人から知らない人へというように対象を変えたり、少人数のグループから学級全体へと人数を変えたりするなどのいろいろな場を設定 11 まとまった発表のときには、発表原稿を書き、話す内容を筋道立てる工夫などについて考えさせるようにする	イ 目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話すこと。 ウ 共通語と方言の違いを理解し、また、必要に応じて共通語で話すこと。 (1) 意図 ○自分の意図だけでなく、相手の意図も含んでいる 2 事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫 ①自分の立場を明確に説明したり、事実と感想、意見とを区別したり、概説したり、結論付けを明確にしたりする ②「理由や事例」に加え、必要な文言や数値などを引用したり、図解したり、重要語句の定義付けをししたりする 3 場に応じた適切な言葉遣い ①声量や速度、抑揚や間の取り方などの音声上の工夫 ②改まった言葉や丁寧な言葉、敬体と常体の使い分け ③音声の使い方、語や文、表情、仕草など広い範囲に及ぶ ④同学年や異学年、全校児童や学校外の人々などを対象とした、多様な場や相手に対して話すことができるような機会を設定する 4 共通語と方言 ○共通語と方言とを比較、対照させながら違いを理解し、それぞれの特長とよさを知り、共通語を用いることが必要な場合を判断しながら話すことができるように指導することが大切

聞く	<p>エ 大事なことを落とさないようにしながら、興味をもって聞くこと。</p> <p>(1)大事なことを落とさないように ①興味をもって聞くこと ②話し手が伝えたいと思っている事柄の大事なこと ⇒事柄の順序を意識しながら聞き取る ③自分が聞きたい事柄の大事なこと ⇒集中して聞き取る</p>	<p>エ 話の中心に気を付けて聞き、質問をしたり感想を述べたりすること。</p> <p>(1)話の中心に気を付けて ○話している事柄の順序など、話の組立て方を意識しながら、話の要点を聞く (2)質問をしたり感想を述べたりする ①話の内容や話し方に関心をもって聞き、聞いた事柄を基に分らない点や確かめたい点を質問したり、自分の感想や意見を述べたりする ②感想を深められるようにするために、自分の経験と結びつけたり、自分の考えと比較しながら聞いたりする</p>	<p>エ 話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること。</p> <p>(1)話の意図は何か、自分に伝えたいことは何か、共に考えたいことは何かなど相手の話の内容を十分聞き取る (2)取り上げられた内容について、自分の考えと比べ、共通点や相違点、関連して考えたことなどを整理し、自分の考えをまとめるようにする</p>
	話の中心に	<p>オ 互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合うこと。</p> <p>(1)話合い ①話し手と聞き手が交互に入れ替わりながら、流れに沿って進める ②互いの話を集中して聞き、話の内容を理解した上で話題に沿って話したり、再び聞いたりする (2)互いの話を集中して聞く ①話し手の方へ顔を向けるようにしたり、話の内容に関心をもち、頷いたりしながら聞く ②互いの発言をよく聞き、その内容を話合いの流れの中に位置付け、今後どのように展開するかを考えるようにする (3)話合いの終わりには、学習したことを振り返ることも必要 (4)話合いの人数 ○ペア、小グループ、学級全体などを効果的に組み合わせる指導する</p>	<p>オ 互いの考えの共通点や相違点を考え、司会や提案などの役割を果たしながら、進行に沿って話し合うこと。</p> <p>(1)話合いを進行していくときの役割を理解してそれぞれが積極的に進行に協力する (2)司会や提案の役割を理解し、話合いの規模に応じて児童一人一人がそれぞれの役割を果たす経験を積む機会を設ける (3)進行に沿った話合いをするためには、互いの話を聞き、考えの共通点や相違点を整理することにも配慮する (4)司会者は、話合いがまとまるように進行していくのが役割 (5)司会者は、準備した進行表に沿って進行することそのものを学び、徐々に、話合いが目的に応じて進行するように、提案者や参加者の発言を整理したり、促したり、まとめたりすることができるように高めていくことが求められる (6)提案者は、参加者全員に考えが伝わるように話す内容を整理したり、話し方に注意したりする必要がある (7)参加者には、進行に合わせながら、積極的に自分の考えを発言し、話合いに加わるようにさせる (8)話合いの規模については、小グループから始め、学級全体でも司会や提案をするようにする ①互いの考えの共通点や相違点をよく確認しつつ、話合いを進めるようにさせる ②考えが相違するときには、それぞれの考えがどのようなことに基づいているのかということにも目を向けさせる (9)司会者や提案者の役割をそれぞれに果たしながら、いろいろな場面での司会や提案の内容や方法を学んでいくことが大切 (10)特別活動における集団としての意見をまとめる話合い活動など他教科等とも関連づけ、児童の日常生活に生きて働くように多くの場を設定することが大切</p>
ア		<p>ア 出来事の説明や調査の報告をしたり、それらを聞いて感想を述べたりすること。</p> <p>イ 尋ねたり応答したり、グループで話し合って考えを一つにまとめたりますこと。</p> <p>ウ 場面に合わせてあいさつをしたり、必要なことについて身近な人と連絡を合ったりすること。</p> <p>エ 知らせたいことなどについて身近な人に紹介したり、それを聞いたりすること。</p>	<p>ア 出来事の説明や調査の報告をしたり、それらを聞いて意見を述べたりすること。</p> <p>イ 学級全体で話し合って考えをまとめたりますこと、意見を述べ合ったりすること。</p> <p>ウ 図表や絵、写真などから読み取ったことを基に話したり、聞いたりすること。</p>
	言語活動例	<p>(1)説明や報告をすること、それらを聞いて感想を述べる言語活動 ①話すことと聞くことを一体化して指導する ②「事物の説明」では、身の回りの事柄やものを取り上げる ⇒その事物が生活の中でどのような役割を果たしているのか、そのためにどのような構造になっているのか ⇒話すことを幾つかに絞って説明する ⇒必要に応じて原因や理由を付け加えながら事柄を順序立てたり、相手に分かりやすいように事物そのものを見せたりする ③「経験の報告」では、学級や学校、家庭や地域での経験をとり上げる ⇒経験したことについてどのようなことを感じたのか ⇒知らせたいことは何なのかなどを明確にする ⇒内容を思い出し、時間の経過に基づいて順序立てたりする ④聞き手は、話し手の思いや願いに共感しながら聞き、感想をもつ ⇒聞いたことを整理して相手に伝えることで、聞き手は自分の考えを一層明確にすることができる ⇒話し手は、話そうという意欲を喚起される</p> <p>(2)対話や話合いについての言語活動 ①内容を確認したり、分からないことを質問したり、その質問に答えることを自覚して応答したりすることができるようにする ②考えを一つにまとめるためには、一人一人が自分の考えを出し合っから、グループで考えをまとめていく過程を重視 ③ペアから始め、徐々に、3人、4人と人数を増やしていく</p> <p>(3)あいさつや連絡という日常生活場面についての言語活動 ①一日の生活の中からのいろいろな場面を設定する ⇒身振りや表情なども交えながら場面に合わせたあいさつに ②学習や行事で使用する持ち物や催し物の日時や場所などの連絡 ⇒大事なことを落とさないために、必要に応じてメモを取る</p> <p>(4)紹介をしたり、それらを聞いたりする言語活動 ①身の回りから、自分が興味を抱いたり、楽しく感じたり、好ましく思ったりした事物を選んで、教師や友達、家族などに紹介する ②「B書くこと」や「C読むこと」でも取り上げている</p>	<p>(1)出来事の説明や調査の報告をしたり、それらを聞いて意見を述べたりする言語活動 ①学校や地域の催し、季節にちなんだ行事など ②日常生活の中へ根付いている文化的な催しなどの歴史や意義、運営や人々の参加の様子についてまとめて説明する ③説明は、催しなどの内容を知っている人に話す場合もあれば、知らない人に説明する場合もある ④児童自身がその催しなどに参加している場合、本や文章などで調べただけの場合などがある ⑤調査の報告は、関心のあることや、各教科等で行う観察や実験、調査などを取り上げることが考えられる ⑥調査の目的に合わせて、観察や実験の経過や成果とともに、調べる方法も選ばれる ⑦報告するときには、調査の目的や方法、調べたときの記録を生かして、結果や成果とともに分かったことや考えたことを明確にさせる ⑧情報活用能力の育成面からも、録音録画機器の積極的な活用 ⑨説明や報告を聞くときには、話し手がどのような課題について調べ、分かったことや考えたことをまとめているか気を付けて、内容や説明や報告の仕方の分かりやすさなどについての意見をまとめる ⇒話の要点、気付いたことや連想したことなどをメモする</p> <p>(2)学級全体で話合いをする言語活動 ①司会者や提案者、参加者などの役割を決めて運営する ②個人やグループの意見を十分明確にする時間を確保する ⇒意見の共通点や相違点を整理し、それぞれの考えを反映させながら、学級全体として一つの考えに集約することや、討論を交わって考えを深め合ったり広げたりする</p> <p>(3)図表や絵、写真などの資料を取り上げ、そこから読み取ったことを基に話したり、それを聞いたりする言語活動 ①図表や絵、写真などは、それ自体を取り上げる場合もあれば、文や文章などに収録されているものを取り上げる場合もある ②それから目的に応じて効果的な情報を得たり、自分の考えをもったりすることなどが求められる ③図は、分類や組織、構成や関係、手順や過程などを端的に表すためのものである ④簡易書きも図解の一つである ⑤表やグラフは、変化や傾向、順位、時間の経過などを表したり、全体の構成要素を概観したりするのに役立つ ⑥絵や写真には、芸術的なものだけでなく、物事を説明するために用いられているものがある ⑦中学年ではこのような資料のいくつかを取り上げ、相手に分かりやすく説明や報告をするなどの言語活動を重視する ⑧聞くことでは、友達の読み取ったことに妥当性があるかを判断したり、自分の読み取ったこととの共通点や相違点を見付けたり、新たに得た情報を自分の考えに生かしたりすることが大切</p>

指導系統表の整理例 中学校 [A 話すこと・聞くこと]

	第1学年	第2学年	第3学年
目標	(1) 目的や場面に応じ、日常生活にかかわることなどについて構成を工夫して話す能力、話し手の意図や考えながら聞く能力、話題や方向をとらえて話し合う能力を身に付けさせるとともに、話したり聞いたりして考えをまとめようとする態度を育てる。	(1) 目的や場面に応じ、社会生活にかかわることなどについて立場や考えの違いを踏まえて話す能力、考えを比べながら聞く能力、相手の立場を尊重して話し合う能力を身に付けさせるとともに、話したり聞いたりして考えをまとめようとする態度を育てる。	(1) 目的や場面に応じ、社会生活にかかわることなどについて相手や場に応じて話す能力、表現の工夫を評価して聞く能力、課題の解決に向けて話し合う能力を身に付けさせるとともに、話したり聞いたりして考えを深めようとする態度を育てる。
	(1)前段=話す能力、聞く能力及び話し合う能力、後段=話すこと・聞くこと全体にわたる態度（全学年共通） (2)「目的や場面に応じ」る=何のために話したり聞いたり話し合ったりするのかという意識を持ち、場面や状況を考えて話し方や聞き方ができる	(3)「社会生活にかかわることなどについて」 ○視野を広げ、地域社会の中で見聞きしたことや、テレビや新聞などの様々なメディアを通じて伝えられることなどから、社会生活の中の出来事や事象に関心をもち、それらを話題として取り上げていくことを示していく (4)「立場や考えの違いを踏まえて話す能力」 ○異なる立場や考えの人からの反論や質問にも備え、聞き手に自分の立場や考えを理解してもらえようように話す能力 (5)「考えを比べながら聞く能力」 ①話し手の考えを聞き取り、自分の考えと比較する能力 ②話し手の考えと自分の考えとを比較するためには、語の論理的な構成や展開などに注意することが必要 (6)「相手の立場を尊重して話し合う能力」 ○一方的に自説を主張するだけでなく、共通点や相違点を明らかにして、相手の立場や考え方を理解するよう努めながら合意形成に向けて話し合っていく能力 (7)「話したり聞いたりして考えを深めようとする態度」 ①話したり聞いたりすることにより、他人の考えを参考にし自分の考えを広げようとする態度 ②もの見方や考え方を伝え合うことによって考えが広がっていくことの意義を理解させることが大切	(3)「相手や場に応じて話す能力」 ①社会生活を営む上で想定される様々な相手や場に応じて、適切かつ効果的に話す能力 ②これまで身に付けてきた、課題設定や取材の能力、話す能力を総合的に発揮できるようにする (4)「表現の工夫を評価して聞く能力」 ①話の内容を評価することに加え ②話の構成や展開 ③語句の使い方 ④言葉遣い ⑤資料の活用方法などの表現の工夫についても評価しながら聞く能力 (5)「課題の解決に向けて話し合う能力」 ○立場や考えの違いを認めつつ、課題の解決に向けて自他の考えを整理し、合意形成を目指して話し合う能力 (6)「話したり聞いたりして考えを深めようとする態度」 ①話したり聞いたりすることによって互いに考えを深めようとする態度 ②社会生活における課題を解決させるために、話したり聞いたりすることが果たしている重要な役割を認識させることが大切
話題の決定や取材	ア 日常生活の中から話題を決め、話したり話し合ったりするための材料を人との交流を通して集め整理すること。 (1)「日常生活の中から話題を決め」 ①学校や家庭、地域など、身の回りの生活の中から話題を決めることを示している ②家族や友人をはじめ日常生活で交流する機会が多い人々が主な取材対象 (2)「人との交流」 ○自分自身の直接体験したことだけでなく、身近な人々の体験や知識なども材料として集め整理して、自分の考えや意見を明確にすることを重視	ア 社会生活の中から話題を決め、話したり話し合ったりするための材料を多様な方法で集め整理すること。 (1)「社会生活の中から話題を決め」 ①社会生活における問題を話題として取り上げるためには、話の材料を日常生活だけでなく広く社会から収集する ②本、新聞・雑誌、テレビ、コンピュータや情報通信ネットワークなどの様々な情報手段を活用することが一層不可欠 ③多様な取材方法を身に付けることにより、話題の範囲が日常生活から社会生活へと拡大していく (2)取材に関しては「B書くこと」においても指導する (3)情報の活用については「C読むこと」においても指導する ※2(3)の指導との関連を図ることが大切	ア 社会生活の中から話題を決め、自分の経験や知識を整理して考えをまとめ、語句や文を効果的に使い、資料などを活用して説得力のある話をする。 イ 場の状況や相手の様子に応じて話すとともに、敬語を適切に使うこと。 (1)「自分の経験や知識を整理して考えをまとめ」 ①目的や話題に応じて自分の経験や知識を再構成して自分の考えを形成すること ②必要に応じて取材することはもちろん、改めて取材したり準備したりせずには話すことも想定している ③社会生活においては、まとまった話をする際、いつでも十分に取材したり構成を考えたりする時間があるとは限らない。そこで、自分自身の経験や知識の中に材料を求めることを示している (2)「語句や文を効果的に使う」 ①目的や場面に応じた言葉遣いをする ②聞いて分かりやすい語句を選ぶこと ③難語句や専門用語は易しい言葉に言い換えることなどが挙げられる (3)「説得力のある話をする」 ①社会生活では、会議における企画の提案など、相手を説得しなければならぬ場面が多くある ②中学校においては、自分の考えや意見を分かりやすく説明し、相手を説得する力を身に付けることが大切 ③説得力を増すために、語句や文の効果的な使い方を考え、工夫することが重要 (4)「資料などを活用して説得力のある話をする」 ①説得力を増すために、資料の見やすさや提示の仕方など、聞き手の理解を助けるための工夫をして話すこと ②機器の使用とも関連を図りつつ指導していくことが効果的 (5)「場の状況や相手の様子に応じて話す」 ①相手意識、場面意識を明確に持って話すことを意味する ②聞き手の人数や立場、年齢構成、会場の広さ等を踏まえた上で話の内容を構成し、話し方を工夫することが大切 ③聞き手のうなずきや表情などにも注意し、聞き手に自分の意図が十分伝わっていないと感じられた時には、分かりやすい語句に言い換えたり補足したりすることも大切 ④話の途中で聞き手に問いかけたり質問を促したりしながら、理解を深めていく働きかけをすることも効果的 (6)「敬語を適切に使うこと」 ○第2学年（伝道的な言語文化と国語の特質に関する事項）のイ(ア)を踏まえ、相手や場に応じて適切な言葉遣いをしていけるよう指導する
	イ 全体と部分、事実と意見との関係に注意して話を構成し、相手の反応を踏まえながら話すこと。 ウ 話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方、相手に分かりやすい語句の選択、相手や場に応じた言葉遣いなどについての知識を生かして話すこと。 (1)「全体と部分」との関係に注意して話を構成する ○話の全体として伝えたいことを明確にし、それを分かりやすく伝えるために各部分をどのように組み立てるかを考えること (2)「事実と意見」との関係に注意する ①自分の伝えたい意見を述べるのにどのような事実を根拠として取り上げるかを考えて、話を構成すること ②取材した材料や具体的な事実、自分の考えや意見などをどのように配列して話の全体を構成するかを考えたり、文末表現などにも注意して事実と意見との関係を明らかにして話したりすることが大切 (3)「相手の反応を踏まえながら話す」 ①うなずきや表情などという聞き手の反応から、話の受け止め方や理解の状況をとらえて話すこと ②小学校では相手を見て話す ⇒「相手の反応」に注意することを重視 ⇒第3学年「相手の様子に応じて話す」で、途中で話の内容を付け足したり分かりやすく言い換えたりしながら話すことを指導するにつながら (4)「話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方、相手に分かりやすい語句の選択、相手や場に応じた言葉遣い」 ○言語活動において有効に働くように指導する必要がある (5)「知識を生かして」 ①すでに小学校において指導しているから ②小学校における学習内容を振り返らせ、これらの知識を生かして話すことが、中学校における音声言語活動の基礎となることを十分に理解させる	イ 異なる立場や考えを想定して自分の考えをまとめ、話の中心的部分と付加的な部分などに注意し、論理的な構成や展開を考えて話すこと。 ウ 目的や状況に応じて、資料や機器などを効果的に活用して話すこと。 (1)「異なる立場や考えを想定して」 ①聞き手にも様々な立場や意見があることを踏まえ、聞き手の反論や意見を具体的に予想すること ②反論や意見を予想して自分の考えをまとめ、「話の中心的部分と付加的な部分」との関係に注意し、論理的で分かりやすい話の構成や展開を工夫することが、聞き手に対する説得力を高めることにつながる (2)「資料や機器などを効果的に活用」 ①話の要点を明らかにし聞き手に分かりやすくするため ②目的や状況、相手に応じて、様々な資料や機器を活用しながら説明することにより、話し手の意図が明確に伝わって聞き手の理解をより深めることになる ③グラフや表、写真や図などを取り入れた分かりやすい資料作りの工夫が大切	イ 全体と部分、事実と意見との関係に注意して話を構成し、相手の反応を踏まえながら話すこと。 ウ 話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方、相手に分かりやすい語句の選択、相手や場に応じた言葉遣いなどについての知識を生かして話すこと。 (1)「自分の経験や知識を整理して考えをまとめ」 ①目的や話題に応じて自分の経験や知識を再構成して自分の考えを形成すること ②必要に応じて取材することはもちろん、改めて取材したり準備したりせずには話すことも想定している ③社会生活においては、まとまった話をする際、いつでも十分に取材したり構成を考えたりする時間があるとは限らない。そこで、自分自身の経験や知識の中に材料を求めることを示している (2)「語句や文を効果的に使う」 ①目的や場面に応じた言葉遣いをする ②聞いて分かりやすい語句を選ぶこと ③難語句や専門用語は易しい言葉に言い換えることなどが挙げられる (3)「説得力のある話をする」 ①社会生活では、会議における企画の提案など、相手を説得しなければならぬ場面が多くある ②中学校においては、自分の考えや意見を分かりやすく説明し、相手を説得する力を身に付けることが大切 ③説得力を増すために、語句や文の効果的な使い方を考え、工夫することが重要 (4)「資料などを活用して説得力のある話をする」 ①説得力を増すために、資料の見やすさや提示の仕方など、聞き手の理解を助けるための工夫をして話すこと ②機器の使用とも関連を図りつつ指導していくことが効果的 (5)「場の状況や相手の様子に応じて話す」 ①相手意識、場面意識を明確に持って話すことを意味する ②聞き手の人数や立場、年齢構成、会場の広さ等を踏まえた上で話の内容を構成し、話し方を工夫することが大切 ③聞き手のうなずきや表情などにも注意し、聞き手に自分の意図が十分伝わっていないと感じられた時には、分かりやすい語句に言い換えたり補足したりすることも大切 ④話の途中で聞き手に問いかけたり質問を促したりしながら、理解を深めていく働きかけをすることも効果的 (6)「敬語を適切に使うこと」 ○第2学年（伝道的な言語文化と国語の特質に関する事項）のイ(ア)を踏まえ、相手や場に応じて適切な言葉遣いをしていけるよう指導する

聞くこと	<p>エ 必要に応じて質問しながら聞き取り、自分の考えとの共通点や相違点を整理すること。</p> <p>(1)「必要に応じて質問しながら聞き取り」</p> <p>①必要に応じて質問し、相手が言いたいことを確かめたり、足りない情報を聞き出したりすること</p> <p>②その場の状況に応じて話の途中で質問したり、話が終わった時点で質問したりするなど、質問の適切な機会をとらえることができるように指導する</p> <p>(2)聞くことの指導においては、聞きながら考えたり、聞いたことを基に考えたりすることが重要</p> <p>(3)第1学年では、聞き取ったことを自分の考えと比べて、「共通点や相違点を整理」することを指導する</p> <p>(4)イの指導事項に関連付けて取り扱い、話の全体と部分、事実と意見との関係などに注意しながら聞くよう指導していくことが、話すことと聞くことの一体的な指導の上からも効果的</p>	<p>エ 話の論理的な構成や展開などに注意して聞き、自分の考えと比較すること。</p> <p>(1)「話の論理的な構成や展開などに注意して聞く」</p> <p>○話の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見をそれぞれ聞き分け、要点とどのような事実に基づいているのかをとらえ、話全体がどのようにまとめられているのか考えていくこと</p> <p>(2)「自分の考えと比較する」</p> <p>○話の論理的な構成や展開などに注意して聞くことを通して、自分の考えと比較し、賛成又は反対、納得できる又はできないなどの判断をしていくこと</p> <p>→そうすることで、自分の考えが広がったり、不十分な点に気が付いたりするようになる</p>	<p>ウ 聞き取った内容や表現の仕方を評価して、自分のものの見方や考え方を深めたり、表現に生かしたりすること。</p> <p>(1)「聞き取った内容」を評価する</p> <p>①話を聞いて内容を理解するとともに、意見や主張の根拠を確かめて判断したり、自分の考えや立場との違いを聞き分けたり、話の内容についてその意義や価値を考えて、自分の意思決定に役立てたりすることなどを意味する</p> <p>②異なる立場や考え方を尊重しつつ話を進めていく上で重要</p> <p>(2)「表現の仕方を評価」する</p> <p>①話の内容を理解するだけでなく、話し方に注意して評価しながら聞くこと</p> <p>②聞き手は、話に使われている語句や文にも、話し手の立場や人柄、心理などが反映していることに気付くものである</p> <p>③論理的な側面ばかりではなく、話し方から感じられる様々なニュアンスなど、情意面においても説得力が発揮されているという表現の効果に目を向けることが大切</p> <p>④話の論理的な構成や展開などの面だけでなく、語句や文の使い方、声の出し方や言葉遣い、資料や機器の活用の仕方などの検討も含んでいる</p> <p>(3)「自分のものの見方や考え方を深め」</p> <p>○聞き取った内容について理解して検討し、評価することを通して、自分自身のものの見方や考え方を見直したり深めたりすること</p> <p>(4)「表現に生かしたりする」</p> <p>○聞き取った内容や表現の仕方を評価し、その優れている点を取り入れて、自らの表現をよりよいものにしていくこと</p>
	話すこと	<p>オ 話し合の話題や方向をとらえて的確に話したり、相手の発言を注意して聞いたりして、自分の考えをまとめること。</p> <p>(1)建設的に話し合うことについて示している</p> <p>(2)「話し合の話題や方向をとらえて的確に」話す</p> <p>①誰と何について話し合うのか、何のために話し合うのかを理解し、今は何について話し合っているのかをとらえ、それに応じて話すということ</p> <p>②話し合いに参加する基本</p> <p>(3)常に「自分の考え」と比較し、考えをまとめていくことが大切であることを指導する</p>	<p>オ 相手の立場や考えを尊重し、目的に沿って話し合い、互いの発言を検討して自分の考えを広げること。</p> <p>(1)「目的に沿って話し合う」</p> <p>①相手の立場や考えを尊重し、目的や場面に応じて的確に話し合ったりすることが大切</p> <p>②互いの発言を検討して共通点や相違点を聞き分けたり、話題になっている物事について別の立場や視点から考えたりすることを通して、自分の考えを広げることができる</p>
言語活動例		<p>ア 日常生活の中の話題について報告や紹介をしたり、それらに関して質問や助言をしたりすること。</p> <p>イ 日常生活の中の話題について対話や討論などを行うこと。</p> <p>(1)日常生活の中の話題について報告や紹介をしたり、それらに関して質問や助言をしたりする言語活動</p> <p>①「報告や紹介」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝える事柄や事実と、それに対する自分の考えや感想などの関係に注意して話すことが大切 ・何のために報告したり紹介したりするのかという目的や、相手はその話題についてどのような点に関心があり、どのような情報を既に知っているかなどの状況によって、報告や紹介の仕方は変わってくる <p>②実際に報告したり紹介したりする場面では、聞き手から質問したり、内容や伝え方について助言し合う場を設けることで、表現の仕方や聞き方を互いに学び合うことが大切</p> <p>(2)日常生活の中の話題について対話や討論などを行う言語活動</p> <p>①「対話や討論」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話の要点をメモし必要に応じて質問しながら聞き取り、互いの共通点や相違点を整理することを通して、建設的な話し合いをすることが大切 ・討論のルールや形式、方法などについて(小学校で指導したものを踏まえて、日頃から少人数での話し合いを行ったりグループ学習などの際にも役割を分担したりするなど、既習の事項について様々な機会をとらえ習熟させていくことが大切 	<p>ア 調べたわかったことや考えたことなどに基づいて説明や発表をしたり、それらに関して意見を述べたりすること。</p> <p>イ 社会生活の中の話題について、司会や提案者などを立てて討論を行うこと。</p> <p>(1)調べたわかったことや考えたことなどに基づいて説明や発表をしたり、それらに関して意見を述べたりする言語活動</p> <p>①説明をする際は、説明の中でどこが大切なのか、何を伝える必要があるのかを意識し表現を工夫することが重要</p> <p>②発表をする際は、自分が調べたり考えたりしたことを聞き手に理解してもらえるように話すことや、聞き手から意見や質問、助言をもらうことが大切</p> <p>③聞き手は、事実と意見との関係や話の筋道を検討しながら聞き取り、分かりにくいところを質問したり、話の内容や話し方について意見を述べたりする</p> <p>(2)社会生活の中の話題について、司会や提案者などを立てて討論を行う言語活動</p> <p>①社会生活の中から多様なとらえ方や考え方ができる話題を取り上げ、司会や提案者などの役割を決めて話し合う</p> <p>②役割については小学校で指導している</p> <p>③司会は、討論が目的に沿って進むよう、提案や発言の内容を整理すること、提案者は、提案理由や提案の趣旨を明確にするとともに、異なる立場の考えを想定して、自分の考えを分かりやすく話すことが大切</p>

指導系統表の整理例 高等学校 [A 話すこと・聞くこと]

	国語総合	国語表現	現代文B	
科目の目標	<p>国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。</p> <p>(1)小学校及び中学校国語の目標を受け継いでいる</p> <p>②前段</p> <p>①国語による表現と理解の能力の育成(「国語総合」の基本的な役割)</p> <p>②人間と人間との関係の中で、互いの立場や考えを尊重しながら、言語を通して円滑に相互伝達、相互理解を進めていく能力=伝え合う力を高める(「国語総合」の中心的なねらい)</p> <p>③後段</p> <p>①思考力や想像力の伸長</p> <p>②豊かな感性や情緒(他人を思いやる心や感動する心)</p> <p>③言語感覚</p> <p>④表現の効果について適切に判断する能力</p> <p>⑤言語文化への関心</p> <p>⑥国語を尊重し、国語の向上を図る態度</p>	<p>国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。</p> <p>(1)前段</p> <p>①「国語で適切かつ効果的に表現する能力」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思想、感情、知識、情報などを ・国語総合の「適切に」「効果的に」を加えている <p>②「効果的に表現する」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適切な言葉の選択と使用とことまらず、自分らしさを十分にしながら、相手を納得させ共感も得られるような、説得力のある表現や感動を与える表現 <p>③「伝え合う力」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校、中学校及び「国語総合」と一貫して高めてきているこの力を、いっそう確かや豊かなものとする <p>(2)後段</p> <p>①「思考力」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・判断し、類推し、構成するなどの思考過程に関する能力 ・実際の言語活動によって育成され、想像につながっていく <p>②「想像力」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予測し、検討し、見直しをもって行動するために、豊かな感性や情緒を育むために、想像力を伸ばすことが大切 <p>③「言語感覚を磨く」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉の適切さや美しさなどを判断する感覚を洗練することで、表現の質を一段と高めること <p>④「進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語そのものや自らの言語の運用を省み、長所を伸ばし、不十分ところがあれば改善して国語の向上を図る態度を育成する ・人生を豊かにし、人間相互の理解を深め、社会生活の充実を図る態度を育成する 	<p>近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。</p> <p>(1)総合的な言語能力を育成する科目としての性格を一層明確にした</p> <p>(2)前段</p> <p>①教科の目標とは逆に、「的確に理解」するを、前に置いているのは、読むことを中心とする科目であることを示すため</p> <p>②文章を理解することは、書き手や文章中の人物のものの見方、感じ方、考え方に触れ、それについて思考したり、想像したり、批評したりする活動であり、そこには表現活動を伴うことが多い</p> <p>(3)理解と表現の能力を高める⇒日常的に、情報をとらえ、考察し、それをまとめて表現するために必要不可欠なこと</p> <p>(4)進んで読書する=小学校、中学校及び「国語総合」と一貫して「C読むこと」の領域を中心に、その指導を重視している</p>	
	話題設定・取材・構成	<p>ア 話題について様々な角度から検討して自分の考えをもち、根拠を明確にするなど論理の構成や展開を工夫して意見を述べること。</p> <p>(1)「話題について様々な角度から検討して自分の考えをもち」つ</p> <p>①述べるべき内容にかかわることを示している</p> <p>②意見の基となる事実や事柄などについての認識や、事実に対する自らの態度を自覚が必要</p> <p>(2)「様々な角度から検討」する</p> <p>○話題となる事柄について、資料などに当たり関係者にインタビューしたりして調べた内容を整理し、異なる立場に立って見つめ直したなどに基づいて、自らの判断を下すこと</p> <p>(3)「根拠を明確にするなど論理の構成や展開を工夫」する</p> <p>○意見の述べ方にかかわることを示し、自らの考えを、相手に的確に理解できるように筋道を立てて表現すること</p> <p>(4)「根拠を明確にする」</p> <p>○自らの意見が、確実な根拠に基づいたものであることや、その根拠から妥当な論理の展開で導き出されたものであることなど、相手に分かりやすく示すこと</p> <p>(5)「論理」</p> <p>○考えの筋道の通し方であり、意見を述べる際の条件の一つを取り上げて示した文言である。自らの考えを相手に伝える場合、一筋に、論理的に、分かりやすく、簡潔に、過不足なく、表現を整えてなどの条件が挙げられる</p> <p>(6)「構成」…話の組立て(話の骨組み)のこと</p> <p>(7)「展開」…話の進め方(話の筋道)のこと</p> <p>(8)「論理の構成や展開を工夫して意見を述べる」</p> <p>○自らの意見の根拠となる事柄を箇条に分けて示したり、考えをまとめるに至った過程をたどりながら説明したり、結論を簡潔にまとめて話したりするなどの工夫をして意見を述べること</p>	<p>ア 話題や題材に応じて情報を収集し、分析して、自分の考えをまとめてり深めたりすること。</p> <p>(1)「話題や題材に応じて情報を収集」する</p> <p>①必要な情報を見逃さず、その情報の入手方法についての知識をもっていることなどが必要</p> <p>②様々な情報には、マス・メディアあるいはインターネットなどを通じて接することができる</p> <p>(2)情報を「分析する」</p> <p>○収集した情報の正誤、適否などを吟味した上で、必要なものを適切に選択し整理すること</p> <p>(3)「自分の考えをまとめてり深めたりする」</p> <p>○収集し分析した情報を基にして、自分の考えを適切な形にまとめたり、事実についての認識や事実向き合う態度を自らの内部に形成したりすること</p>	<p>エ 目的や課題に応じて、収集した様々な情報を分析、整理して資料を作成し、自分の考えを効果的に表現すること。</p> <p>(1)「目的や課題に応じて、収集した様々な情報を分析、整理して資料を作成」する</p> <p>①設定した課題などに応じて収集した様々な情報を、分析したり整理したりして、効果的に表現するために資する資料を作成すること</p> <p>②社会に氾濫している膨大かつ多種多様な情報の中から、目的や課題に応じた情報を適切に収集することのできる能力、収集した情報を的確に理解し、その価値を判断し、選択する能力、自分にとって利用しやすい形や内容に整理し資料を作成する能力を育成する必要がある</p> <p>(2)「自分の考えを効果的に表現する」</p> <p>①設定した課題を活用し、自分の考えがよく伝わるよう、論拠を明示するなどして分かりやすく表現するとともに、目的や場面にふさわしく表現すること</p> <p>②収集し整理した情報は、表現する際に資料として活用することで生きたものとなる</p> <p>(3)情報を使いこなして、表現する能力を身に付けるための指導を充実させる必要がある</p>
		話すこと・聞くこと	<p>イ 目的や場に応じて、効果的に話し手と聞き手と聞き取りすること。</p> <p>(1)話すこと・聞くことの指導では、話し手だけでなく、聞き手の存在が意味をもつ</p> <p>(2)話し手と聞き手の相互の関係により、話すこと・聞くことが成立することから、音声言語の学習として一体的に行うことを求めている</p> <p>(3)「目的や場に応じて」</p> <p>①何のために、だれに向かかって、どのような条件で話すのかを考慮、それらにふさわしくということ</p> <p>②「場」とは、話すことが実際に行われる個々の様々な状況を目指す</p> <p>③言語で表現する際には、その目的のみならず相手、場面、方法など、伝達にかかわる物事の多様性に対応して様々な工夫をする必要がある</p> <p>④伝達という言語活動が言語外の物事によって条件づけられて成立するものであることに留意する必要がある</p> <p>(4)「効果的」</p> <p>①伝達すべき内容がよく伝わるよう、資料や機器なども用いながら分かりやすく表現すること</p> <p>②目的や場面にふさわしい表現をするということ</p> <p>⇒中学校までの敬語の学習を踏まえ、より適切な待遇表現ができるよう指導する</p> <p>(5)「的確に聞き取る」</p> <p>①話し言葉に含まれている多くの情報や事柄の中から、聞き手が必要なことを、間違いなく、過不足なく聞き取る</p> <p>②聞き分ける、聞き入る、味わって聞くなどの活動、そのいずれにも聞き手の思考や判断が伴うとともに、聞こえようとする積極的な態度が大切</p>	<p>エ 目的や場に応じて、言葉遣いや文体など表現を工夫して効果的に話したり書いたりすること。</p> <p>(1)「言葉遣い」の工夫</p> <p>①目的に応じた用語の選択、相手に応じた待遇表現の選択、場の状況や用いる機器に応じた話し方の選択などを適切に行う</p> <p>②相手との関係によって成り立つものであり、相手との関係をつくり維持したりするもの</p> <p>③相手の立場を尊重し、相手の考えをよく理解するとともに自分の考えをはっきり述べることにつながる</p> <p>(2)「文体」の工夫</p> <p>○同じ内容の情報を話し言葉で伝えるか書き言葉で伝えるかの選択、場に応じた言葉の選択(くだけた言葉遣いをするか改まった言葉遣いをするかの選択、常体を用いるか敬体を用いるかの選択、和語を多くするか漢語を多くするか(漢字遣いなど)、文章の形式的な選択(章や節の構成の仕方、箇条書きや項目分け、見出しの付け方など)を適切に行う</p> <p>(3)「など」</p> <p>○はがき、封書、電子メールなどのメディアの選択などもあることを示している</p>

<p>話し合いの話し</p>	<p>ウ 課題を解決したり考えを深めたりするために、相手の立場や考えを尊重し、表現の仕方や進行の仕方などを工夫して話し合うこと。</p> <p>(1) 「課題を解決したり考えを深めたりするため」 ○話し合うことの意味、合意を形成したり思考の深化を図ったりすることであることを示している</p> <p>(2) 「相手の立場や考えを尊重し」て話し合う ①相手の考えを的確に理解する必要がある ②相手が話している考えには、その基となる事実や事柄、考えを形成する過程がある ③それらを的確に理解することが大切である ④相手の意見を無批判に受け入れることではなく、相手の考えの要点を自分なりに整理すること、相手の示す根拠の適否などを確かめるために質問すること、相手の意見と自分の意見との共通点や相違点についてまとめることなどを通して、考えの相対化を図る必要</p> <p>(3) 「表現の仕方」 ①話の構成や展開、言葉遣いなどを工夫して話し合うこと ②論理的な側面ばかりではなく、表情や視線、声の調子などの情意的な側面にも配慮する</p> <p>(4) 話し合いの「進行の仕方」 ○少人数での話し合いにおいても司会者や提案者などを立てるようにすることや、すべての参加者が話し合いの経緯を振り返ったりこれからの展開を考えたりするなど、話し合いの進め方について、指導の工夫をすることが大切</p>	<p>イ 相手の立場や異なる考えを尊重して課題を解決するために、論拠の妥当性を判断しながら話し合うこと。</p> <p>(1) 「異なる考えを尊重」する ○社会生活においては、自らのものの見方、感じ方、考え方を単に主張するだけでなく、自分とは異なる考えを丁寧に聞き、それを尊重することも大切</p> <p>(2) 「課題を解決するため」 ○話し、聞くという双方向性を有する活動を通して、合意を形成することが求められる</p> <p>(3) 「論拠の妥当性を判断」する ①相手の発言を聞いて、その根拠となる事実、判断の拠り所、話の筋道などの妥当性を判断すること ②自ら述べようとする意見や主張についても、なぜそうした論理の展開が可能なのか、その論理を支える根拠は適切であるのかなどを不断に判断することも指す ⇒このことが、他者の視点に学びつつ自らの考えを確かめなものにすることにつながる</p>	<p>③ 「反論を想定して発言したり疑問点を質問したり」 ・課題によって、事前に調査したり情報を分析したりして、自分の考えをまとめておくこと ・資料を用意することが必要な時もある ・自分の考えや意見を根拠を明確にして論理的に述べることに資する ・相手の立場や考えをできるだけ尊重して、様々な意見を聞き合うことにもなる ・建設的な話し合いや討論を行い、考えがまとまっていない事柄について合意を図ったり、よりよい方向性を見いだしたりすることにつながる</p>
<p>交流・評価</p>	<p>エ 話したり聞いたり話し合ったりしたことの内容や表現の仕方について自己評価や相互評価を行い、自分の話し方や言葉遣いに役立てるとともに、もの見方、感じ方、考え方を豊かにすること。</p> <p>(1) 「書くこと」の1の1のエとの関連を考えて指導する</p> <p>(2) 「話したり聞いたり話し合ったりしたことの内容や表現の仕方」は「自己評価や相互評価を行う」の対象を示している</p> <p>(3) 評価する対象 ①中学校・聞き取った内容や表現の仕方 ② 「国語総合」…話したことや話し合ったことにまで範囲を広げる</p> <p>(4) 「自己評価や相互評価」 ①自分や他者の表現を客観的に吟味、評価する能力を育成し、表現する能力を一層伸ばすことに役立つ ② 「相互評価」は、生徒同士の交流の活性化を促し、他者のもつ価値観などと出会う契機ともなる ③これらの能力を育成するためには、個々の生徒の実態に十分配慮した学習過程を設定し、互いに学び合う態度や、互いの評価を認め合う雰囲気や大事にするなど、適切な指導が必要</p> <p>(5) 「自分の話し方や言葉遣いに役立てる」 ○主に表現の仕方についての評価を通して得たことを、実際の場面における話し方や言葉遣いに活用すること</p> <p>(6) 「話し方」については、話の内容を的確に伝えるために、速度や抑揚間の取り方など、話すことにかかわる技能「言葉遣い」については、目的や場に応じて言葉遣いの適否を判断する能力などを身に付ける必要がある ○聞き手の反応の程度に応じた用語の選択（専門的な術語を用いるか、一般的な言葉を用いるかなど）、相手に応じた待遇表現の選択、場面の状況、用いる機器に応じた話し方の選択など</p> <p>(7) 「もの見方、感じ方、考え方を豊かにする」 ①話の内容について評価したことを通じて、生徒が、自らのもの見方、感じ方、考え方を見直したり、深めたり、広げたりすること ②話の内容には、人間、社会、自然などに対する、話し手の様々な思いや考えが込められている ⇒それらを的確に理解して意義や価値を判断したり、優れた洞察力や想像力に触れて感動したりすることが、生徒のもの見方、感じ方、考え方を豊かにすることにつながる</p>	<p>オ 様々な表現についてその効果を吟味したり、書いた文章を互いに読み合ったりして、自分の表現や推察に役立てるとともに、もの見方、感じ方、考え方を豊かにすること。</p> <p>(1) 「様々な表現」 ①文章の種類や類型における多様性 ・「文章」…文語文と口語文、韻文と散文、和文体の文章と漢文体の文章と翻語体の文章、実用的な文章と芸術的な文章、論理的な文章と情情的な文章などがある ②修辭的観点における多様性 ・「表現技法」…比喩、反復、倒置、省略、対句など ・「文章の構成や展開」…頭語型や尾語型、演繹法や帰納法など ・イントネーションや声の強弱、間（ポーズ）の取り方など</p> <p>(2) 「効果」 ①文章や話し言葉がその場の目的のために発揮する効果 ②表現主体がその個性を発揮し、その場の目的を達成するために意図した効果 ③個々の表現の技法が表現全体を構成する上で発揮する効果</p> <p>(3) 「吟味」する ○様々な表現に触れ、対象を分析的に読んだり聞いたりして、それぞれの表現が発揮している効果を検討すること</p> <p>(4) 交流…「国語総合」の相互評価を行うことを踏まえ、批評する</p> <p>(5) 「自分の表現や推察に役立てる」 ①交流などによって得た成果を、自らの書くことの活動や、書いたものを推敲する活動に生かすこと ②「国語総合」で指導している自分の表現に役立てるだけでなく、推察に役立てることも明示している</p>	<p>オ 語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辭などの表現上の特色をとらえ、自分の表現や推察に役立てること。</p> <p>(1) 「国語総合」（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）(1)イ(イ)を踏まえる (2) 語句の意味、用法や語彙の指導については、言葉による認識の可能性を広げ、思考を深く感受性を豊かにすることに一層つなげていく必要がある (3) 「文体」 ①文章を典型的にとらえる立場 ②書き手の個性が表れたものととらえる立場 (4) 「修辭」 ①書き手が自分のもの見方、感じ方、考え方を、より効果的に表現しようとする言語的な活動 ②漢字、平仮名、片仮名、ローマ字といった文字表記 ③和語、漢語、外来語の中からの適切な用語の選択 ④文体の選択 ⑤文章の構成や展開の選択 ⑥比喩、反復、倒置、省略、対句など表現の技法 (5) 言語的な活動や技法を理解し、適切につなごうことは、話したり書いたりする活動を豊かにすること (6) 「自分の表現や推察に役立てる」 ○上記のことを、自ら表現する際や推察する際に使いこなすことを示している</p>
<p>言語活動例</p>	<p>ア 状況に応じた話題を選んでスピーチしたり、資料に基づいて説明したりすること。</p> <p>イ 調査したことなどをまとめて報告や発表したり、内容や表現の仕方を吟味しながらそれらを開いたりすること。</p> <p>ウ 反論を想定して発言したり疑問点を質問したりしながら、課題に応じた話し合いや討論などを行うこと。</p> <p>(1) スピーチや説明をする言語活動 ① 「スピーチ」 ・目的や場に応じて、話題に対する話し手の意見や考えを相手に分かりやすく伝えることが重要 ・「状況に応じた話題を選」ぶことを前提としている ② 「説明」 ・具体例や根拠などを示しながら、話す内容を分かりやすく伝える必要がある ・資料は文章だけでなく、図表も含めて幅広く考える必要がある ・話し手からの一方的な言語活動にならないよう、場などを十分に意識して、効果的な話し方をするに留意する必要がある ・その話題が聞き手にとって、既知のものか未知のものか、興味のあることかそうでないことかなどによって、また、話す場面や費やすことのできる時間などによって、話題の取り上げ方、話す内容の深さ、用いる語句、音量や声の調子などがある程度規定されてくる ③ スピーチや説明は、諸条件をとらえ、場に応じて臨機応変に調整しつつ行う言語活動である ④ スピーチや説明の言語活動の過程においては、話し手に対し、聞き手から確認したり質問したりすることも適宜取り入れ、話し手と聞き手双方の交流の中で学習が効果的に進むよう配慮する</p> <p>(2) 報告や発表をしたり、それらを開いたりする言語活動 ① 「報告や発表」 ・伝えるべき内容をいかに効果的に聞き手に対して伝えていくかということが重要 ・報告や発表をするために「調査したことなどをまとめる」ことを前提としている ・調査では、人間、社会、自然にかかわる現象、精神的な活動、社会的な活動などがその対象 ・続きは、「現代文B」の「話し合うこと」の欄へ</p>	<p>ア 様々な考えが出来る事柄について、幅広い情報を基に自分の考えをまとめ、発表したり議論したりすること。</p> <p>(1) 発表や討論をする言語活動 ① 「様々な考え方ができる事柄」 ・社会生活において直面する事柄は、一つの考え方に集約できることばかりではない ② 「幅広い情報を基に自分の考えをまとめる」 ・自分の考えを相対化し、異なる立場や考え方に思いを巡らし、反論を想定する ③ 「発表」や「討論」 ・必ず具体的な相手が存在し、その相手に向かって言語活動を行う ・相手の立場や状況などを把握して、自分の考えを分かりやすく伝えることができるよう工夫する ・聞き手も、論点の明確さ、主張や論拠の妥当性、例示の適切さなどに注意しながら、相手の話を聞くことが大切 ・話し手と聞き手とが対等に意見を交換し合う討論だけでなく、発表の場合でも、話し手に対して、聞き手が聞き返したり尋ねたりする学習を適宜組み込む必要がある ・相手意識を明確にし、話し手と聞き手双方の交流の中で学習が効果的に進むよう配慮することが大切</p>	<p>ア 文学的な文章を読んで、人物の生き方やその表現の仕方などについて話し合うこと。</p> <p>エ 文章を読んで関心をもった事柄などについて課題を設定し、様々な資料を調べ、その成果をまとめて発表したり報告書や論文集などに編集したりすること</p> <p>(1) 人物の生き方や、その表現の仕方などについて話し合う言語活動 ① 自分はどうしてそのように読み取ったのか、どうしてそのような考えや感想をもったのかなどを、文章中の表現を取り上げながら話すことや、相手の話の内容の妥当性を判断しながら聞いたり、分からないところを質問したりすることなどが大切 ② 話題としては、描写に関するものも含めるようにする ③ 話し合いにおいては、ペアやグループで話し合い、様々な意見を聞きながら自分の考えを深めることが大切 ④ 話し合った内容を発表して、ホームルーム全体で話し合いを更に深めることもできる ⑤ このような交流を通して、読みを深化させる必要がある</p> <p>(2) 課題を探究し、成果を発表したり編集したりする言語活動 ① 様々な資料を調べるとは、学校図書館、地域の図書館、インターネット、現地に出かけて取材したりするなど、情報を収集、整理し、それについて分析、考察を行うことである ② 報告書や論文集の編集に当たっては、一人の生徒のものを編む場合、グループごとやホームルーム全体など、複数の生徒のものを編む場合などがある ③ この言語活動は、生徒を学問の入り口に立たせることになり、大学や社会で調査研究活動を行い、成果を発表する礎となる</p>

「話すこと・聞くこと」の指導事項「目的や場に応じて、言葉遣いや文体など表現を工夫して効果的に話したり書いたりすること」は、「交流・評価」でも指導する

同一言語活動の系統表例 「スピーチ」

段階	話題設定	取材	話すこと（構成や内容）	話すこと	聞くこと
小学校 低学年	<ul style="list-style-type: none"> ○学校生活や家庭での日常生活など身近なこと ○自分が経験したこと 	<ul style="list-style-type: none"> ○必要な事柄を思い出す ○ノートやカードに書き出す ○話題を具体化する 	<ul style="list-style-type: none"> ○話し ○問いかけ ○まとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ○相手＝教師や友達、幼稚園児や保育園児 ○ペアから小グループ、学級全体へ広げる ○言葉遣い ○主語、述語、順序を表す言葉（まず、次に…） ○姿勢 ○口形（正しい発音） ○声の大きさ、速さ 	<ul style="list-style-type: none"> ○あいづちを打ったり聞き直したりする ○興味をもって聞く ○話し手が知らせたいと思っっている事柄の大事なことを聞く ○自分が聞きたい事柄の大事なことを聞く
小学校 中学年	<ul style="list-style-type: none"> ○学校や家庭、地域のことなどで興味や関心のあること（学校や地域の催し、季節にちなんだ行事…） ○一つの話題に絞っていく ○各教科で行う観察や実験、調査などを取り上げることでも考えられる ○図表や絵、写真などを取り上げる 	<ul style="list-style-type: none"> ○本や文章を読む ○人に聞く ○図表や絵、写真などを見る ○調べたことの要点をメモする 	<ul style="list-style-type: none"> ○話したいことや聞きたいことを明確にする（話題、問いかけ、まとめ） ○メモを活用して内容を整理し相互関係を考える ○なぜそのような考えになったのかという根拠や事例を挙げる ○関心を抱いた理由 ○話したいことや聞きたいことを明確にする（まとめ、問いの答え、自分の考え） 	<ul style="list-style-type: none"> ○相手＝異学年や地域の人々 ○丁寧な言葉遣い（敬体と常体） ○聞き手の反応を見ながら話す ○身振りや手振り ○言葉の抑揚や強調 ○間の取り方 ○まとまった発表の時は、発表原稿を書く 	<ul style="list-style-type: none"> ○話している事柄の順序、組み立て方を意識しながら、話の要点を聞く ○分からないことや確かめたいことを質問すること ○自分の感想や意見を述べる ○自分の経験と結び付けて ○自分の考えと比較しながら ○友達が読み取ったことに妥当性があるか ○新たに得た情報を自分の考えに生かす
小学校 高学年	<ul style="list-style-type: none"> ○日常生活の中で考えたことや特に伝えたいと思うこと 	<ul style="list-style-type: none"> ○得た知識や情報を関係づけて活用する ○メモやノートの内容を比較、対照、関連付け、分類して自分の考えに生かす ○話題を練り直し、目的や意図を一層明確にする ○個人で考えたいこと、グループや学級で考えたいことを明確に書き留めておく 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の意図、相手の意図 ○事実と感想、意見とを区別 ○概説、結論付け（話題、問いかけ、まとめ） ○根拠や事例、エピソード ○必要な文言や数値の引用 ○図解 ○重要語句の定義付け ○資料の提示 ○自分の意図、相手の意図 ○事実と感想、意見とを区別 ○概説、結論付け（まとめ、問いの答え、自分の考え） 	<ul style="list-style-type: none"> ○相手＝同学年や異学年、全校児童や学校外の人々 ○声量や速度 ○抑揚や間の取り方 ○改まった言葉や丁寧な言葉 ○敬体と常体の使い分け ○音声の使い方（声色） ○語や文の使い方 ○表情、仕草 ○共通語と方言を比較、対照 	<ul style="list-style-type: none"> ○話の意図は何か ○自分に伝えたいことは何か ○共に考えたいことは何か ○自分の考えと比べ、共通点や相違点、関連して考えたことなどを整理し、自分の考えをまとめる

配当時数			5	8	7	7	8	5	4	7	5
教科書教材名			5 友だちをみんなに紹介しよう	8 おう	7 言葉を探検する	7 う	8 よう	5 探る	4 自分の魅力を伝えよう	7 合おう	5 よう
1年時数（年間15～25時間）											
2年時数（年間15～25時間）											
3年時数（年間10～20時間）											
(1) 指導事項			スピーチ	パッション	ボクサージュ	プレゼンテーション	検定(検定)	インタビュー	スピーチ	会議	ショー&テル
話題設定や取材	ア	日常生活の中から話題を決め、話したり、話し合ったりするための材料を人との交流を通して集め整理すること。		○	○						
	ア	社会生活の中から話題を決め、話したり話し合ったりするための材料を多様な方法で集め整理すること。	○				○	○			
	ア	社会生活の中から話題を決め、自分の経験や知識を整理して考えをまとめ、語句や文を効果的に使い、資料などを活用して説得力のある話をする。							○	○	
話すこと	イ	全体と部分、事実と意見の関係に注意して話しを構成し、相手の反応を踏まえながら話すこと。	○		○						
	ウ	話し速度や音量、言葉の調子や間の取り方、相手に分かりやすい語句の選択、相手や場に応じた言葉遣いなどについての知識を生かして話すこと。	○	○	○						
	イ	異なる立場や考えを想定して自分の考えをまとめ、話の中心的部分と付加的な部分などに注意し、論理的な構成や展開を考えて話すこと。					○	○			
	ウ	目的や状況に応じて、資料や機器などを効果的に活用して話すこと。				○	○	○			
	ア	社会生活の中から話題を決め、自分の経験や知識を整理して考えをまとめ、語句や文を効果的に使い、資料などを活用して説得力のある話をする。							○	○	○
	イ	場の状況や相手の様子に応じて話すとともに、敬語を適切に使うこと。							○		
聞くこと	エ	必要に応じて質問しながら聞き取り、自分の考えとの共通点や相違点を整理すること。	○	○	○						
	エ	話の論理的な構成や展開などに注意して聞き、自分の考えと比較すること。				○					
	ウ	聞き取った内容や表現の仕方を評価して、自分のものの見方や考え方を深めたり、表現に生かしたりすること。							○	○	○
話し合うこと	オ	話し合いの話題や方向をとらえて的確に話したり、相手の発言を注意して聞いたりして、自分の考えをまとめること。		○	○						
	オ	相手の立場や考えを尊重し、目的に沿って話し合い、互いの発言を検討して自分の考えを広げること。					○	○			
	エ	話し合いが効果的に展開するように進行の仕方を工夫し、課題の解決に向けて互いの考えを生かし合うこと。								○	○
(2) 言語活動例	ア	日常生活の中の話題について報告や紹介をしたり、それらを聞いて質問や助言をしたりすること。	★		★						
	イ	日常生活の中の話題について対話や討論などを行うこと。		★							
	ア	調べて分かったことや考えたことなどに基づいて説明や発表をしたり、それらを聞いて意見を述べたりすること。						★			
	イ	社会生活の中の話題について、司会や提案者などを立てて討論を行うこと。					★				
	ア	時間や場の条件に合わせてスピーチしたり、それを聞いて自分の表現の参考にしたりすること。							★		★
	イ	社会生活の中の話題について、相手を説得するために意見を述べ合うこと。								★	
○	その他				★						

単元構想表の書き方



〇〇校第〇学年単元構想（発行者名；「教材名」）

日付
作成者 所属・氏名

【児童・生徒の実態】

【身に付けさせたい力】

- この単元で身に付けさせたい力に関わって、何が身に付いていて、何が身に付いていないのか。
- この単元における身に付けさせたい力や言語活動に関わって、どのような学習歴があり、その結果どうだったのか。（学習の様子や学習の結果）
- この単元で児童生徒にプラスしたいものは何か。

- ◎「読むこと」の目標:どんな目的や意図に応じて
- どんな能力を身に付けさせるのか(内容の記号)
- 内容すべてではなく、本単元で取り上げる中心となる内容を取り上げる

【単元の言語活動】

言語活動例を参考にしながら、この単元における言語活動を具体的にまとめる。

【言語活動の特徴】

- 取り上げた言語活動の一般的な特徴を説明する。
- 構想者が創意工夫を凝らして考えた言語活動であれば、その言語活動について読者が理解できるようにその様式や内容について説明する。
- 言語活動の特徴や様式・内容が身に付けさせたい力を付ける上で、どのように有効なのか説明する。
- 言語活動の特徴や様式・内容と身に付けさせたい力との関連から、どのように指導したいのか説明する。

- 1. 単元名** ○教科書単元にとらわれず、児童生徒の実態や興味・関心、身に付けさせたい力から単元名を付けること。
- 言語活動と身に付けさせたい言語能力をミックスさせて考える。
 - 児童生徒が理解できる表現とし、単元名は児童生徒にも示す。

- 2. 単元の目標** この単元の学習を終えた時に、児童生徒がどのような姿になっていけばよいのかを想定して、文末表現を「～できる」という形で表す。

3. 単元の評価規準

- 「読むこと」の単元では、【国語への関心・意欲・態度】、【読む能力】、【言語についての知識・理解・技能】⇒高等学校では【知識・理解】の3観点はず設定すること。
- 複合単元とする場合に、【話す・聞く能力】や【書く能力】を加える場合もある。
- 国立教育政策研究所「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」を参考として設定する。
- 「指導事項×言語活動」で、具体的に設定する。

(例)小学3・4年 書くこと

指導事項イ 「～段落相互の関係などに注意して文章を構成すること」

言語活動例イ 「疑問に思ったことを調べて報告する文章～」

評価規準 △段落相互の関係などに注意して、「はじめ—中—おわり」の文章構成を考えている。(不十分)

- 「調査目的や方法—調査結果—そこから考えたこと」など、調査報告文の構成上の特徴を踏まえて、構成を考えている。

- 4. 教材** 共通教材、並行読書教材等、この単元で使用する教材名を記す。
並行読書教材等は、可能な限り出版社名等も記す。

5. 単元の展開 (全 ○ 時間)

次	時	学習活動	言語活動に関する指導上のポイント (○) 学習活動に即した評価規準 (関・読・言) 等
第0次		<p>○すべての単元に位置付ける必要はないが、児童生徒を単元の学習に誘う段階として工夫が求められる。</p> <p>○単元の学習に入る前に、単元の言語活動や学習材について児童生徒の興味・関心を高めたり、学習内容について考えさせたり予備知識をもたせたりすることが考えられる。</p>	
第1次	第1時	<p>①読書目的を確認したり, ②表現モデルを分析したりする。</p> <p>○単元の導入にあたる。児童生徒の興味・関心を高める工夫や、児童生徒に単元の学習過程や学習のゴールを見通させる工夫が求められる。</p> <p>③単元の学習計画を立てる。</p> <p>○必要に応じて単位時間を設定する。</p>	<p>□特に、【関心・意欲・態度】は、本時の評価規準として設定したい。</p> <p>○言語活動のモデルが重要である。</p> <p>☞モデルの質が言語活動充実の決め手</p> <p>教師が自分の知識・技能や経験のみに頼って作成するのではなく、本や新聞、プロのアナウンサーや役者など、実社会で評価されているものを手本として、子どもの実態に合わせてモデルを作成することが望ましい。実社会からモデルとなる表現を子ども自身が探す工夫も考えられる。</p> <p>☞大切なのは単元を貫いていること</p> <p>例えば、「感想を読書会で交流しよう」という言語活動を設定したとする。モデルを示すとすれば「読書会のモデル」である。しかし、「感想の書き方」をモデルとしている授業に出会うこともある。</p>
	第2時	<p>④目的と表現を意識して読んだり, ⑤自分で表現したり, ⑥交流したりする。</p> <p>○目的を意識して読むことや、読みの視点に従って読むこととなる。読みの視点は、指導事項からも設定できる。(中学2年の例＝例示や描写、言動の意味、構成や展開、表現の仕方…)</p> <p>○段落ごと詳細に読んでいく指導が多く見受けられたが、必ずしも第一段落から最終段落まで順番に詳細に読み取っていくことが読解力を高める指導とはならない。</p> <p>○個性を生かした表現となるような指導の工夫として、語彙(評価・判断を表す言葉、感情を表す言葉…)や文末表現(事実、考察、意見…)の使い分け、レトリックなどの指導の充実が考えられる。</p> <p>○グループや個人で表現したものを検討する。「目的が何であったか、表現者の意図と表現の結びつきはどうか、読みの視点の確かさはどうか、表現のよさがどこにあるか」等について意見を交流させたい。</p>	<p>□【関心・意欲・態度】や【読む能力】、【言語についての知識・理解・技能】を本時の評価規準として設定する。</p> <p>□必ずしも、毎時間すべての観点を設定する必要はない。</p> <p>□単元の評価規準をそのまま設定したり、単元の評価規準を分割したり具体化したりして設定する。</p> <p>○第3次の言語活動につながる並行読書をさせることが考えられる。</p> <p>○内容と形式の両面を読むことに留意したい。</p> <p>○学級全体で教師が中心となって子どもの発言をつなげるような交流ではなく、ペアやグループで、子どもどうしで充実した交流ができるように指導を工夫する必要がある。</p> <p>○「何を明らかにするか(交流の視点)、協議か討論か(意見をひとつにまとめるか複数に分類するか)」、「交流後にどのように発表するか、司会や記録などの役割分担をどうするか」を明確にする。</p> <p>○交流のモデルを示すことも工夫の一つとなる。</p>
第3次	第3時	<p>⑦自分の好きなもので表現したり, ⑧みんなで交流したり, ⑨学習を振り返ったりする。</p> <p>○「何を学んだか、上手く表現できたか、今後の読書生活に生かしたいことや継続して考えたいことは何か、分からなかったこと・できなかったことは何か」等の成果や課題を確認する。</p>	<p>□単元の構想にふさわしく、【関心・意欲・態度】や【読む能力】、【言語についての知識・理解・技能】を本時の評価規準として設定したい。</p> <p>○自分の力をさらに高め、実生活に生きてはたらくかに結び付けることができるように工夫する。</p> <p>○交流の際は、ペアやグループ編成を変えることも考えられる。</p> <p>○次単元への課題を明らかにし、学びの連続性を意識する。</p>
	第4次	<p>○すべての単元に位置付ける必要はないが、児童生徒の国語に対する興味・関心を高めたり、実社会に役立つ有用感を味わわせたりする段階として工夫が求められる。</p> <p>○学級の学びを同学年や他学年に広げたり、家庭や地域に広げたりすることが考えられる。大切なのは発信するだけでなく、受け手の感想など学習に対する評価を、児童生徒にフィードバックすることである。</p>	

○この研究では、単元の段階を3段階と考え、単元の導入を第1次、単元の展開を第2次、単元の終末を第3次と呼ぶこととする。これに付け足して、単元の学習(授業)に入る前段階を第0次、単元の学習(授業)後あるいは発展的段階を第4次と呼ぶこととする。

【引用文献】

- *1 井上一郎 (2008), 『話す力・聞く力の基礎・基本』, 明治図書
京都市立御所南小学校 (2011), 『学校大好き！コミュニティ・スクール』, 御所南コミュニティ
京都市立御所南小学校 (2010), 『学校大好き！コミュニティ・スクール』, 御所南コミュニティ
水戸部修治 (2013), 「単元を貫く言語活動を位置付けた授業づくり」(初等教育資料5月号p52~55), 東洋館出版社
文部科学省 (2008), 『小学校学習指導要領解説総則編』, 東洋館出版社
文部科学省 (2008), 『中学校学習指導要領解説総則編』, ぎょうせい
文部科学省 (2009), 『高等学校学習指導要領解説総則編』, 東山書房
文部科学省 (2008), 『小学校学習指導要領解説国語編』, 東洋館出版社
文部科学省 (2008), 『中学校学習指導要領解説国語編』, 東洋館出版社
文部科学省 (2010), 『高等学校学習指導要領解説国語編』, 教育出版

【参考文献】

- 井上一郎 (2013), 『記述力がメキメキ伸びる！小学生の作文技術』, 明治図書
井上一郎 (2013), 『思考力・読解力アップの新空間！学校図書館改造プロジェクト』, 明治図書
井上一郎 (2010), 『言語活動例を生かした授業展開プラン 低学年』, 明治図書
井上一郎 (2010), 『言語活動例を生かした授業展開プラン 中学年』, 明治図書
井上一郎 (2010), 『言語活動例を生かした授業展開プラン 高学年』, 明治図書
井上一郎 (2009), 『知識・技能を活用した言語活動の展開』, 明治図書
井上一郎 (2008), 『話すこと・聞くことの基本の能力の育成』, 明治図書
井上一郎 (2008), 『話す力・聞く力の基礎・基本を育てる—小学校—上巻』, 明治図書
井上一郎 (2008), 『話す力・聞く力の基礎・基本を育てる—小学校—下巻』, 明治図書
井上一郎 (2007), 『読む力の基礎・基本—17の視点による授業づくり—』, 明治図書
井上一郎 (2005), 『誰もがつけたい説明力』, 明治図書
井上一郎 (2005), 『「読解力」を伸ばす読書活動』, 明治図書
井上一郎 (2002), 『文学の授業力をつける』, 明治図書
井上一郎 (2002), 『ことばが生まれる—伝え合う力を高める表現単元の授業の作り方—』, 明治図書
上條晴夫 (2009), 『ワークショップ型授業で国語が変わる 小学校』, 図書文化
上條晴夫 (2008), 『ワークショップ型授業で国語が変わる 中学校』, 図書文化
上條晴夫 (2007), 『ワークショップ型授業が子どものやる気を引き出す』, 学事出版
樺山敏郎 (2015), 『実践ナビ！言語活動のススメ 教科書授業Wプラン 低学年編』, 明治図書
樺山敏郎 (2015), 『実践ナビ！言語活動のススメ 教科書授業Wプラン 中学年編』, 明治図書
樺山敏郎 (2015), 『実践ナビ！言語活動のススメ 教科書授業Wプラン 高学年編』, 明治図書
樺山敏郎 (2013), 『実践ナビ！言語活動のススメ モデル30』, 明治図書
国立教育政策研究所 (2011), 『評価規準の作成, 評価方法等の工夫改善のための参考資料【小学校国語】』, 教育出版
国立教育政策研究所 (2011), 『評価規準の作成, 評価方法等の工夫改善のための参考資料【中学校国語】』, 教育出版
国立教育政策研究所 (2012), 『評価規準の作成, 評価方法等の工夫改善のための参考資料【高等学校国語】』, 教育出版

富山哲也 (2013), 『〈単元構想表〉が活きる! 中学校新国語科授業&評価 GUIDE BOOK』, 明治図書

富山哲也 (2011), 『〈単元構想表〉でつくる! 中学校新国語科授業 START BOOK 第1学年』, 明治図書

富山哲也・杉本直美 (2011), 『〈単元構想表〉でつくる! 中学校新国語科授業 START BOOK 第2学年』, 明治図書

富山哲也・三浦登志一 (2011), 『〈単元構想表〉でつくる! 中学校新国語科授業 START BOOK 第3学年』, 明治図書

長根いずみ (2015), 「説明する力を高める指導の工夫」(国語教育9月号), 明治図書

長根いずみ (2014), 「楽しんで『話す・聞く』授業の創造—漫才のプロから学び、話し方チャンピオンを目指す—」(実践国語研究7月号), 明治図書

長根いずみ (2013), 「『読書ボード』で本を推薦する—生徒が目的をもって楽しく読書する単元づくり」(実践国語研究7月号), 明治図書

長根いずみ (2012), 「報道記事で紹介する『竹取物語』—生徒が目的をもって楽しく古典に触れる単元をつくる」(実践国語研究5月号), 明治図書

西辻正副 (2013), 『国語の授業を変える2 評価規準をどう生かすか 高校国語総合編』, 明治書院

二瓶弘行 (2011), 『二瓶弘行の国語授業のつくり方』, 東洋館出版社

二瓶弘行 (2011), 『二瓶弘行の「物語 授業づくり 一日講座」』, 文溪堂

二瓶弘行 (2010), 『二瓶弘行の「説明文一日講座」』, 文溪堂

水戸部修治 (2013), 『小学校国語科授業&評価パーフェクトガイド』, 明治図書

水戸部修治 (2011), 『小学校国語科言語活動パーフェクトガイド 1・2年』, 明治図書

水戸部修治 (2011), 『小学校国語科言語活動パーフェクトガイド 3・4年』, 明治図書

水戸部修治 (2011), 『小学校国語科言語活動パーフェクトガイド 5・6年』, 明治図書

水戸部修治・鯨井幹夫 (2011), 『小学校 新学習指導要領の授業 国語科実践事例集1・2年』, 小学館

水戸部修治・鯨井幹夫 (2011), 『小学校 新学習指導要領の授業 国語科実践事例集3・4年』, 小学館

水戸部修治・鯨井幹夫 (2011), 『小学校 新学習指導要領の授業 国語科実践事例集5・6年』, 小学館

盛岡市立城南小学校 (2011), 『平成23年度国語科授業実践記録集』, 城南小学校

盛岡市立月が丘小学校 (2012), 『平成24年度学校公開研究会 研究紀要』, 月が丘小学校

盛岡市立見前南中学校・盛岡市立永井小学校・盛岡市立見前南小学校 (2013), 『学校公開研究会 研究紀要』, 見前南中・永井小・見前南小

安居總子・東京都中学校青年国語部会 (2005), 『中学校の読書指導 読書生活者を育てる』, 東洋館出版社

横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校 (2013), 『思考力・判断力・表現力等を育成する指導と評価Ⅲ』, 学事出版

横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校 (2012), 『思考力・判断力・表現力等を育成する指導と評価Ⅱ』, 学事出版

横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校 (2011), 『思考力・判断力・表現力等を育成する指導と評価Ⅰ』, 学事出版

横浜市小学校国語教育研究会 (2010), 『小学校国語 豊かな言語活動を図る単元の構想』, 東洋出版社

横浜市立白幡小学校 (2013), 「平成25年度研究発表会 研究概要パンフレット」, 白幡小学校

横浜市立白幡小学校 (2011), 『平成23年度PSY研究発表会 研究紀要』, 白幡小学校

横浜市立並木中央小学校 (2012), 『国語 言語活動 実践アイデア集』, 小学館

横浜市立並木中央小学校 (2012), 『研究紀要 第7号』, 並木中央小学校

おわりに

このガイドブックは、平成27年度に総合教育センターで発行したものです。

学習指導要領国語科改訂の趣旨に「実生活で生きてはたらき、各教科等の学習の基本ともなる国語の能力を身に付けることに重点を置いた授業改善を図ること」とあり、具体的な内容として「社会生活に必要とされる発表、討論、解説、論述、鑑賞などを行う能力の育成を重視すること」や「言語活動を通して指導事項を指導すること」など、授業改善の方向性が示されています。このことについて、全国的に学習指導要領を具体化する授業についての研究や実践が広がりつつあり、本県においても同じような状況にあるものの、その研究や実践が十分であるとは言い切れません。特に、児童生徒の12年間の学びの連続性の意識や、単元の言語活動の充実を図る授業づくりについての理解には、まだまだ課題があると感じています。

このような状況を改善するには、学習指導要領の趣旨を踏まえた授業についての理論と実践例をまとめることにより、目指すべき授業像や授業づくりの手法についての理解を広めていく必要があると考えました。そこで、この研究では、学習指導要領や先行研究等を基に、小学校、中学校、高等学校の指導の連続性や単元の言語活動を位置付けた授業づくりに視点を当てた「学習指導要領を具体化する小・中・高等学校国語科の授業づくりガイドブック」を作成し、研修講座や研修会及び、校内授業研究会等での活用を促進することによって、小・中・高等学校国語科の授業改善に役立てようとするものです。

この研究は、平成25年度に指導主事1名、小学校教諭3名、中学校教諭3名、高等学校教諭3名、計10名の共同研究員、平成26年度に小学校教諭2名、中学校教諭2名、高等学校教諭2名、計6名の研究協力員とともに進めました。そして、平成27年度は小学校教諭3名、中学校教諭3名、高等学校教諭3名、計9名の先生方にご協力いただき、「読むこと」「書くこと」「話すこと・聞くこと」3領域についてガイドブックをまとめることができました。協力いただいたすべての先生方と所属するすべての学校に深く感謝申し上げます。

このガイドブックには、前文部科学省教科調査官の井上一郎先生や富山哲也先生、文部科学省教科調査官の水戸部修治先生、前国立教育政策研究所学力調査官の樺山敏郎先生、筑波大附属小学校の二瓶弘行先生から複数年・複数回にわたって学んだ内容が色濃く反映されています。5名の先生方のご指導に厚くお礼申し上げます。

このガイドブックは、「平成27年度版」とあるように、今後も諸方面の方々からの疑問や意見をお聞きしながら、小・中・高等学校の先生方が活用しやすく日常の授業づくりの改善に役立てることができるように、さらに改訂を重ねていきたいと考えています。

平成 27 年度版学習指導要領を具体化する小・中・高等学校国語科授業づくりガイドブック
コミュニケーション能力を高める「話すこと・聞くこと」編

平成 27 年度研究協力員（所属と職名は平成 28 年 3 月末日現在）

小野寺 清 子	矢巾町立煙山小学校教諭
芳 賀 雅 之	大船渡市立大船渡北小学校教諭
糸 坪 伸 宏	久慈市立久慈小学校教諭
苫米地 俊 亮	盛岡市立黒石野中学校教諭
西 澤 孝 司	岩手大学教育学部附属中学校教諭
吉 田 亜矢子	陸前高田市立横田中学校教諭
熊 谷 裕 子	岩手県立紫波総合高等学校教諭
高 橋 美紀子	岩手県立西和賀高等学校教諭
陳ヶ岡 海	岩手県立岩谷堂高等学校教諭

なお、教育センターにおいては、次の者が作成に当たった。

長 根 義 広	岩手県立総合教育センター教科領域教育担当主任研修指導主事
横 田 昌 之	岩手県立総合教育センター教科領域教育担当研修指導主事

平成 27 年度版 学習指導要領を具体化する小・中・高等学校国語科授業づくりガイドブック
コミュニケーション能力を高める 「話すこと・聞くこと」編

発 行 岩手県立総合教育センター 教科領域教育担当

〒025-0395 岩手県花巻市北湯口 2-82-1

☎0198-27-2735

発行日 平成 28 年 2 月 10 日

